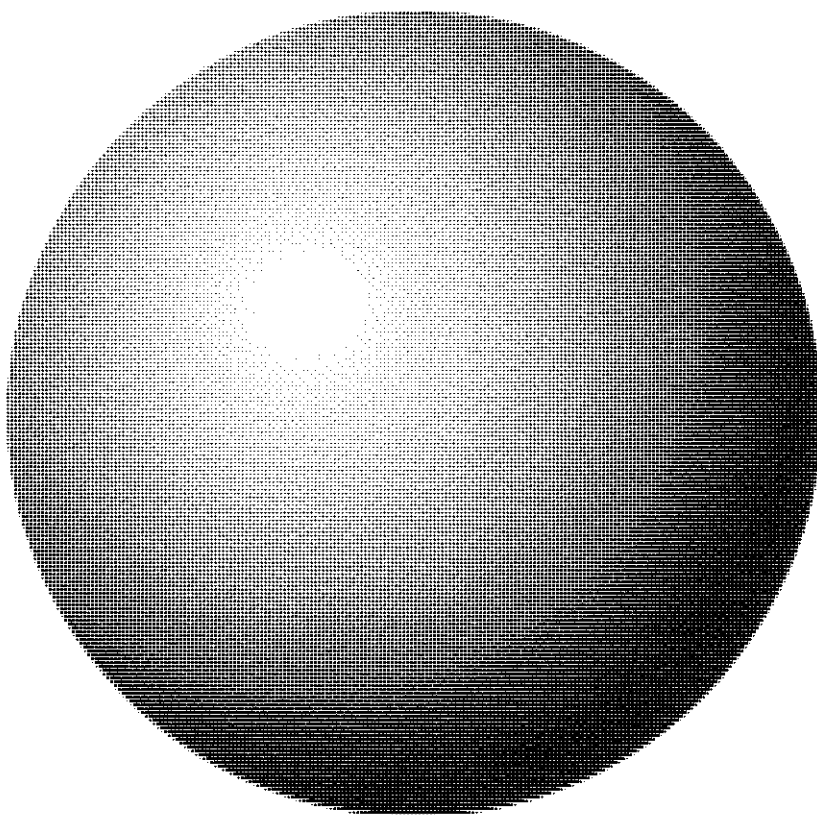


平成15年度 文化庁日本語教育研究委嘱



**日本語教員の能力水準の経年変化に関する
実証的調査研究**

2004年3月

財団法人 日本国際教育協会
Association of International Education, Japan

はじめに

昭和62年度に開始された日本語教育能力検定試験は、当時日本国内外で急増していた日本語学習者および日本語教育機関に対し、日本語の教育・普及という観点から、日本語教育の専門家として求められる高い知識を有する日本語教員を安定的に供給すべく、文部省（当時）の指導により、財団法人日本国際教育協会が実施してきました。

本試験は開始以来、毎年1回実施しており、第16回目に当たる平成14年度までに日本語教育の世界に送り出した合格者の数は、17,000名余りになります。

財団法人日本語教育振興協会がまとめた「平成15年度日本語教育施設実態調査 結果報告」によると、平成15年7月現在で認定されている日本語教育施設の数388あり、そこで日本語教育に携わる教員の数は5,640名にのぼり、そのうちの3,122名（約55%）が本試験の合格者ということになっています。

本協会は、このような社会的にも期待の大きい試験を実施するに当たり、日本語教育の専門家として最低限有すべき能力を適正に測定するため、試験問題の作成および試験実施には最大の注意を払っております。

特に、本試験により合格者が必要とする能力が的確に測定されたか否かを把握し、より完成度の高い試験に改善していくために、第1回目の試験からその応答結果を統計学的に分析・評価し、翌年度の試験問題作成に反映させております。

この度、文化庁から「日本語教員の能力水準の経年変化に関する実証的調査研究」の委嘱を受けたことにより、平成4年度から14年度までの11年分に当たる本試験受験者の応答結果データを分析し、受験者の反応から見た日本語教員に求められる資質の傾向および日本語教員に求められる知識や教育内容について、大学入試センター名誉教授の清水留三郎先生をはじめとする本試験各分野の専門家の先生方に、それぞれのアプローチで研究していただきました。

本研究の成果が、この試験が今後更に発展していくための礎となり、本書が、日本語教師養成機関や本試験関係者の皆様方にとって座右の書となることを期待しています。

平成16年（2004年）3月

財団法人 日本国際教育協会
理事長 福田 昭 昌

目 次

日本語教育能力検定試験制度について……………	財団法人日本国際教育協会 事業部試験課検定試験係 ……	1
日本語教育能力検定試験の得点の集大成について…	清水 留三郎（前 大学入試センター研究開発部）…	5
筆記試験Ⅰ……………	小矢野 哲夫（大阪外国語大学）…	6
筆記試験Ⅱ……………	細川 英雄（早稲田大学）……………	16
記述問題……………	西原 鈴子（東京女子大学）……………	28
聴解試験……………	王 伸子（専修大学）……………	32
資料編……………		37
日本語教育能力検定試験 実施要項及び実施状況（昭和62年度～平成14年度）… 39		
（平成4年度～14年度日本語教育能力検定試験 応答分析結果より）		
分布の表現法……………	清水 留三郎（前 大学入試センター研究開発部）…	44
①各科目の受験者成績の経年変化（四分位等の推移）……………		46
②各年の4科目成績から見た合格者と不合格者の特徴（四分位等）……………		51
③各年の4科目における合否識別状況（四分位等）……………		62
④各年の大問の難易度と能力識別度（上位群と中位群の大問得点率）……………		73
⑤各科目の各年における科目別成績と大問成績の相関（大問得点率分析図）……………		79
⑥各年の設問の難易度と能力識別度（上位群と中位群の設問正答率）……………		107

※本書には平成4年度～14年度の試験問題及び解答を掲載しておりません。入手をご希望の方は、下記にお問い合わせください。なお、年度によっては品切れの場合もあります。

〔問い合わせ先〕

平成4年度～8年度「日本語教育能力検定試験 試験問題」 出版元：(株)凡人社 03-3263-3959

平成9年度～14年度「日本語教育能力検定試験 試験問題」 出版元：(株)桐原書店 03-3314-8181

日本語教育能力検定試験制度について

財団法人 日本国際教育協会 事業部試験課検定試験係

1. 制度創設の背景と試験の実施

昭和50年代に入り、日本語を学習する外国人の数は、外国人留学生の数の着実な伸びと共に著しく増加し、それに伴い、日本語教員の数もかなりの増加を示していた。

文化庁の調べによれば、国内における日本語学習者の数は、昭和50年に10,429人であったのに対し、昭和58年には25,938人と2倍以上に増えており、また、海外における日本語学習者の数は、昭和49年に77,827人であったのに対し、昭和57年には405,779人と、こちらは5倍以上の伸びとなっていた。

また、このような日本語学習者の増加に伴い、日本語教員数も同様に増え、国内では、昭和50年に1,031人であったのに対し、昭和58年には2,341人、海外にあっては、昭和49年に2,254人であったのに対し、昭和57年には5,890人となっていた（海外の数は、外務省・国際交流基金の調べによる。）。

そして、「21世紀への留学生政策懇談会」が、昭和58年8月、21世紀初頭における我が国の留学生受入れの規模を先進国並みにするという、いわゆる「留学生受入れ10万人計画」を発表したことにより、その後の外国人留学生の増加に拍車がかかることが予想され、従って、外国人留学生の増加が、引き続き日本語学習者の総数の増加の重要な要因となるであろうと考えられていた。

このような状況の中で、必要とされてくる日本語教員の数も、国内、海外ともに著しく増加することが見込まれたため、日本語教員養成機関の計画的な整備・充実を図る必要が出てきた。

昭和58年当時、日本国内における日本語教員養成機関としては、大学及び大学院が19、一般の日本語教員養成機関が21あったが、その教育内容、教育水準、学習期間等は養成機関ごとにまちまちであり、統一的な基準も設けられていなかった。

そこで、国内外における日本語学習者数の増大、特に外国人留学生受入れ数の飛躍的増大に対処するため、文部省に設けられた「日本語教育施策の推進に関する調査研究会」は、昭和60年5月に出した「日本語教員の養成等について」（報告）の中で、日本語教員の養成とともに、日本語教員は高い資質・能力を必要とする専門職であり、その資質・能力の向上に資するため、「日本語教員検定制度」を設ける必要があると提言した。

文部省は、上述したような状況及びこの提言の趣旨を踏まえ、昭和60年9月、「日本語教員検定制度に関する調査研究会」を発足させ、検定制度実施の具体的方策の検討に着手し、昭和62年4月、同研究会から「日本語教員検定制度について」の報告を受けた。

その骨子は次のとおりである。

ア．日本語教員には、国際的感覚と幅広い教養、豊かな人間性、日本語教員としての自覚と情熱、日本語教育に関する専門的知識・能力等が要求される。

しかし、日本語教員検定はこれらの資質・能力のすべてについて審査するものではなく、受験者の日本語教育に関する知識・能力が日本語教育の専門家として必要とされる水準に達しているかどうかを審査し、証明するものとして実施する。

そして、日本語教員として必要とされるその他の資質・能力は、日本語教育機関の設置者等が、日本語教員を採用する際に審査することが適当である。

イ．この検定は、日本語教員となるための資格を付与するものではないが、これにより、日本語教員の専門性の確立とその待遇の改善、日本語教育の水準の一層の向上に資することが期待されている。

ウ．以上の基本的な考え方を踏まえ、具体的方策として、◎試験のレベル、◎受験資格、◎試験の内容・方法について提言している。

以上のような経緯を経て、本協会は上述した二つの報告の趣旨を踏まえつつ、昭和62年度、第1回目の日本語教育能力検定試験（以下「検定試験」と言う。）を実施するに至った。

2. 制度の概要

本協会が「昭和62年度日本語教育能力検定試験実施要項」により、昭和63年1月に初めて実施した日本語教育能力検定試験制度の概要は、次のとおりである。

(1) 目的

外国人に日本語を教える日本語教員の専門性の確立と日本語教育の水準の向上に資するため、日本語教員となるために学習している者、日本語教員として教育に携わっている者等を対象として、その知識及び能力が日本語教育の専門家として必要とされる水準に達しているかどうかを審査し、これを証明することを目的としている。

(2) 実施団体

財団法人日本国際教育協会が主催し、実施する。

(3) 受験資格

学歴は問わない。ただし、試験が行われる年度の4月1日における年齢が20歳以上であること。

(4) 試験のレベル（内容と水準）

試験の内容・水準は、日本語教員として最低限必要な専門的知識・能力を習得させることを目的とする大学の学部における日本語教員養成副専攻課程と同等程度とする。

(5) 試験の出題範囲

大きく四つの領域が示され、それぞれに細かく主要項目が示されている。領域を示すと次のとおりである。

- 1-1 日本語の構造に関する体系的、具体的な知識
日本語学（概論、音声、語彙・意味、文法・文体、文字・表記）
- 1-2 その他日本語に関する知識
言語生活、日本語史
- 2 日本事情（古典と文芸を含む）
- 3 言語学的知識・能力
言語学概論、社会言語学、対照言語学、日本語学史・日本語教育史
- 4 日本語の教授に関する知識・能力
教授法、教育教材・教具論、評価法 実習

(6)試験実施地

東京

(7)試験結果の通知

合否の結果は、受験者全員に文書をもって通知する。

(8)合否証書の交付

合格者には、試験結果の通知とともに、合格証書を交付する。

3. 制度の変遷

昭和62年度に、第1回の検定試験を実施して以降、第16回目に当たる平成14年度まで、本協会はこの制度の根本部分の変更を行っていない。

実施要項は各年度毎に制定しているが、改正したところは次のとおりである。

(1)昭和63年度

- ①名称を「日本語教育能力検定試験（文部大臣認定）」に改めた。
- ②試験実施地に、大阪を加えた。

(2)平成2年度

試験実施地に、福岡を加えた。

(3)平成3年度

試験問題を公開とした。

(4)平成8年度

試験実施地に、北海道を加えた。

(5)平成13年度

文部科学大臣認定が廃止され、新たに社団法人日本語教育学会の認定を受けた。

4. 制度の現状

(1)受験者数の推移

この制度の発足した昭和62年度以降の受験者数は、年度によって多少の増減はあるものの順調に増え続け、平成4年度においてピーク（6,846人）を迎え、その後は一転して減少し始め、平成13年度に至るまでその減少傾向は続いた。

外国人留学生の受入れ数は平成8年度にいったん減少することになったが、その後の入国審査・手続きの簡素化・合理化等により、再び以前の勢いを取り戻した。

それと共に、日本語教育機関数及び日本語教員数も増え続けていたが、反面、検定試験自体の受験者数はそれ程増えることはなかった（下表参照）。

その原因を分析したところ、やはり民間の日本語学校及びそこで働く日本語教員を取り巻く環境の厳しさが厳然としてあったこと、また、日本語教育の場が多様化している中で、検定試験の出題内容が、知識偏重で日本語教育に必要な実践的能力を十分測定することができていないという、ある意味制度疲労を起こしている状況等が考えられた。

そこで、文化庁の「日本語教育のための試験の改善に関する調査研究協力者会議」において、検定試験が抱える課題が討議され、平成13年3月に出された提言により、それまでこの試験が想定していた大学学部の日本語教員養成副専攻課程修了程度という水準が、現実に日本語教員に求められる知識・能力には対応できていないという現状に照らし、現行の水準を保ちながらも、日本語教育の世界により多様な人材の参加が期待でき、幅広い知識とより実践的な能力を測定するため、平成15年度の試験より受験資格や出題範囲を大幅に見直すことになった。

平成13年度から14年度にかけて受験者数が増加に転じたのは、この試験内容の大幅な改定を前にした、いわゆる「かけこみ受験」という見方も出来るが、新しく生まれ変わった検定試験に対しても、今後、日本語教員志望者また教員養成に携わる人達の関心が大きく集まることが予想される。

（表）留学生受入数及び日本語学習者数等推移（昭和62年～平成14年）

年	留学生受入数	日本語学習者数	日本語教育機関数	日本語教員数	検定試験受験者数
昭和62年	22,154	43,368	496	4,843	4,758
昭和63年	25,643	64,020	634	6,723	4,597
平成元年	31,251	72,486	744	7,924	5,405
平成2年	41,347	60,601	821	8,329	5,143
平成3年	45,066	62,895	882	8,853	6,224
平成4年	48,561	69,950	955	9,671	6,846
平成5年	52,405	76,940	1,143	11,142	6,792
平成6年	53,787	83,220	1,512	16,036	6,153
平成7年	53,847	83,541	1,527	16,276	5,911
平成8年	52,921	79,798	1,658	19,114	5,986
平成9年	51,047	—	—	—	5,824
平成10年	51,298	83,086	1,592	19,693	5,272
平成11年	55,755	93,331	1,633	23,048	5,729
平成12年	64,011	95,049	1,497	20,691	5,858
平成13年	78,812	119,166	1,589	24,289	5,549
平成14年	95,550	126,350	1,625	27,372	6,154

※データは文部科学省及び文化庁の調査による（平成9年度は一部データ無し）

日本語教育能力検定試験の得点の集大成について

清水 留三郎（前 大学入試センター研究開発部）

経緯

外国人に日本語を教育するための教員の養成に関して、日本の大学の副専攻程度における教育課程の検討が終了したのを受けて、その内容を出題範囲とする「日本語教育能力検定試験」が、試行試験を経て、昭和62年度から実施された。

出題形式の大部分は多肢選択であるが、解答を400字程度記述させる問題が筆記試験Ⅱの最後に置かれた。この記述解答は、平成3年度まで受験者全員について採点されていたが、受験者の増加に伴って合否の通知期日の維持が困難になり、平成4年度から多肢選択問題の得点が上位の約半数の受験者についてのみ採点されることになった。

更に、日本の大学における日本語教育学関係学科の充実を受けて、前記教育課程の改定が行われたのに合わせて、日本語教育能力検定試験の出題範囲と科目構成も平成15年度から改定された。

そこで、この期に試験が同じ条件で実施された平成4年度から14年度までの11年間の得点分布を集大成した。その上で、それらの得点も参考にしながら、出題の中心になった方々に、出題の上での受験者への期待とそれに対する受験者の反応等、主として日本語教育能力検定試験が果たした役割について振り返って頂いた。

筆記試験Ⅰ

小矢野 哲夫（大阪外国語大学）

1. 出題範囲

筆記試験Ⅰの出題範囲は極めて広範囲にわたっている。このことは、昭和62年4月10日付で日本語教員検定試験制度に関する調査研究会が提示した「日本語教員に必要な知識・能力」の表にも表れている。この表の中の項目は以下の4つである。

- 1－（1）日本語の構造に関する体系的、具体的な知識
- 1－（2）日本人の言語生活等に関する知識・能力
- 2 日本事情
- 3 言語学的知識・能力
- 4 日本語の教授に関する知識・能力

これらのうち、2と4を除く項目が筆記試験Ⅰの出題範囲となる。科目名としては、以下のように例示されている。

- 1－（1）日本語学（概論、音声、語彙・意味、文法・文体、文字・表記）
- 1－（2）言語生活、日本語史
- 3 言語学概論、社会言語学、対照言語学、日本語学史

試験の内容・水準は、「日本語教員として最低限必要な専門的知識・能力を習得させることを目的とする大学の学部における日本語教員養成副専攻課程と同等程度とする」とされている。しかし、平成4年度以降、経年的にみると、内容・水準が高度化・専門化してきていることが読み取れる。単に平均点が平成7年度を頂点にして低下の傾向を示していることだけが理由ではない。出題内容を検討することによって、実感できるのである。このことは、出題内容が過去の問題と重複しないように配慮するため、「最低限必要な」という内容・水準を維持することが難しくなっていたことを意味している。と同時に、昭和62年度に第1回の検定試験が始まって平成14年度までの16回の試験を経る中で、日本語教育の質的向上を図るという意図も読み取ることが出来るのではないだろうか。

日本語教員養成副専攻課程の標準的な単位数は、1－（1）が10単位、1－（2）が2単位、3が4単位の、合計16単位と設定されている。

講義科目の場合、一般的に、1単位は1週1時間15週（15時間）の授業と、予習・復習を含む30時間の自宅学習の、合計45時間として計算される。したがって、筆記試験Ⅰの出題範囲に関して、16単位を履修するためには、15週間で720時間の授業及び自宅学習が必要となるのである。授業と予習・復習で1日8時間学習するとして、90日間必要という計算になる。これだけの学習を行った人を対象に日本語教員としての知識・能力を検定するのである。

しかしながら、日本語教員として身につけておくべき知識と能力は限定的なものではないはずである。たえず学習を継続して知識を増やし、能力を向上させることが望まれる。本検定試験においても、経年的に成長・発展してきており、内容・水準が次第に高度化することは避けられないものと考えられる。

2. 受験者に期待する知識・能力

前節の出題範囲で言及したように、日本語教員として求められる知識は筆記試験Ⅰだけでも広範囲にわたっている。専門的な知識はそれぞれの分野における概説書・入門書の類でもある程度身につけることができる。時には専門的な論文や著書を読んで理解することも求められる。しかしながら、概説書・入門書であっても、取り組み方次第で、知識の獲得の度合いが大きく異なってくる。教員は、学習者に分かるように教育をするのが本来である。学習者に分かるということは、日本語教員自身がその内容を十分に理解していることが前提になる。十分な理解は、用語を暗記するといった表面的な知識では達成できないものである。その用語の実質的な内容を、全体的な視野のもとに位置づけて把握する必要がある。概説書を読み、かつ、その内容を、説明するという作業を通して、自分自身の知識がより確実なものとして定着することになる。これは、経験的に真実であると思われる。たとえば、大学の学部3年生より、4年生のほうが知識の定着度が高い。大学院生の場合は、学部の学生よりも高い。すなわち、繰り返しの学習と発展的な学習によって、内容面での深まりが増してくるのである。

次に、能力について述べる。教育現場で例文の提出や言い換え練習などをしたり、学習者の質問に答えたりするためには、知識はもちろん必要だが、その知識を体系的に把握する能力も必要とされる。場当たりの説明では学習者に対する十分な対応とは言えない。また、どこに問題があるのかという着眼点を的確に把握することも、知識に裏付けられた能力である。的はずれなところに着眼して対応すると、收拾のつかない事態を招くことにもなりかねない。このような能力は、たとえば、過去の問題や問題集に取り組む過程で、その問題が何を問うているのかという点に着目して、その事例を深く分析したり、さらに発展的な事例を考えたりすることによって養われる。1回限りの解答作業だけでなく、それを契機にして対象となる現象の全体像を把握する努力の積み重ねの上に能力の育成と向上が期待できるのだと考えられる。

3. 出題内容と成績

平成4年度から平成14年度まで、各年度の試験問題を、難易度・識別性に基づいて取り上げ、出題の意図と受験者に期待する知識・能力の観点から分析してみたい。

●平成4年度

問題6は文を構成する観点から述語の特質をとらえようとする問題である。述語が個体を表す概念[I]と一緒に文[S]を完成するものを自動詞的表現として[I→S]と表記し、他動詞的表現を[I→[I→S]]と表記するという、ふだん見かけない一般式を使って考えさせようとするものである。各設問の間で難易度に大きな開きが出ている。簡単な式で表せるものは正答率が高く、複雑な式で表すものは正答率が低くなっている。問1(4)は中位群の正答率が26.88で、かなり難しい問題だが、上位群の正答率との差が36.33と大きく離れており、よく理解して正答に至っている受験者とそうでない受験者との識別性が高い問題である。文法的な知識だけでなく、文法的な考え方をどの程度身につけているかを計るのにふさわしい問題だといえよう。

問題8は従属節の三つの類、「～ながら」類、「～たら」類、「～けれど」類それぞれの

文法的な性質の違いを問う問題である。問1(3)は三つの類相互の関係を問うもので、相当高度な文法的分析能力が求められている。結果は、中位群の正答率が18.41でかなり低い、上位群との差が30.93あり、識別性が高い問題である。これも、単なる知識だけでは解答できないものであり、具体的な例文を想定して検証しながら判断するという高度な文法的説明能力が問われている。

●平成5年度

問題5は敬語の運用に関するものである。「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」といった呼称に関する知識は常識的なものであり、中位群の正答率が97.50で、上位群との差が1.62であり、日本語教育能力の有無に関する識別性は低い。しかしながら、文の主語となる人物、話し手、聞き手の相互関係を把握する、実的な運用の適否を問う問2では、謙譲語の一つの型である「話し手が、『～を』『～に』『～のために』などに当たる人を高めて言い、その結果として主語である話し手自身のほうが低められることになるもの」を答える問題は、中位群の正答率が33.36で上位群との差が36.91と開き、識別性が高くなっている。この問題では、「話し手が、『～を』『～に』『～のために』などに当たる人を高めて言い」の理解がカギとなっている。この部分にも目を向けて判断するには高い能力が求められる。

●平成6年度

問題4は動詞の分類に関するものである。このうち、問5は自動詞と他動詞との対応の関係を問うもので、有対他動詞、有対自動詞、無対他動詞、無対自動詞、自他両用法動詞に該当する動詞の例を問うている。それぞれ例示された動詞がどの型に属するものであるのかを検証していくと正解が導かれるが、上位群と中位群との正答率の差が5問中4問が30%を超えており、あとの1問も25.26で、識別性が高い。特に、無対他動詞については、中位群の正答率が41.27で、上位群との差が37.93と、極めて高い識別性を示している。

●平成7年度

この年度は筆記試験Ⅰの平均点をもっとも高い70%である。この中から、比較的難度の高い問題で、しかも識別性の高い問題を拾ってみる。

問題1(2)は五段活用動詞の有無という観点から、カ行、タ行、ナ行、ハ行、マ行のうちから、他と性質の最も異なるものを選ぶ問題である。中位群の正答率が38.83で、上位群との差が36.13である。正答はハ行だが、これは古語のハ行四段活用動詞であって、現代語の五段活用動詞には存在しないものである。古典文法の基礎的な知識をみる問題であるが、上位群と中位群との間に大きな開きを作る結果となっている。日本語教員の知識としては最低限、持っていてほしいものである。

問題1(14)は可能表現の意味に関するもので、能力可能と状況可能の区別が問題となっている。可能表現の形式に関する知識だけでは不十分であり、文全体から、その形式がどちらの可能であるのかを判断することが求められている。中位群の正答率が43.06で、上位群との差が31.39と、高い識別性を示している。

問題5は反義語の対立のしかたによる細分を問い、それぞれに該当する語の対を求めるものである。このうち、「登校ー下校」の正答率が、他のものに比べて低い。「あがるーさがる」「近づくー遠のく」のような例を出して「変化にかかわるもの」と示して、これの一般化を問う部分では「空間的に逆方向への移動を表す」という正解が中位群で90.78あり、上位群との差も6.26と、識別性が極めて低いが、「登校ー下校」の対がこの型に分類されるということとの関係は十分には把握されていないことを示している。具体的な語の対がどの型に属するのかということは、限られた対で理解できても、それ以外の例がどのように属するのかといった幅広い事例の把握が求められている。

●平成8年度

問題4は*deixis* (ダイクシス) *1を扱っている。出題された当時、あまりなじみのない概念であったと思われるが、そのせいか、成績はあまりよくなかった。しかしながら、用語の新しさとは関係なく、出題内容自体はそれほど難度の高いものとは思われない。

問1(1)は、「私」「来る」のような語が「発話の場面」にかかわる要因に言及しなければ、その意味を説明できないという特徴を把握出来ていればあとは比較的容易に解答できるはずであるが、中位群の正答率が34.92で上位群との差が16.88と、正答率は全体的に低くなっている。このことが他の設問の正答率にも影響を及ぼしていて、問1(3)の「テンス」の正答率が、中位群で16.46、上位群との差が0.08と、識別性には貢献していない。現在、この種の出題がなされると、正答率はもっと上がっているのではないかと思われる。概念の新しさ、文法的な考え方の新しい観点が平成8年度当時、まだ十分に理解されていなかったと考えることもできる。日本語教員には、基礎的な分野での新しい知見にも目配りをするのが求められる。

問題5は語の文法的な形と文法カテゴリーに関するものである。いわゆる学校文法の考え方では理解しにくい考え方であるが、日本語教育においては十分に活用出来る考え方である。

問2は、(2)「男の子が運動場で遊んでいる。」、(3)「彼の本はあまり面白くなかった。」、(4)「彼は学生だろう。」それぞれの下線部の述語の種類を問うものである。(2)の正答率は中位群で47.70、上位群との差が40.52、(3)の正答率は中位群で51.38、上位群との差が36.76、(3)の正答率は中位群で36.59、上位群との差が46.53、と、識別性が極めて高い結果となっている。この問のカギは、問題文にある「述語を形成する品詞によって」の部分にある。ここをきちんと把握していれば、(1)が動詞述語、(2)が形容詞述語、(3)が名詞述語であることは簡単に分かるはずだが、述語の文法的な形のほうに着目した受験者は、それぞれ、「テイル形述語」、「否定述語」、「推量述語」を選択したものと考えられる。ここで、上位群と中位群との間に大きな差が生じたのであろう。文法用語の概念をきちんと把握し、問の本質を把握する能力を問題として取り上げた良問であると評価することができる。

*1 発話の状況において、話し手の視点(わたくし・いま・ここ)を基準にして動作や指示をとらえる性質のこと。

●平成9年度

この年度の筆記試験Ⅰの平均点は平成4年度以降一番低く、初めて6割を切った。その要因として正答率の低い問題が複数(問題7, 問題8, 問題13)あったことが考えられる。しかしながら、正答率が低いということが必ずしも難問であるというわけではない。日本語教員として持つておくべき知識・能力が問われているのである。

問題7は日本語の動詞の活用について問うものである。(1)は五段活用動詞が「子音動詞」と呼ばれる理由を問うているが、いわゆる学校文法の知識しか持っていない受験者は戸惑うかもしれない。しかし、日本語教育文法では「子音動詞」や「語幹子音動詞」「強変化動詞」*2といった用語が使われており、語幹の把握が大切なこととして考えられている。中位群の正答率が56.36で、上位群との差が30.34と、識別性が高い。(2)は五段活用動詞が活用する行の数を問うている。これは単純な知識の問題であるとともに、動詞の活用する行をウ段の文字でたどってみただけで解答を導くことができる。中位群の正答率が18.73で、上位群との差が13.63と、識別性は高いとはいえない低い正答率である。受験者の虚をついた問題なのだろうか。(3)は音便現象がどの動詞で発生するかを問うている。これも常識的な知識の部類だが、中位群での正答率が47.42で、上位群との差が32.32と、識別性がかなり高い。「1 五段活用でしか発生しない現象」と「2 五段活用動詞では必ず発生する現象」のどちらかを選ぶことになると思われるが、サ行五段活用動詞では音便が発生しないという例外がある。一般的な規則と、それに対する例外を確実な知識として身につけているかどうか問われている。(4)は辞書形の末尾が「る」になる動詞で、五段活用動詞だけに見られる特徴が、「る」の前の母音の種類によって決定できることを問うている。iとeの場合は一段活用の場合もあり、uの場合は不規則活用動詞の場合もあり、「oの場合は必ず一段活用動詞」というありえない選択肢を無視すれば、正答は必然的に「aの場合は必ず五段活用動詞」に行き着くことになる。しかし、中位群の正答率が30.76で、上位群との差が22.03と、識別性はある程度あるものの、低い正答率となっている。(5)は平安時代の日本語に9種類あった活用のうち、現代語で五段活用になったものを問うものである。古典文法の基礎的な知識に属するものであるが、中位群の正答率が20.19で、上位群との差が12.69と、識別性が低く、全体的に低い正答率となっている。平成7年度のところでも言及したが、古典文法についても基礎的な知識は有用である。

問題8は従属節の従属度の高さに関するものである。平成4年度にも類似の問題が出題されている。中でも(2)(4)(6)の正答率が低い。

(2)は従属度の低い「～スルガ」と同類のものを「スルノデ、スルナラ、スルノニ、スルト、スルシ」の5つの選択肢から選ばせるものである。中位群の正答率が13.06で、上位群との差が11.92と、識別性が低く、全体的に正答率が低い結果となっている。従属節の従属度については研究がかなり進んでおり、何が問題なのかということ把

*2 学校文法で「五段活用動詞」とされているもので、動詞の語幹の末尾が子音になるもの。例えば「話す」は「hanas-u」, 「乗る」は「nor-u」のように分析し、それぞれの語幹は「hanas-」「nor-」であり、末尾が子音「s」「r」である。「強変化動詞」は、語幹と助動詞とのあいだに母音を介して変化することをとらえて名づけられている。ちなみに、上一段活用と下一段活用に相当する「弱変化動詞」は、語幹と助動詞とがそのまま結合することをとらえて名づけられている。

握して学習しておくことが望まれる。(4)は従属節の述語が取りうる文法形式の種類や数の違いを問うものである。中位群の正答率が22.34で、上位群との差が12.94と、全体的に低い正答率となっている。これは単なる知識では解答できない問題であり、例を当てはめて検証する能力が問われる。(6)は逆接の「ながら」に関するもので、出現する述語の形を問っている。逆接の「ながら」はあまり話題になるとは言えないけれども、シテイル形やシナイ形が出現するという特徴は知識として持つておくべきものと思われる。

問題13は方言に関するものである。かなり専門性の高い内容が出題されている。日本語教員が身につけておくべき知識のレベルを超えているように思われる。このことが低い正答率として現れたのではないと思われる。日本語教員も、全国各地での教育現場で教育に当たるのであるから、学習者が日ごろ接する生活語としての地域語に関する知識を持ち、理解を示すことは、確かに必要なことではあるものの、概括的なもので間に合うのではないかと考えられる。

●平成10年度

大問の中で、比較的識別性の高いものとして、問題11を取り上げる。これは日本語史における語形の音変化(脱落、同化、交替、転倒、添加)に関するものである。大問としては、中位群の正答率が42.40で、上位群との差が25.54と、大問の中で最も識別性が高い数値を示している。これを小問ごとに見てみる。問1は、「あたらし(新)」「ひがし」「けむり」「きりさめ」「よもやま」「おがむ」の各語がどの音変化を経て成立したものであるのかを問っている。識別性に関しては、ほぼ高い数値を示しているが、中でも、「あたらし」が中位群で39.75で、上位群との差が37.50、「けむり」が中位群で36.81で、上位群との差が31.91と高い。「あたらし」は古語の知識で解答でき、「けむり」は現代語の知識でも解答できるものである。「きりさめ」は中位群の正答率が62.71で、比較的高いが、上位群との差が29.42と、かなり開いている。「よもやま」は「よもやも」からの変化で同化が正解だが、中群の正答率が25.24で、上位群との差が28.69とかなりの開きを示している。「おがむ」は「をろがむ」から変化した語で脱落の例に当たるが、中位群の正答率が17.36、上位群との差が18.09と、識別性はそれほど高くなく、低い正答率を示し、難度の高い問題である。このような日本語史に関する知識は「脱落」とか「同化」といった用語を知っているだけでなく、語のどの部分がどのように変化するものであるのかといったことを、例とともに確実に把握しておくことが求められる。

●平成11年度

この年度の平均点は、平成9年度に次いで6割を切っている。その要因として、難度が高い問題、やや高い問題が全13問中5問(問題2、問題6、問題10、問題11、問題13)あったことが影響していると考えられる。これらの問題は成績上位群の正答率が6割超であり、特に問題13は4割超にとどまっている。

問題2は日本語の母音音素の特徴の下位区分に関するものである。大問全体では中位群の正答率が38.11で、上位群との差が24.68と、低い正答率において、比較的識別性が高い結果を示している。音韻に関する知識は聴解能力の意識的な知識と補完する面

を持っており、幅広い分野における知識の一つとして身につけておく必要はあると思われる。しかし、平成4年度から平成10年度までの音韻に関する出題に比べて、難度が高い内容が問われたと考えられる。

問題13は近現代の日本語文法理論史に関するものである。学術用語は学者によって異なることが多く、それぞれの用語体系のもとに概念が規定されている。概念が類似していても、用語が異なることは多々あるので、それぞれの学者の用語体系をきちんと把握して知識として持っているかどうか問われている。近代の文法理論史は、今日の日本語学の分野でも、十分な知識を備えている若い研究者がそれほど多いと思えない現状であるが、今日の研究が多くの場合、過去の遺産・成果の上に成り立っていることを考えるならば、基本的な知識として、身につけておく必要はあると考えられる。

小問ごとに見ていく。問1は学者の著作あるいは特徴的な研究内容を示して人名を問うものである。『日本文法学概論』の書名と「一の句とは統覚作用の一回の活動によりて組織せられたる思想の言語上の発表をいふ」という引用を示して、正答の山田孝雄を導こうとしている。正答率は中位群で28.12で、上位群との差が18.30である。かなり低い正答率だと考えられる。しかし、これと類似の問題は平成10年度の問題13(7)にあり、そこでは中位群の正答率が60.25で上位群との差が20.32と、比較的識別性が高いと考えられる。同じ山田孝雄が正解であるにもかかわらず、正答率のこのような大きな開きがあるのは、以下の理由だろうと考えられる。すなわち、平成10年度の問題では、「本居宣長」「上田万年」「山田孝雄」「金田一京助」「東条操」という、かなり雑多で、正答から遠く外れているものを多く含む選択肢群から選ぶものである。これに対して、平成11年度の問題では、「大槻文彦」「佐久間鼎」「時枝誠記」「橋本進吉」「松下大三郎」「三上章」「山田孝雄」のという、時代的にも分野的にも類似した人物群の中から選ぶものであり、明確な知識の裏付けがなければ正答につなぐににくいと思われる。選択肢群によって正答の得やすさが異なっているのである。『日本文法 口語篇』の書名と「詞と辞とは、その表現性の相違から、常に結合して、具体的な思想表現上の一単位をなす。この詞辞の結合を句といふ。……」という引用を示したBの時枝誠記、「文節」という用語を示して学説を紹介したCの橋本進吉の正答率も、上位群と中位群との差が比較的開いているけれども、低くなっている。問2は(1)の「詞」、(2)の「辞」で、正答率が低い。おそらく、選択肢の「自立語」と「付属語」を選んだ受験者がかなりいたのではないかと推測されるが、これは、橋本進吉に関しては当てはまっても、時枝誠記には当てはまらない。問題文に、橋本と時枝を対比する形で「詞」と「辞」という同じ用語を示してあるのだが、橋本であること、時枝であることが分からなければ解答できないという連動も低い正答率に反映されているのではないかと考えられる。(3)の「言語過程説」を答える問では、中位群の正答率が28.03で、上位群との差が24.50と、比較的識別性が高いかと思われるが、全体としては低い正答率である。本文中に「概念過程を含む」「概念過程を含まない」という表現を入れて正解が導きやすい配慮がなされており、選択肢も「言語機能説」「言語物質説」「言語関係説」「言語過程説」「言語概念説」の5肢で、正答以外はほとんど存在しない用語を織り交ぜて正答を導きやすくしている。しかし、結果はそれを反映していない。近代の文法理論史に関する基礎的な知識が十分に身につけていないことがうかがえる。(4)は寺村秀夫の「コト」と「ムード」という二分法の「ムード」を解答させるものである。

寺村の『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』は日本語教員にも比較的多く読まれている著書であると思われるが、用語体系といった、いわば表面的に見えることに関して目が行き届いていないのであろうか。(5)(6)は仁田義雄の「言表事態」「言表態度」の「事態」と「態度」を解答させるものである。極めて個別的な内容の出題であるとも考えられるが、本文中に「客体的な部分」「話し手の立場からのかわりを表す」など、正解が導きやすい環境が示されているのだが、「事態」の方は中位群の正答率が18.52で、上位群との差が7.05と、識別性の極めて低い結果となっている。(5)の選択肢は「内容」「対象」「事態」「世界」「事実」の5つであり、概念的には類似している。しかし、受験者のほとんどは知識として持っていないのだと判断される。

●平成12年度

この年度は大問で全体の正答率が8割を超えている問題が4問で、6割前後の問題が6問あり、やや難しかったようである。

その中で、問題7を取り上げる。これは複数のことがらを接続する並列節の条件に関する問題である。(1)から(5)について、「不適当なもの」を5つの選択肢から選ぶ形式である。たとえば(4)は「～し」節について、「丁寧形が現れうる」「推量の『だろう』が現れうる」「述語としては動詞・形容詞・名詞述語が用いられる」「表すことがらは、真偽値が不明であってもかまわない」「複数並ぶ場合、それらの肯定・否定は一致していなければならない」の選択肢を示している。これに適切に解答するためには、単なる知識では対応できない。具体的な例を想定して、その適否を判断するという能力が問われている。順番に検証していくと、「バスは来ないし、おなかはすくし」といった例をもとに、最後の選択肢が不適当であることに行き着くのである。難度は高くないと想定して出題されたものと考えられるが、中位群の正答率が37.92で、上位群との差が24.85と、比較的開いている。「真偽値が不明であってもかまわない」を解答した例もあるのだろうか。このような判定に困る選択肢があっても、最も不適当な場合を確実に求める能力があれば、問題はないものと考えられる。このような検証能力は、現場においても、教材作成の段階においても、有効なものである。

●平成13年度

問題7を取り上げる。これは、動詞の活用に関するものである。平成9年度の問題7に類似の問題が出されている。大問全体では正答率が高く(中位群の正答率68.32、上位群との差20.68)、比較的易しい問題である。これを小問ごとに見てみると、識別性において有意な数値が見られる。問3は五段動詞であることを決定する条件として、辞書形の末尾のラ行の音の直前の母音を問うもので、「ア・ウ・オ」の組み合わせが正解である。比較的正答率が高く、中位群で68.17だが、上位群との差が24.98と、かなり識別性が高い。平成9年度の問題7(4)に比べると正答率が向上している。問4は音便が生じない場合として辞書形末尾が「す」であることを求めている。正答率は中位群で56.18、上位群との差が33.10と、識別性がかなり高い。問7は五段動詞の所属を決定する3つの段階それぞれに該当する動詞の組み合わせを問うものであり、各段階で条件に適合するかどうかを検証することによって1つの組み合わせを導くことが出来る。中位群

の正答率が22.09で、上位群との差が37.10と、識別性が極めて高い。提示された規則を検証する能力が問われている。問8は辞書形末尾のルの前の母音がイまたはエのもので、五段動詞であるものの例を2つ求めるものである。「要る 押す 買う 着る 済む 立つ 照る 煮る 寝る 掃く」の10の選択肢から選ぶのだが、「押す 買う 済む 立つ 掃く」は記述の流れからして、初めから除外されるため、実質的には「要る 着る 照る 煮る 寝る」の5つの選択肢から2つを選ぶことになる。かなり易しい問題だが、「要る」の正答率が中位群で58.52で、上位群との差が32.83、「照る」の正答率が中位群で56.63で、上位群との差が34.81と、有効な識別性を示している。これは常識的な知識でも解答できる問題であるが、その知識が正確であるかどうかを測定できていると判断される。

問題10は、日本語、朝鮮語、スペイン語、英語の歯音・歯茎音に関するものである。やや難しい問題であったが、大問全体で中位群の正答率が41.46、上位群との差が35.27と、高い識別性を示している。小問7つはいずれも28から41の間の差があり、高い識別性を示している。音声学の知識が確実かどうかをきちんと判定できている問題である。

●平成14年度

平均点が5.5割で、前年度と同じく、平成4年度以来一番低い数値を示している。しかしながら、四分位の箱の中央値がいずれの年度も左側に位置し、試験として望ましい結果であることを示している。

問題12は古代語から近代語に変化する過程における、いわゆる分析的な傾向に関する問題である。日本語教員にとって、現代日本語のいわゆる共通語（標準語）に関する知識と分析能力と運用能力が求められることに異論はない。しかしながら、現代語はもともと存在するものではなく、歴史の一過程として存在しているのである。従って、歴史を背景に背負っていると言える。この歴史的背景に関する知識も身につけておいてほしいと願うものである。古語と言え、いきなり平安時代のことに飛躍しがちであるが、特に江戸時代後期以降の分析的な傾向は現代語と直接的につながっている。問題12は全体的に見ると、中位群の正答率が50.38で、上位群との差が21.47である。この差は、この年度の全12問の中で一番開きが大きい。けっして易しい問題ではなかったようだが、出題側からすると、いずれも基礎的な知識を問うている。

問5は、近代語になるにしたがって、「格助詞」が明示されるのが普通になってくることを問題にしている。中位群の正答率は48.21で、上位群との差は25.63である。問6は、用言の連体形が体言に準じて用いられていたのが、近代語では助詞「の」を付加して用いられるようになったことを問題にしている。中位群の正答率が41.06で、上位群との差が32.94と、かなり大きな開きを示している。問7は、古代語における順接の仮定表現の形式が「未然形」+バであることを問題にしている。識別性は高くないが、正答率が低い。中位群で29.19、上位群との差が14.43である。これは、かなり低い正答率だと言わざるを得ない。問9は、古代語との対比で、近代語の特徴を示すものとして不適当なものを求める問題である。正解は「過去や完了を示す言い方が多用になる」だが、これは逆行するものである。「分析的な傾向」という用語に惑わされたのであろうか。中位群の正答率が34.23で、上位群との差が27.35である。

4. 日本語教育能力検定試験の意義

以上、出題の範囲、受験者に期待する知識・能力、過去の問題における出題内容と成績を見てきた。

このことから、本検定試験は筆記試験Ⅰにおいて、一定の質的水準を維持し、かつ、知識と能力において一定の質的水準を持った日本語教育能力を備えた人材の検定の役割を果たし、検定試験の目的を達成していると評価することができる。

検定試験に合格したことが直接的に教育現場に生かされるという即効性のあるものではないけれども、このような知識と能力を持った合格者がさらに研さんを積み重ねて日々の教育実践に立ち向かえば、より効果的な教育が行われることが期待される。

筆記試験Ⅱ

細川 英雄（早稲田大学）

1. はじめに

本稿は、筆記試験Ⅱに関する出題領域とその分布および出題の傾向について、記述問題を除いた筆記試験Ⅱを範囲として分析を行うものである。

本試験では、筆記試験Ⅰが日本語学を中心に出题されるのに対し、筆記試験Ⅱは、日本語教育とくに教室活動にウエイトを置いた出題がなされている。

具体的な検討は各項の分析に譲るが、出題領域は、大まかに次のように分布している。

音声／語彙・意味／文字・表記／文法・文体／対照言語学／社会言語学／言語生活／教材・教具論／評価法／実習／教授法／日本語教育史／日本事情

以上の領域は、筆記試験Ⅱの出題分布により生じたもので、厳密な領域設定というわけではないが、この領域は、大きく言語系領域と教育系領域とに分けることができ、教育系領域は、さらに教授法関連と日本事情関連に分けることができる。

言語系領域

音声／語彙・意味／文字・表記／文法・文体／対照言語学／社会言語学／言語生活

教育系領域

教授法関連

教材・教具論／評価法／実習／教授法

日本事情関連

日本語教育史／日本事情

本稿では、まず筆記試験Ⅱの出題領域の分布とその傾向を分析した上で、ここの領域での問題点を検討し、最後に、平成4年度から平成14年度までの11年間の筆記試験Ⅱの総括を行う。

2. 筆記試験Ⅱの出題領域分布と傾向

平成4年度～平成14年度 領域別出題頻度													
		領域	年度										
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	言語系領域	音声	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
2		語彙・意味	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3		文字・表記	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4		文法・文体	1	1	0	1	0	1	1	1	1	2	0
5		対照言語学	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6		社会言語学	0	1	2	0	0	0	0	0	2	0	0
7		言語生活	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1
8	教育系領域	教材・教具論	0	2	0	1	2	1	2	1	0	1	2
9		評価法	2	2	1	1	0	1	0	0	0	0	1
10		実習	2	1	0	1	2	0	0	1	1	1	1
11		教授法	8	7	7	6	3	7	6	5	7	3	1
12		日本語教育史	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1
13		日本事情	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

上の表は、平成4年度から平成14年度までの11年間の筆記試験Ⅱの出題領域分布と大問の各出題数である。

1－7の言語系領域では、ほぼ前半に集中し、後半になると、言語生活を除いて出題は減少する。言語系領域で平均して出題されているのは、文法・文体のみである。これに対し、8－12の教育系領域は、満遍なく出題されていて、前半と後半の違いがない。

このことは、言語系から教育系へと領域の傾斜の見られることを示すものであるが、筆記試験ⅠとⅡの役割分担がより明確になったといえることができよう。なお、ここでは触れないが、筆記試験Ⅱのうちの記述部分では、毎年1題、学習者の学習段階に即した文法の指導法に関する問題が出題されることが、記述問題以外では教育系領域が増加する一因であったかもしれない。

いずれにしても、本試験の性格から考えて、実際の教室の設計や活動に関する出題が次第に増え、現職教師の受験に対する意識が明確になってきたといえる。

3. 言語系領域について

次に、言語系領域について、それぞれの領域の出題を挙げつつ、簡略な説明を付す。

3-1 音声

平成7年度 技能別指導法:平仮名(文字と発音)の導入

平成9年度 技能別指導法:発音(イントネーション)指導

- ・音声領域の出題は2年(平成7・9年度)のみ。平成10年度以降は出題なし。技能別指導法という観点からは、筆記試験Ⅱに特徴的なものである。

3-2 語彙・意味

平成5年度 類義語の説明:(1)「いえ」「うち」(2)「あした」「あす」「みょうにち」(3)「あがる」「のぼる」
(4)「そば」「近く」(5)「割合」「案外」

平成5年度 「たら」の用法の提出順と誤用分析

- ・語彙・意味領域の出題は平成5年度に2題のみ。平成6年度以降は出題なし。

3-3 文字・表記

平成4年度 学習者の質問に対する教師の回答:(1)「東南」と「南東」
(2)「ニホン」と「ニッポン」(3)「十中八九」の読み方
(4)「おおぜい」の表記(5)「状況」と「情況」

- ・文字・表記領域の出題は、平成4年度のみ。平成5年度以降は出題なし。

3-4 文法・文体

平成4年度 複数の用法がある学習項目の提出順:(1)「テ形」(2)「可能形」(3)「たり」(4)「～は～です」(5)「あまり」

平成5年度 「たら」の用法の提出順と誤用分析

平成7年度 学習段階による指導法:学習時間200時間の中国人学習者の書いた作文の誤用分析と添削指導(格助詞「で」と「に」、「～である」、「～ことにする」、「～に驚く」)

平成9年度 例文による誤用訂正・添削:「に」「見える」「を」「たら」「てくれる」「～出す」「受け身」「ご～ください」「ではないだろうか」「ように」

平成10年度 文型導入のための例文の適否(1)「てしまう」(2)「ために」(3)「ている」(4)「ながら」
(5)「ないで」

平成11年度 文型導入のための例文の適否(1)「てきた」(2)「て」(3)「ばかり」(4)「ところ」
(5)「のだ」(6)「はず」(7)「もの」

- 平成12年度 初級の練習問題作成:指示詞の使い方の理解度を確認するための問題の適否
- 平成13年度 誤用訂正のための例文の適否(1)場所を表す「で」(2)条件節「～と」(3)「分からない」
(4)結果存続「～ている」(5)様態「ようだ」(6)「～になる」(7)迷惑の受身(8)「～に
する」(9)条件節「～なら」
- 平成13年度 絵教材の適否(1)「～である」の導入(2)使役形の導入(3)「まだ／もう」の口頭練習
(4)ある対象に動作を働きかけたができない場合の「～ない」の用法

- ・毎年、1題から3題出題。内容的にはさほど変化はないが(「学習段階による指導法」,
「文型導入／学習者の理解確認／誤用訂正のための例文の適否」等),いずれも文型
導入や誤用訂正など、教室活動に密接に結びついた出題がなされている。

3-5 対照言語学

- 平成5年度 誤用分析:学習者から出やすい発話, 出にくい発話

- ・出題は、平成5年度のみ。平成6年度以降は出題無し。

3-6 社会言語学

- 平成5年度 言語使用:バイリンガリズム
- 平成6年度 非言語コミュニケーション
- 平成6年度 コミュニケーションの構成要素
- 平成12年度 言語能力のとらえ方(①チョムスキー, ハイムズ, カナールとスウェインの違い
②competence と proficiency の違い), 第二言語習得過程

- ・90年代前半には、「コミュニケーション」の基本概念に関する問題が出題され始め
る点が注目できる。言語学系では、こうした概念や理念の基本的な説明に関する出題
が多い。

3-7 言語生活

- 平成8年度 問1:コミュニケーション能力の4分類(文法能力, 社会言語能力, 談話能力, ストラテジー
能力)の概略説明 問2:学習者の発話の誤用分析(コミュニケーション能力の観点から)
- 平成13年度 依頼表現
- 平成13年度 引用による伝達方法
- 平成14年度 日本語の多様化と教育の変化

- ・平成8年度の問題は、コミュニケーション能力についての基本的な考え方とそれに基づ
く誤用分析の方法を考える出題であるが、平成14年度の問題では、「正しい」日
本語以外の日本語の可能性、「ボランティア教室」等での日本語に関する出題ー「多

様性」の容認（と「何らかの枠組みの構築」の必要性）へと、日本語教育界での考え方の変化を反映した出題となっている。

4. 教育系領域について

4-1 教材・教具論

- 平成5年度 文字指導方法の採用理由：(1)ローマ字表記を採用し、文字指導を行わない(2)CAI教材を使用(3)絵を使用(4)漢字系と非漢字系を別クラスに(5)平仮名は集中的に、漢字は語彙とともに
- 平成5年度 初級教材の作成：(6)表記法(7)字体(8)漢字の提出順(9)同一漢字使用の語彙の提出順(10)漢字の音訓の指導法
- 平成7年度 授業の計画・運営上の留意点(教科書／テープ／ビデオ／ロールプレイ／ゲーム)
- 平成8年度 初級漢字教材の作成意図と使用法
- 平成8年度 読解教材例に対する教授法を考慮に入れた評価
- 平成9年度 絵教材の具体的使用法
- 平成10年度 教材のリソース論
- 平成10年度 モデル会話の分析
- 平成11年度 多様な学習者のニーズに合った教材選択(初級レベル)
- 平成13年度 絵教材の適否(1)「～である」の導入 (2)使役形の導入 (3)「まだ／もう」の口頭練習 (4)ある対象に動作を働きかけたができない場合の「～ない」の用法
- 平成14年度 絵教材による指導法：自他の使い分け、授受表現「くれる」の導入
- 平成14年度 IT利用の利点

・教材のリソース論(平成10年度 問題1)、学習者ニーズと教材(平成11年度 問題7)などが当初より出題され、近年は、「絵教材」の問題(平成13年度 問題4、平成14年度 問題2)やIT利用に関する問題(平成14年度 問題4)が出題されるなど、毎回安定した出題傾向が見られる。

4-2 評価法

- 平成4年度 聴解試験の作成(素材・制約・質問の与え方)
- 平成4年度 ニーズ・アナリシスの時期
- 平成5年度 コース開始前に行われる評価(プレースメント・テスト、適性テスト)
- 平成5年度 テスト結果の分析(ヒストグラムの見方、識別力と正答率、解答分布状況の見方)
- 平成6年度 テスト形式の特徴
- 平成7年度 教授法別、妥当性・信頼性・効率性を考慮した評価方法
- 平成9年度 評価の方法：OPI(口頭能力測定法)
- 平成14年度 評価の基準

- ・初期にはコンスタントに出題されていたが（平成4年度：2問，平成5年度：2問，平成6・7・9年度：各1問），平成9年度のOPIを最後に平成10年度以降出題されなくなり，平成14年度に復活する（問題7，1問）。

4-3 実習

平成4年度	コース・デザイン：学習希望者の背景と動機にあったクラスとシラバスの選択
平成4年度	ニーズ・アナリシスの時期
平成5年度	コース・デザイン：学習希望者の背景等にあった学習形態と中心となる活動の選択
平成7年度	日本語教育実習記録に基づく，コース・デザイン，教室活動の分析
平成8年度	初級レベルの教案に対する評価
平成8年度	新聞記事を使った上級レベルの教案作成
平成11年度	具体的な教室活動の分析
平成12年度	教案の改善点と実習生の学習すべき点：(1)指示詞の導入 (2)進行の「～ています」の導入 (3)家族の呼称の定着 (4)初級読解 (5)中級作文指導
平成13年度	教案の問題点(1)動詞「て形」の導入・練習 (2)ニュースの聴解 (3)初対面での自己紹介 (4)前後左右の表現 (5)使役の導入・練習
平成14年度	教室活動記録の分析：(1)活動前のクラス準備 (2)活動目的に合致した質問形式 (3)情意面の配慮 (4)助数詞の導入 (5)ビデオを使った聴解授業

- ・実習生が作ったとされる教案や教室活動を分析させ，そこから問題を発見させる，という方法が多い。平成8年度まではコースデザインや教材作成といった観点からほぼ毎年出題されていたが，平成11年度からは教室活動分析へと視点が変更している。日本語教育全体の動きの中での対応と考えられる。

4-4 教授法

平成4年度	外国語教授法：理論と教室内ネットワーク（オーディオ・リンガル，コミュニケーション，CLL，TPR）
平成4年度	学習段階による指導法：文型・語彙・漢字
平成4年度	基本語彙について：「一般的」と「個別的」
平成4年度	練習指導法（個々の学習者に対応）
平成4年度	教室活動の手順と各段階での教師の発話内容
平成4年度	教室活動における学習者の誤りへの対処方法
平成4年度	複数の用法がある学習項目の提出順：(1)「て形」(2)「可能形」(3)「たり」(4)「～は～です」(5)「あまり」
平成4年度	学習者の質問に対する教師の回答：(1)「東南」と「南東」(2)「ニホン」と「ニッポン」(3)「十中八九」の読み方(4)「おおぜい」の表記(5)「状況」と「情況」
平成5年度	学習理論の変遷（心理学との関連において）
平成5年度	外国語教授法の分類と提唱時期（オーラル・メソッド，連続法，サジェストベディヤ，TPR，CLL，GDM）

平成5年度	類義語の説明: (1)「いえ」「うち」(2)「あした」「あす」「みょうにち」(3)「あがる」「のぼる」(4)「そば」「近く」(5)「割合」「案外」
平成5年度	練習指導技術: 教室活動の分類(制限・自由, 表出・受容)
平成5年度	文字指導方法の採用理由: (1)ローマ字表記を採用し, 文字指導を行わない(2)CAI教材を使用(3)絵を使用(4)漢字系と非漢字系を別クラスに(5)平仮名は集中的に, 漢字は語彙とともに
平成5年度	初級教材の作成: (6)表記法(7)字体(8)漢字の提出順(9)同一漢字使用の語彙の提出順(10)漢字の音訓の指導法
平成5年度	「たら」の用法の提出順と誤用分析
平成6年度	シラバス・教授法の理論
平成6年度	中級文型: 初級で学習しない文型の選択
平成6年度	誤用の分析: (1)「なかなか」(2)「今ごろ」(3)「ぜひ」(4)「とうとう」(5)「もう一度」
平成6年度	数詞の指導方法
平成6年度	授業手順と学習活動
平成6年度	授業分析: 学習段階, 活動状況, 誤用への対処法
平成6年度	言語習得理論: 化石化, 伝達方略, フォリナー・トーク, 過剰般化, 態度
平成7年度	習得過程: 学習ストラテジー(記憶/認知/情意/社会的/メタ認知)と教授法(サジェストペディア/CLL/TPR/文法訳読法)との関連
平成7年度	練習指導技術: 初級文型定着のための問答法による具体的指導法
平成7年度	学習段階による指導法: 学習時間200時間の中国人学習者の書いた作文の誤用分析と添削指導(格助詞「で」と「に」, 「～である」, 「～ことにする」, 「～に驚く」)
平成7年度	技能別指導法: 平仮名(文字と発音)の導入
平成7年度	練習指導技術: 具体的練習例の特徴の分析(ドリル分析)
平成7年度	第二言語習得研究の用語解説
平成8年度	外国語教授法の4分類(文法訳読法, オーラル・アプローチ, コミュニカティブ・アプローチ, コンプリヘンション・アプローチ)とその特徴
平成8年度	学習段階による指導法: 初級学習者の誤用文の添削指導
平成8年度	初級文型定着のためのドリルによる具体的指導法(不適切なキューの選択)
平成9年度	第二言語習得研究上の事項の記述: 優れた第二言語習得者, 誤用分析, モニター理論, 普遍仮説, 第二言語知識
平成9年度	コース・デザイン: 調査票による学習者のニーズやレディネスの把握
平成9年度	導入・練習指導技術: 現場指示の「これは/それは～です。」の導入と練習(教案分析)
平成9年度	技能別指導法: 発音(イントネーション)指導
平成9年度	例文による誤用訂正・添削: 「に」「見える」「を」「たら」「てくれる」「～出す」「受け身」「ご～ください」「ではないだろうか」「ように」
平成9年度	練習指導技術: 「～てください」の口頭ドリルの分析
平成9年度	指導手順: ビジターセッションを中心とした授業・教師の役割(活動型授業)
平成10年度	プロジェクトワークにおける学習者と教師の役割
平成10年度	実践的専門家の教育モデル: 技術伝達モデル, 応用科学モデル, 内省モデル
平成10年度	教室活動: TPR, ディベート, プリタスク, スキャニング, シミュレーション, ミニマルペア・プラクティス

平成10年度	文型導入のための例文の適否(1)「てしまう」(2)「ために」(3)「ている」(4)「ながら」(5)「ないで」
平成10年度	教案の分析:①構造シラバスの教科書で存在文と所在文を直接法で導入 ②「は」と「が」の使い分けを認識させる
平成10年度	具体的教室活動の目的の分析(教室活動分析)
平成11年度	外国語教授法:教師主導型からインターアクション中心の言語教育への変遷
平成11年度	第二言語習得過程の研究の変遷
平成11年度	文型導入のための例文の適否(1)「てきた」(2)「て」(3)「ばかり」(4)「ところ」(5)「のだ」(6)「はず」(7)「もの」
平成11年度	教室活動:プロジェクトワークの授業の進め方(教案分析)
平成11年度	自己研修型教師とアクションリサーチ
平成12年度	言語能力のとらえ方(①チョムスキー、ハイムズ、カナールとスウェインの違い ②competence と proficiency の違い)、第二言語習得過程
平成12年度	クラスルームリサーチ
平成12年度	言語教育・学習観(オーディオリンガル法、コミュニカティブ・アプローチ、それ以外)
平成12年度	教室活動:ロールプレイの目的とあり方
平成12年度	初級教室活動:数の言い方の練習計画の特徴を説明
平成12年度	初級の練習問題作成:指示詞の使い方の理解度を確認するための問題の適否
平成12年度	絵で示された教師の質問と指名のしかたの説明
平成13年度	コースデザインとアクションリサーチ
平成13年度	誤用訂正のための例文の適否(1)場所を表す「で」(2)条件節「〜と」(3)「分からない」(4)結果存続「〜ている」(5)様態「ようだ」(6)「〜になる」(7)迷惑の受身(8)「〜にする」(9)条件節「〜なら」
平成13年度	バイリンガリズム
平成14年度	第二言語習得研究の流れ

- ・全般的には、「外国語教授法」、「第二言語習得」関係の問題が頻出している。
- ・学習者の文を直接的に「誤用訂正」する問題が初期には頻出していたが、次第に少なくなってきた。
- ・平成9年度の問題2では、学習者のニーズやレディネスが取り上げられ、同じく平成9年度の「ビジターセッション」に関する問題の出題(問題9)を皮切りに、その後、「プロジェクトワーク」(平成10年度 問題2、平成11年度 問題4)や「インターアクション」(平成11年度 問題1)に着目した出題が増える。
- ・教師養成、研修に関わるものとしては、平成10年度には、「実践的専門家」(問題3)に関する出題が、平成11年度には「自己研修型教師」や「アクションリサーチ」に関わる問題(問題6)が、平成13年度には再び「コースデザインとアクションリサーチ」(問題)の出題が見られる。

4-5 日本語教育史

平成5年度	日本語教育と社会情勢との関係
平成8年度	日本語教育の現状と動向(年少者・地域社会の外国人・「多文化共生」)
平成9年度	年少者に対する日本語教育:外国人児童・生徒に対する日本語教育の特徴
平成13年度	日本語教育事情:海外の年少者教育, 国内の地域教育, 多文化共生
平成14年度	日本語教育事情:識字(リテラシー)の概念

- ・日本語教育史という領域としたが, 実際には, 日本語教育と社会とのかかわりを問う出題である。平成5年度では, 日本語教育と社会情勢に関するものだったが, 平成8年度から, 「年少者」・「地域社会の外国人」・「多文化共生」に関する問題が現れ始める。平成14年度には, 更に, 「ニューカマー」の問題もからめ, 「識字」に関する出題があり, 地域社会との共生というテーマがすでに定着し始めている。

4-6 日本事情

平成4年度	異文化間コミュニケーション・ギャップの要因
平成4年度	比較文化(人口動態統計, 育児法)
平成5年度	家庭における夫婦の役割(1986年総理府全国調査を基に)
平成5年度	異文化間行動における誤解の要因
平成6年度	家庭の行事と日本の文化・社会
平成6年度	日本事情教育の在り方
平成7年度	日本事情教育の在り方:日本語教育との関連, 教育内容の主眼の置き方, 授業形態の工夫
平成7年度	現代日本事情日本の文化・社会を考えさせるための教材を用いた指導法
平成8年度	現代日本の社会
平成8年度	アメリカの日本教育史
平成9年度	現代日本事情:「丙午」をトピックとして現代日本人の考え方を論じた文章を基にした授業の計画
平成9年度	日本事情教育:留学生に対する授業計画および子供に対する日本事情教育への応用
平成10年度	日本論(イー・オリオン『「縮み」志向の日本人』について書かれた文章による)
平成10年度	日本事情教育:東洋『日本人のしつけと教育』からの文章に基づく授業の展開
平成11年度	日本論:日本人のコミュニケーションの傾向(間接的な表現)について(牧野成一『ことばと空間』による)
平成11年度	日本事情教育:東外大留学生日本語教育センター『中級日本語』からの文章に基づく授業の展開
平成12年度	日本人論:埋葬法と宗教観
平成12年度	異文化理解:カルチャーショック, 異文化トレーニング
平成13年度	異文化コミュニケーション理論(日本コミュニケーション学会編『コミュニケーション論入門』による)

平成13年度 対人距離と自己開示(「ジョハリの窓」との関連において)

平成14年度 ステレオタイプと偏見の危険性

平成14年度 多文化共生型の地域づくり

- ・[平成4年度 問題12]「コミュニケーションの行き違い」が「文化間のどのような違いから生じた」かを問う問題が出題され、[平成4年度 問題13]「これからは日本人も異文化の人々との交流のため、さまざまなコミュニケーション・スタイルをもたねばならない時代となろう」と主張する出題も見られる。
- ・[平成14年度 問題8]ステレオタイプや偏見の弊害を説く問題[平成14年度 問題9]や、地域の外国籍住民の状況、「多文化共生型の地域づくり」に関する問題に至るまで、年を追うごとに出題の範囲が広がっている。
- ・とくに注目できるのは、平成6・7年度に「日本事情」教育のあり方が出題されていることで、この時期の議論をかなり早い段階で取り上げ、出題化していることは注目に値する。ただ、その後、日本文化論の授業展開を問う出題が続くなど、やや後戻りした感じが否めない。
- ・その後は、教材の授業展開から、異文化コミュニケーション・多文化共生へと出題の視野が広がっている。

5. まとめ

以上、筆記試験Ⅱに関する出題領域とその分布および出題の傾向について、記述問題を除いた筆記試験Ⅱを範囲として分析では、Ⅰが日本語学を中心に出题されるのに対し、Ⅱは、日本語教育、とくに教室活動にウエイトを置いた出題がなされていることが改めて確認できる。

まず大きな傾向としては、言語系領域では、ほぼ前半に集中し、後半になると言語生活をのぞいて、出題は減少することが指摘できる。言語系領域で平均して出題されているのは、文法・文体のみである。これに対し、教育系領域は、満遍なく出題されていて、前半と後半の違いがない。

このことは、言語系から教育系へと領域の傾斜の見られることを示すものであるが、筆記試験ⅠとⅡの役割分担がより明確になったといえることができる。本試験の性格から考えて、実際の教室の設計や活動に関する出題が次第に増えていることは、現職教師の受験に対する意識が明確になってきたことを示すものであろう。

具体的には、同じ文法・文体に関する出題においても、「学習段階による指導法」、「文型導入／学習者の理解確認／誤用訂正のための例文の適否」等、いずれも文型導入や誤用訂正など、教室活動に密接に結びついた出題がなされている。

また、コミュニケーション能力についての出題に関しても、当初は、基本的な考え方とそれに基づく誤用分析の方法を考える出題であるが、後半からは、「正しい」日本語以外の日本語の可能性、「ボランティア教室」等での日本語指導に関する出題、「多様性」の容認と「何らかの枠組みの構築」の必要性へというように、日本語教育界での考え方の変化を反映した出題となっている。

とくに、実習や教授法関連では、実習生が作ったとされる教案や教室活動を分析させ、そこから問題を発見させる、という方法が多く、平成8年度まではコースデザインや教材作成といった観点からほぼ毎年出題されていたが、平成11年度からは、教室活動分析へと視点が変更している。日本語教育全体の動きの中での対応と考えられる。このことは、学習者の文を直接的に「誤用訂正」する問題が初期には頻出していたが、次第に少なくなつて、平成9年度の問題2では、学習者のニーズやレディネスが取り上げられ、同じく平成9年度の「ビジターセッション」に関する問題の出題（問題9）を皮切りに、その後、「プロジェクトワーク」（平成10年度 問題2、平成11年度 問題4）や「インターアクション」（平成11年度 問題1）に着目した出題が増えることなどからも指摘できる。

日本語教育と社会とのかかわりを問う出題が次第に増加している。平成5年度では、日本語教育と社会情勢に関するものだったが、平成8年度から、「年少者」・「地域社会の外国人」・「多文化共生」に関する問題が現れ始める。平成14年度には、更に、「ニューカマー」の問題もからめ、「識字」に関する出題があり、地域社会との共生というテーマがすでに定着始めている。

「日本事情」としては、[平成4年度 問題12]「コミュニケーションの行き違い」が「文化間のどのような違いから生じた」かを問う問題が出題され、[平成4年度 問題13]「これからは日本人も異文化の人々との交流のため、さまざまなコミュニケーション・スタイルをもたねばならない時代となろう」と主張する出題も見られるが、[平成14年度 問題8]ステレオタイプや偏見の弊害を説く問題や、[平成14年度 問題9]地域の外国籍住民の状況、「多文化共生型の地域づくり」に関する問題に至るまで、年を追うごとに出題の範囲が広がっている。

とくに注目できるのは、平成6・7年度に「日本事情」教育のあり方が出題されていることで、この時期の議論をかなり早い段階で取り上げ、出題化していることは注目に値する。ただ、その後、日本文化論の授業展開を問う出題がつづくなど、やや後戻りした感じが否めないが、その後は、教材の授業展開から、異文化コミュニケーション・多文化共生へと出題の視野が広がっている。

以上のように、筆記試験Ⅱにおける出題が、日本語教育界での考え方の変化を反映した出題となっている点はきわめて高く評価できるだろう。しかも、この11年間に絶えず出題そのものが日本語教育全体の動きに対応しつつ出題されてきていることが指摘できる。

実際の日本語教育現場で学習者と向き合いながら日本語を教えるための具体的な教育実践能力への「入口」の試験として、基本的な知識とともに、実際の教室活動を分析的に見る力を判断するための一つの指標として、11年間の筆記試験Ⅱの有効性が指摘できるだろう。

記述問題

西原 鈴子（東京女子大学）

1. 記述問題によって測られる教師の能力

日本語教育能力検定試験は、発足当初から、多肢選択方式による客観テストの形式をとってきた。その枠組みにおいては、受験者は与えられた問題を理解し、指示にしたがって正答を選び出す作業を繰り返す。要求される作業は、受験に至るまでに蓄積してきた知識を再確認し、相対的に正しい要因を、限られた範囲から選び出すことである。問題作成者側からみれば、指示する範囲の中から1つの正しい答えを要求するという点において、受験者の知識の有無を測定することが可能になる。

一方、日本語教育に従事するための最低限の能力測定という、試験自体の基本的な目的を考えると、出題範囲が示す範囲にかかわる受験者の知識の有無、すなわち、日本語構造および運用に関する知識、言語一般に関する知識、教授法の知識、などと並んで、他の能力の有無も測定される必要があるという結論になる。日本語教師には、教育現場において自分の知識を学習者に分かるように噛み砕いて示す能力、学習者と相互にコミュニケーションを行う能力、学習者の学習動機を高める能力、日本語表現のモデルとなる口頭・文章表現能力も当然持ち合わせていることが期待されている。そのような教師の能力は、多肢選択問題形式によって直接測定することは不可能である。その制約を打破し、何らかの形でその部分を包括する試験形式を導入することにこだわった結果生まれたのが、記述問題であるということになる。

記述問題は、解答を文章によって表現させる形式である。ただし、「学習者に話すように書く」ことを指示してきた問題が多かったことでも分かるように、書き言葉の表現力を測定するというよりも、教室活動の現場において、特定の言語項目を学習者に対してどのように説明するのかという、教育現場対応能力を主たる課題にしている。また、「30秒で話す」という条件を付けた問題も出題されているが、標準的な発話のスピードとは1分間に何字相当ぐらい話すものなのかを知っていること、それを基準にして全体的な時間配分に配慮した教室活動が計画できることなど、シラバス遂行上必要な能力としてのパラ言語能力も測定の対象になってきた。

2. 問題例と出題意図

記述問題は、一貫して教室活動場面を文脈とし、教師として学習者にどのように話すかを問題としてきた。ただし、出題傾向は少しずつ変化してきている。初期の問題は、いわゆるオープン・クエスチョンで、どのような能力が測定の対象になっているのか、問題の指示文からは読み取れないような質問が多かった。以下に平成4年度（第6回）の問題を示す。

A君はある大学の留学生で、日常の日本語にはほとんど不自由していない。ただ、ときどき「分からないので教えてください」と言って質問を持ってくる。今日は「事件の全貌が明るみに出た」と「事件の全貌が明らかになった」とはどう違うかと聞きにきた。A君に30秒ほどで説明するとしたらどのように言ったらよいか、話し言葉で書け。説明内容とともに表記・表現も採点の対象となる。

この問題は、日常の日本語にはほとんど不自由していないということで学習者のレベルを示し、問題となる言語項目と、説明に要する時間制限を示すとともに、「話しことば」で書くという文体の制約内で表記・表現に注意しながら回答するという条件を示している。それに加えて、話しことばではあるが、表記・表現も採点の対象とすることによって、板書などの能力、および示された学習者レベルに相応しい表現を表出する能力も測定されることを示している。回答用紙は、原稿用紙形式で400字書けるようになっている。一般的な日本人の「ナチュラル・スピード」を1分間400字とし、「30秒」という時間制限であれば約200字で解答できると想定されている。それを大幅に上回る解答を書いた場合は、そのことを知らないか無視したということで、減点の対象となったはずである。

この問題のような、場面設定から受験者自身が解答項目を設定するという、いわば自由解答方式の記述問題は、平成6年度までは出題されたが、平成7年度からは、出題の際に注目すべき項目を、あらかじめ指示する方式に切り換えられた。平成7年度、および平成14年度の問題は以下のとおりである。

留学生のAさんは国で日本語を300時間ほど勉強してから日本へ来た。国では基本的な文法はしっかり勉強したが、母語話者と話をする機会がなかったようで、会話には不自然なところが多い。ある日、同級生が新調のスーツを着ているのを見て、次のように話しかけていた。

A： 新しいスーツです。よく似合います。

Aさんはまだ終助詞を習得していないようなので、終助詞「ね」と「よ」の使い方をこのような場合に限って、簡単に説明することにした。次の(1)～(3)を含む説明を、Aさんに話すとおりの言葉で書け。長さは400字以内とする。なお、記述の内容とともに、表記・表現も採点の対象となる。

- (1) Aさんの文を終助詞「ね」「よ」を使って直す。
- (2) なぜ終助詞「ね」「よ」が必要であるかを説明する。
- (3) 終助詞「ね」と「よ」の違いを説明する

次の会話は、「こ・そ・あ」の使い方において日本語学習者によく見られる誤りを含んでいる。それが何であるか、下の(1)～(4)の順に中級レベルの学習者が聞いてわかるように説明せよ。長さは400字以内とする。記述の内容とともに、表記・表現も採点の対象とする。

先生：そのころね、中国のどこにいたんですか、リンさん。

リン：3年ほど前ね、中国のフフエイにいました。

先生：え？ フフエイ？ フフエイってどこですか。

リン：あ、あそこはね、上海から7時間ほど汽車に乗って、西へ行きます。あそこにいました。良いところですよ。今度、一緒に行きませんか。先生。

- (1) 下線部の「あそこ」をこの場面に適当な指示詞に直す。
- (2) 初級でまず習う「こ・そ・あ」の基本的な違いを説明する。
- (3) なぜ、この場合に「あそこ」が適当でないか、説明する。
- (4) 下線部のような「あそこ」がそのまま使える場合はどういう場合か例を挙げて説明する。

以上の二つの問題は、平成4年度の問題に比べて、解答にあたって説明すべき項目が具体的に指示されているようになっている。それぞれ、(1)～(3)(平成7年度)、(1)～(4)(平成14年度)の指示を順番に踏まえて行けば解答できるようなアウトラインが示されているため、解答するにあたって、何が解答項目として求められているのかを推量する必要はほとんどなくなっている。したがって、平成4年度までの問題のように、教育対象項目を探し出す能力を測定するという目的、また、表現能力を総合的に測定するという目的は、出題意図から外れたことになる。平成7年度～14年度までの記述問題は、学習者レベルを踏まえた説明能力、与えられた制限内で説明をまとめる能力、説明項目にふさわしい例文を作成する能力などが測定される方向に転換して来たといえる。ただし、多肢選択方式による、解答を選び取るという能力ではなく、ことばを表出する能力を測定するという基本的目的は、試験設立当初から現在まで変わりなく推移している。

3. 採点方式の変化

記述問題の採点にあたっては、採点者間で判断基準にズレが生じないように、あらかじめ詳細な採点マニュアルを作り、必要とされる項目ごとに部分的な配点をした上でそれらを積み上げて全体の得点となるように工夫してきた。特に、平成7年度の問題からは、あらかじめ解答すべき項目が指示されているため、採点もそれらの項目を中心に積み上げ、表現・表記などの採点を加減して総点を計算してきた。

記述問題は文章による解答方式を採用していることから、採点のためには多数の採点者が必要になる。受験者は一貫して5000人から6000人を維持しており、また採点結果を出すまでの時間が制限されており、集中的に採点をしなければならない。採点協力者の条件として、日本語教育能力検定試験合格者、ないしは試験を受ける可能性のない人でなければならないという制約もある。

創設当初の数年間、すべての受験者の答案を採点の対象としていた。しかし、平成4年度からは、多肢選択問題の得点が、たとえ記述問題が満点であったとしても合格ラインには達しないであろう範囲を下回る受験者は採点の対象としないという決定が行われた。それ以降は、記述問題に関しては答案の約半数のみを採点するという採点方式になっている。

4. 記述問題の存在意義

以上のように、記述問題は、多肢選択方式による出題では測定できない能力を測定する方法として、その存在意義を貫いてきている。平成12年3月の文化庁・日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議報告『日本語教育のための教員養成について』において、日本語教育能力検定試験の内容については、出題範囲や試験方法が日本語教育に関する「知識」の測定に偏っているのではないかと指摘されていること、特に、出題範囲に挙げられている主要項目の各事項ごとの断片的な知識問題に対して短い時間で効率的に答えていく受験能力が必要とされていることや、日本語教育に必要な実践的な能力について十分に測定することができないなどの問題が指摘されている。しかし、これまでの記述問題の存在はたとえ部分的にせよ、その点を補う役割を話してきたということができよう。記述試験は、日本語教員に要求される教育現場対応能力、言語表出能力を測定する手段としての存在意義を保持して行くことと期待される。

5. 記述問題の今後

平成15年度からの日本語教育能力検定試験は、新たな出題範囲による試験として実施される。その態勢においても、記述問題は、これまでと変わらない形式が維持されて行くことと予想される。ただし、多肢選択方式による出題方式の制約を補足するためには、これまでに加えて、いくつかの点で改善の可能性があるものと思われる。

その第一は、教師側からの一方的な説明を要求してきた出題傾向から、より相互交流的な教育現場の場面設定をすることである。そのことにより、より活性化された教育現場に対応する能力を測定することが可能になる。

第二点として、記述問題の範囲で、言語教育説明能力と言語表出能力の測定を分離することが考えられる。そのことにより、記述問題の持つ性格をより分かりやすく定義することができるようになるからである。

第三点は、何らかのかたちで口頭による教育能力検定試験を発足させることにより、「話す」ことによって測定できる能力と、「書く」ことによって測定できる能力を分離し、「記述」試験としての性格をはっきりと打ち出すことができるようにすることである。

教育という、人間相手の職業に従事するものがいかなる能力を持っているべきかを問う試験は、常によりよい手段を求めて改善されなければならない。そのことは記述試験にも当てはまることである。今後、試験方式、試験内容ともに一層の発展が見られることを希望するものである。

1. 「聴解」試験の位置付け

日本語教育能力検定試験「聴解」は、文字通り音声提示された内容を聴取し、その指示どおりに解答していくものである。基本的にテープの走行と同時に始まり、テープ終了と同時に解答を終える。しばしば音声の試験と表現されることもあるが、音声の知識を問う問題は筆記試験Ⅰに含まれており、「聴解」は、耳で聞いた内容を音声指示どおりに解答するという事に限られる。いきおい音声知識を問う問題が多くなるが、それ以外のものも含む構成となっている。

日本語教育の内容に関連して言えば、外国語を母語とする学習者をあつかう上で必要な、間違いやすい日本語の発音とその仕組み、外国語の干渉を受けた日本語の発音について解答することに重点を置いてきた。したがって、アクセントにしても母音や子音の発音にしても、標準的なものだけでなく、学習者が中間言語の段階で発すると思われる音声についても受験者の耳で聞いて解答することに意義があるという認識で作題を行ってきた。

形式的にはテープ走行時間という制限があるので、この10年余り、内容を大きく変えることはしていない。基本的な事項を受験者が学習し認識しているかどうかということの測定を目的とした。受験者が過去の問題の取り組み内容を把握し、知識だけに長ずるのではなく、音声提示に短い時間で反応し解答することで得点があげられることを目指した。

そのような点からみると、「聴解」試験は、知識面の準備では十分とは言えず、音声提示への反応を訓練するという別の側面があると思われる。また、これによって、実際に日本語を教授する現場に立つ教師候補者たちに自覚を促すという貢献をしたのではないかと願っている。

2. 問題の構成

平成4年度から14年度まで同様であり、問題1から問題5までという大問の構成となっている。

問題1は、一つの文を男女がそれぞれ一回ずつ読み、異なる音声特徴の部分を解答者が判断し、その特徴二つを選択肢より選ぶものである。問題の形式は平成4年度から14年度まで同じである。

問題2はアクセントの型を判断する問題である。女性と男性の対話に出現するある語句について、拍の高い部分と低い部分の組み合わせを聞き取り、選択肢から選ぶものである。問題の形式は平成4年度から14年度まで同じである。

問題3は音の異なりを判断する問題である。男性と女性がそれぞれ一つの文を読むが、一ヶ所、母音あるいは子音を異なる発音で読む。問題3の(1)は、発音の違いが意味の違いを引き起こす音素に関わる問題であり、問題3の(2)は、意味の違いには関わらない異音に関わる問題である。問題の形式は、平成4年度については問題3という大問の設定だけであったが、平成5年度から14年度までは(1)音素の問題、(2)異音の問題と分けて設定した。

問題4は日本語学習者による発音の誤りとされる部分について、どのような発音をしているのかということを選択肢から選ぶ問題である。選択肢には口腔断面図、声門状態図、

パラトグラム*¹、口唇状態図、ピッチ曲線イメージ図*²等を用いた。問題の形式は、平成4年度は問題文を記述したものを提示し、口腔断面図を見ながら選択するものとしたが、平成5年度から14年度までは、問題文はテープによる音声提示のみで、選択肢となる図に口腔断面図以外のものも盛り込んだ。

問題5は音声提示された内容について、音声に注目した問題だけでなく、文法、言語形式、学習ストラテジー、教授法等々、さまざまなことがらを内容として取り上げた。平成4年度から6年度まではイラストを見ながら、平成7年度は図形を見ながらそれについての会話文を聞いて解答する形式であった。平成8年度から14年度までは、音声提示される日本人同士の、あるいは日本人と外国人の短い会話を聞き、それについて解答する形式であった。

3. 各問題の内容

3-1 問題1について

この問題は、一つの文を男性と女性がそれぞれ読み、その中から二つの異なる韻律的特徴を聞き取り、選択肢から選ぶものである。選択肢として設定したものは、平成4年度から6年度までは、a. アクセント*³ b. イントネーション*⁴ c. 速さ d. プロミネンス*⁵ e. ポーズ*⁶ の5つであった。この選択肢の問題点を改善するため、平成7年度からは、a. アクセントの下がり目 b. 文頭イントネーション c. 文末イントネーション d. ポーズ e. 速さ f. 拍の長さ の6つとした。まず、当初用いていたプロミネンスという用語であるが、プロミネンスとは他から際立たせるために用いる音声特徴を指すため、具体的には、高さ、速さ、聞こえの大きさ等複数の音声的特徴を用いる可能性が考えられる。したがって、他の選択肢と混同しやすいという危うさを避けるため、プロミネンスという用語は使用せず、それぞれの音声特徴を具体的に選択できるような作題をすることとした。また、アクセントという用語についても、よりわかりやすくするため、アクセントの下がり目とした。さらに、イントネーションも、文頭イントネーションと文末イントネーションに分け、聞くポイントを明確にした。また長さを聞き取ることも日本語教育の中では重要なことがらであるので、拍の長さという選択肢も設定した。

3-2 問題2について

アクセントの型を聞き取る問題であるが、いわゆる東京方言のアクセントを聞き取るのではなく、学習者の発音する正しくない発音にも対応できるよう、下がり目が複数回現れるような、実際には東京方言に存在しないアクセントパターンも用いている。また、よく耳にする語を使用すると既存のアクセントパターンにとらわれてしまうということも考え

*¹ 発音の際、上顎の口蓋部分にどのくらい舌面が接触するのかわかる図。

*² 発話した部分について、声の高さ（ピッチ）の変化を周波数の変化としてグラフにあわせた図を見やすいように調整し、視覚的にピッチの変化を捉えるように加工した図。

*³ 言語一般では語の意味の区別に貢献する高さまたは強さのことを表すが、ここでは日本語を扱うので、高さのことを指す。

*⁴ 発話において、文全体あるいは一部にかかる高さのことを指す。

*⁵ 発話において、ある部分を際立たせるのに用いる音声的特徴を指す。音の強弱や長短、大小等、さまざまな特徴を用いる。

*⁶ 発話において、語と語の間に入れる一時停止のことを指す。

られるので、あえて耳慣れない語である美術、医学、古典、植物名等の専門分野から、該当する拍数の語を選び採用した。例えば、カリョウビンガ（迦陵頻伽）、バンチモンキョウ（蟠螭文鏡）などである。

解答するためにはアクセントパターンを聞き取ることと、その後、選択肢から該当するパターンを的確に選ぶという2段階が必要となる。拍数については4拍から10拍までのパターンを組み合わせで用いた。しかし、試験後の解答率分析図を見てみると、拍数の多いものが必ずしも解答困難とは限らないようであり、10拍を採用したのは一度だけであった。

この問題は、受験者が高さの聞き取りを意識化することをねらいとしている。実際の教授場面で発音の高さの指導が必要となったとき、違うことがわかるだけでなく、どこに下がり目が来ているから違うのかといったような具体的指摘力をつけることが大切だということの啓蒙になったのではないと思われる。

3-3 問題3について

これは音素レベルで異なる音の違いと、異音レベルで異なる音の違いを音声提示によって判断し、その違いを調音点*7、調音法*8、声帯振動*9、氣息の有無*10といった調音に関わる選択肢から選ぶ問題である。難度が高いのは、「調音点と調音法」のように複数要素の組み合わせの選択肢であろう。しかし、この選択肢も基本的には毎年大きく変わることはないので、必要なことがらをしっかりと学習していれば対応できる内容である。平成4年度は問題3として音素レベル*11も異音レベル*12も盛り込んだが、平成5年度からは問題3（1）を音素レベル、問題3（2）を異音レベルとして分けた。どうしても子音の問題が多くなるが、母音についても取り上げている。

この問題は、国際音声記号等であらわされる音の違いを、音を作る場所や方法などという具体的な内容によってシステムティックに学習できていれば対応できるものである。丸暗記ではなく、音の特徴を整理して学習することをねらいとしている。

3-4 問題4について

この問題は、日本語非母語話者（外国人日本語学習者）による発音を聞いて、その音声特徴を口腔断面図、声門状態図、パラトグラム、ピッチ曲線イメージ図の選択肢より選ぶ問題である。口腔断面図では、とくに口唇、舌の高さ、舌の前後の盛り上がり、舌の閉鎖の有無*13、口蓋帆の閉鎖の有無*14等に注目し、子音、母音、鼻音などを判断する。ただし、

*7 子音の発音に直接役立つ上顎の部分。舌や下唇、下の歯など、下顎に属する部分が接触する場所。

*8 鼻音、閉鎖音など、子音を発音する方法。

*9 母音や子音の有声音を発するのに用いる声帯の振動。

*10 子音で、口腔にためた呼吸を勢いよく排出する破裂音の調音時に、それに伴って出る息があるか否かということ。

*11 その言語を母語とする話者が聞いて、語の意味の区別に役立つレベルでの音の違いを指す。

*12 音素的には異なる音であるが、その言語を母語とする話者が聞いても、語の意味の区別に役立たない、あるいは気づかないレベルでの音の違いを指す。

*13 発音時に舌が、歯や歯茎を含めた口蓋部分に密着して閉鎖を作っているか否かを指す。

*14 発音時に口蓋帆が鼻腔につながる咽頭鼻部に密着して閉鎖を作っているか否かを指す。閉鎖せず、鼻腔に呼吸の流通があると鼻音を発する。

平成4年度については、口腔から声道までの断面図を提示し、それに基づき調音の状態を文章で説明したものを選択肢としている。平成5年度以降は前述したとおり、図等を選択肢として用いている。

また、この問題については、問題冊子に選択肢のみでなく問題文も文章提示し、さらに注意して聞くべき点に下線を引いて示している。非母語話者の音声を使用しているため、実際には問題としている部分以外にも母語の干渉等で適切でない発音が含まれてしまうので、受験者が問題となる部分のみに注意を払えるようにと配慮したものである。その文章提示したものについても、平成5年度から10年度まではカタカナを用いたが、受験者にわかりやすいようにと平成11年度からはひらがなで表記した。

平成7・9・14年度に使用したパラトグラムの図であるが、これは、どの部分が接触するかというイメージ図である。

そして、平成5・6・8・11～14年度に使用しているピッチ曲線イメージ図だが、平成13年度までは「高さの変化を表す曲線」とした。また、平成5・6年度はグラフの横軸、縦軸について説明を付さなかったが、平成8年度から13年度までは「縦軸の単位はHz（ヘルツ）、横軸の単位は秒」という説明を文章提示し、グラフ中に目安となる数値を記入した。平成14年度は、まず、「音の高さの変化を表すイメージ曲線」とし、内容を具体的に示した。さらに、図の説明をイメージ曲線としたため、グラフの縦軸、横軸については「横軸は高さ、縦軸は時間を表す」として、グラフ中に数値は記入しなかった。

耳で聞いた高さをイメージとして把握できていれば、学習者の発音も把握しやすくなるというのがこの問題のねらいである。

3-5 問題5について

音声知識を問うものでなく、むしろ音声提示された内容からさまざまなことがらについて解答するというのが問題5である。しかし、解答分析率をみると毎年予想より識別力が低く、数回に渡り問題の傾向を検討してきた。

平成4年度から6年度まではイラストを市販の書籍、教科書から選び、また、平成7年度はいくつかの図を作り、それを見ながら日本語学習者である外国人が日本語でそのイラストについて説明し、その説明の中からある部分を取りあげ作題した。しかし、それでは録音したものを聞いて、その中から問題を考え出さないとならないので、内容にも限りが出てきてしまう。そこで、平成8年度から14年度までは、問題のねらいを最初に設定し、それに合わせたシナリオを作成して、意図に沿った会話となるよう指示を与えながら録音をするという形を取った。問いの内容としては、日本語学習者の取る会話の中のストラテジーや言語形式、あるいは発音、または文法事項などに着目したものを作った。

4. 録音について

「聴解」は音声によって問題文も指示も示されるため、録音がたいへん重要になってくる。問題文とは別に、指示や進行を含めた約30分間の録音全体のシナリオも作成する。基本的に、指示等もすべて毎年録音しなおすので、録音自体にも時間がかかっている。幸い、平成4年度から14年度までは男性も女性も同じ声優の方に依頼することができたので、問題意図も伝えやすく、問題3(2)のような異音を扱う問題についても対応してもらえた。

ただ、問題4、問題5のように日本語学習者である外国人の録音が必要な部分では少なからず苦勞もあった。作題者の大学で留学生を集め録音したり、こちらの指定した録音スタジオまで留学生に出向いてもらい録音したこともある。どちらにしても、外国人の確保と録音場所、日程の問題が常にあり、限られた時間、場所、予算では作題者に過度の負担がかかってしまう。日本語教育のための試験であるから、学習者の音声を使用するということは内容的にもたいへん重要であり、これからも必要不可欠であると思われる。これについては今後、どのような形で作題者がかかわるのかということが懸案事項になると思われる。参考までに、平成4年度から14年度までに使用した学習者の録音であるが、そのほとんどは留学生の音声であり、出身国は、中国、韓国、タイ、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、オーストラリア、ロシア、ブラジル等数カ国にわたる。

5. 日本語教育・教師養成への意義

「聴解」試験においては、教師が現場で音声を扱うに際してどのような訓練、準備が必要かということも視野に入れて作題にあたってきた。筆記Ⅰ、筆記Ⅱと異なり、知識を問うだけでなく、解答するのに的確な反応力、判断力も欠かすことはできない。そうした点ではまさに教育能力を問い、同時に、準備段階でその能力を高めることもねらいとする試験である。この試験の受験準備をすることで、「音声関係は苦手」だとか「耳が弱い」などと逃げていられないということが認識されたのではないと思われる。

最後に、平成4年度より14年度まで交替しながら作題にあたってきた他の7人の試験委員と、それまでに作題にご苦勞なされた試験委員、そして、重要な録音の仕事を引き受けてくださった声優諸氏、そのほかの録音協力者に心より感謝したい。

また、今後も日本語教育現場での能力を育てられる試験となるよう、さらなる改善を期待する。

資料編

日本語教育能力検定試験 実施要項及び実施状況（昭和62年度～平成14年度）… 39

（平成4年度～14年度日本語教育能力検定試験 応答分析結果より）

分布の表現法……………	清水 留三郎（前 大学入試センター研究開発部）…	44
①各科目の受験者成績の経年変化（四分位等の推移）……………		46
②各年の4科目成績から見た合格者と不合格者の特徴（四分位等）……………		51
③各年の4科目における合否識別状況（四分位等）……………		62
④各年の大問の難易度と能力識別度（上位群と中位群の大問得点率）……………		73
⑤各科目の各年における科目別成績と大問成績の相関（大問得点率分析図）……………		79
⑥各年の設問の難易度と能力識別度（上位群と中位群の設問正答率）……………		107

日本語教育能力検定試験 実施要項（昭和62年度～平成14年度）

1. 目的

日本語教員となるために学習している者、日本語教員として教育に携わっている者等を対象として、その知識および能力が日本語教育の専門家として必要とされる水準に達しているかどうかを検定することを目的とする。

2. 実施者

財団法人日本国際教育協会が実施する。

3. 試験の方法、内容等

(1) 受験資格

学歴は問わない。ただし、年齢が満20歳以上であること。

(2) 試験の内容と水準

日本語教員として最低限必要な専門的知識・能力を習得させることを目的とする大学の学部における日本語教員養成副専攻課程と同等程度とする。

(3) 試験の出題範囲

別記のとおりとする。ただし、全範囲にわたって出題されとは限らない。

(4) 試験時間

筆記試験Ⅰ	140分
筆記試験Ⅱ	100分
聴解試験	30分

別記

出題範囲

領 域	主 要 項 目
1-1 日本語の構造に関する体系的、 具体的な知識 日本語学 概論	1. 世界の中の日本語 2. 日本語の特質 音声、語彙・意味、文法・文体、文字・表記、 言語生活等について (1) 対照言語学的に見た特質 (2) 社会言語学的に見た特質
音声	1. 音声器官と発音 名称と機能 調音法、調音点、調音者 2. 単音レベル 音素と異音 異音の分布 音素記号と音声記号 母音の分類 半母音 子音の分類 五十音図とその拡大表

領 域	主 要 項 目
語彙・意味 語彙 意味 文法・文体	3.音節レベル 音節構造 音節（拍） 特殊音節 4.単語レベル 母音の無声化、その他環境による音声変化 アクセントの感覚・規則・表記 縮約形など、話し言葉の語形 5.文レベル・談話レベル イントネーション プロミネンス（卓立） ポーズ 速さ 1.基本語彙と基礎語彙 2.語彙の類別 使用者別・場面別・語種別・言語活動別・ 分野別・音声的特徴別・文法的機能別等 3.語構成 4.辞書 1.語の意味 2.句の意味 3.文の意味 4.文章・談話の意味 1.語・文節のレベル (1)品詞 名詞、動詞、形容詞、副詞、（助詞、助動詞、 複合助辞、その他） (2)活用などの変化形式とその用法 名詞、動詞、形容詞 (3)文節の構成 2.文のレベル (1)文の種類 (2)文の成分 (3)単文の構成 (4)複文の構成 (5)構文と意味 3.文章・談話のレベル (1)旧情報、新情報等 (2)話者の視点 (3)話法 (4)文章・談話における文の選択 4.言語生活と文体 (1)敬体と常体 (2)書き言葉、話し言葉 (3)男性語、女性語 (4)地域語と共通語 (5)フォーマル、インフォーマル

領 域	主 要 項 目
文字・表記	1. 文字・記号の種類 2. 文字・記号の使い方 (1) 漢字仮名まじり文 (2) 仮名遣い (3) 送り仮名 (4) 外来語の表記 (5) 漢字の書き方 (6) 漢字の読み方 (7) 記号の使い方 (8) 辞書の使い方 3. 文字表記の選択 4. 文章の表記
1-2 その他日本語に関する知識 言語生活	1. コミュニケーション (1) パーソナル・コミュニケーションの場面、条件、様式、媒体等 (2) マス・コミュニケーションの形態、媒体等 2. 技能 (1) 聞く (2) 話す (3) 読む (4) 書く 3. 第二言語としての言語生活 (1) 母語による言語生活との比較 (2) バイリンガリズム・マルチリンガリズム
日本語史	1. 古代語と近・現代語 2. 近・現代語の成立 (1) 近代語 (2) 現代語
2 日本事情（古典と文芸を含む。）	1. 日本の歴史・地理 (1) 日本の歴史 (2) 日本の地理 2. 現代日本事情 (1) 現代日本の政治・社会 (2) 現代日本の文化
3 言語学的知識・能力 言語学概論	1. 言語の本質 2. 言語能力と言語運用 3. 言語の普遍性と個別性（類型論を含む。） 4. 言語学と関連領域 5. 世界の言語 6. 各論 (1) 文法論 (2) 意味論 (3) 音韻論 (4) 語彙論 (5) 文字・表記論
社会言語学	1. 言語変種 (1) 階層言語 (2) 地域言語 (3) 言語変化 2. 場面と言語 (1) 敬語と非敬語 (2) 男性語、女性語 (3) フォーマル、インフォーマル

領 域	主 要 項 目
対照言語学 日本語学史・日本語教育史	3.媒体 (1)手紙、電話、書き言葉と話し言葉 (2)マス・コミュニケーション、パーソナルコミュニケーション 4.言語使用・言語生活 5.言語政策・言語教育 1.比較言語学・歴史言語学と対照言語学 2.言語体系と運用の対照 音声、語彙・意味、文法・文体、文字・表記 言語生活等について (1)類似点と相異点 (2)母語の干渉、誤用分析 3.言語行動・言語生活の対照 1.日本語学史 (1)明治以前の研究の概略 (2)明治以後の研究の概略 2.日本語教育史 (1)戦前の教育史の概略 (2)戦後の教育史 (3)日本語教育と国語教育
4 日本語の教授に関する知識・能力 教授法	1.日本語教育の目的・方法 2.言語教育と言語研究の関係（心理言語学的観点を含む。） 3.外国語教授法 4.日本語教育の基本語彙・基本漢字・基本文型 5.習得過程 6.指導手順・カリキュラム作成 7.練習指導技術 8.技能別指導法 9.対象別・母語別指導法 10.能力差・クラスサイズに対応する教授法 11.学習段階による指導法 12.添削技術
教育教材・教具論	1.教材教具概論 (1)目的 (2)期間 (3)場面 (4)レディネス (5)カリキュラム 2.教材の具体的使用法 (1)教材 (2)教育条件 (3)環境 3.教育機器・教具
評価法	1.評価の対象 2.評価の目的と効果 3.テストの作り方 4.評価の方法 5.結果の分析
実習	1.コース・デザイン 2.教案作成と教材選定 (1)教壇実習に備えての教案作成 (2)具体的指導案の作成

日本語教育能力検定試験 実施状況（昭和62年度～平成14年度）

	応募者数(人)	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
昭和62年度	5,837	4,758	935	約20
昭和63年度	5,794	4,597	827	約18
平成元年度	6,783	5,405	999	約18
平成2年度	6,367	5,143	908	約18
平成3年度	7,815	6,224	1,153	約19
平成4年度	8,723	6,846	1,272	約19
平成5年度	8,673	6,792	1,224	約18
平成6年度	8,282	6,153	1,125	約18
平成7年度	7,614	5,911	1,107	約19
平成8年度	7,755	5,986	1,088	約18
平成9年度	7,624	5,824	1,077	約18
平成10年度	6,906	5,272	1,008	約19
平成11年度	7,526	5,729	1,091	約19
平成12年度	7,809	5,858	1,077	約18
平成13年度	7,319	5,549	1,008	約18
平成14年度	7,989	6,154	1,171	約19

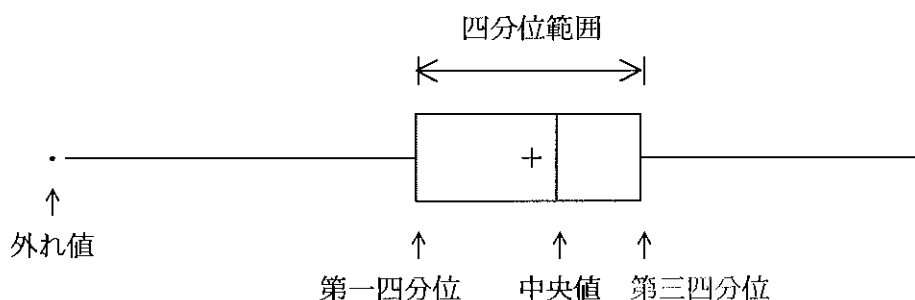
分布の表現法

清水 留三郎（前 大学入試センター研究開発部）

得点分布を相互に比較するには、配点の影響を除く必要がある。そこで、配点に対する百分率に規準化した得点率をここでは全て用いる。

1. 科目の得点分布

科目の得点分布は、比較に便利のように、箱髭図 (box & whisker plot) によって示した。この図に表すものは、度数ではなく、「四分位」である。受験者を得点順に並べて、人数を四等分した場合の境界に当たる得点を分布の「四分位」と言う。三つ出来る四分位は順に第一、第二、第三と番号を付ける。第二の四分位は中央値に他ならない。



分布の中程に、間仕切りのある箱を描いて、三つの四分位を示す。この箱の長さを「四分位範囲」と言う。箱の中には、得点が中位である半数の受験者の得点が詰まっている。それぞれ最低点と最高点まで箱の左右に伸ばした髭で、得点が下位と上位にある四分の一の受験者の得点分布を表す。髭の長さは四分位範囲の高々1.5倍までに留める。もしそれを超える得点がある場合は、「外れ値(outlier)」として・印や*印で個別に表示する。さらに、箱の中に+印で平均を示す。

箱髭図によると、箱の位置と長さから、それぞれ得点の高低と分散度が読み取れ、箱の中仕切や+印の位置によって分布の対称度が読み取れる。この検定試験のように、複数の試験科目の得点を総合して合否が判定される場合、各科目と合否との関係の深さは、その科目の高得点側の髭の長さから読み取れる。

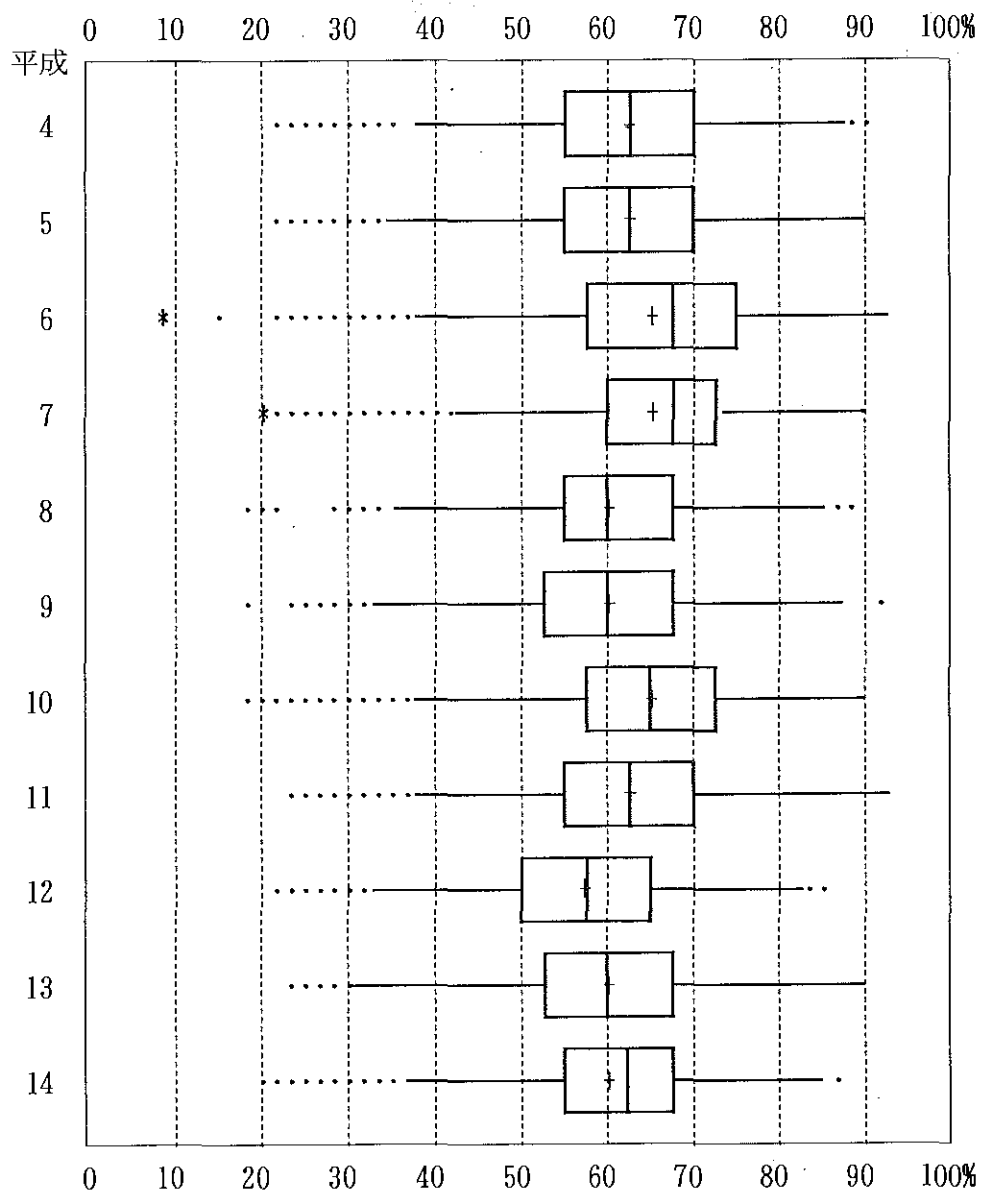
2. 大問得点と設問正答率の科目得点との相関

これらの相関関係から、大問や設問が科目中で果たした効果を読み取ることができる。そのために、受験者を当該科目得点順に並べ、人数を五等分して、最下位から最上位までの五群を構成する。そうして、横軸にこれらの五群を採り、縦軸に各群の得点率や正答率を採って順に折れ線で結ぶ。そうすると、折れ線の位置と傾斜から、それぞれ率の高低と群間の差異が読み取れる。すなわち、大問の得点率や設問の正答率を表す折れ線の傾斜が急な程、群間の能力差が良く識別されたことになる。

中位群の得点率や正答率は全群に対する大問や設問の難易度を代表する。また、上位群と中位群の差は、大問や設問によるこれら二群間の能力差の識別度を示す。難しい問題程

中位群の率は低くなり，上位群と中位群の差で表される識別度に高くなる余地が生じるから，識別度に高さが要求される。そこで，難易度を代表する中位群の得点率や正答率を横軸に採り，識別度を表す上位群と中位群の差を縦軸に採って，大問や設問の散布図を描いて，大問や設問について難易度と識別度の二機能の関係の整合性を表す。

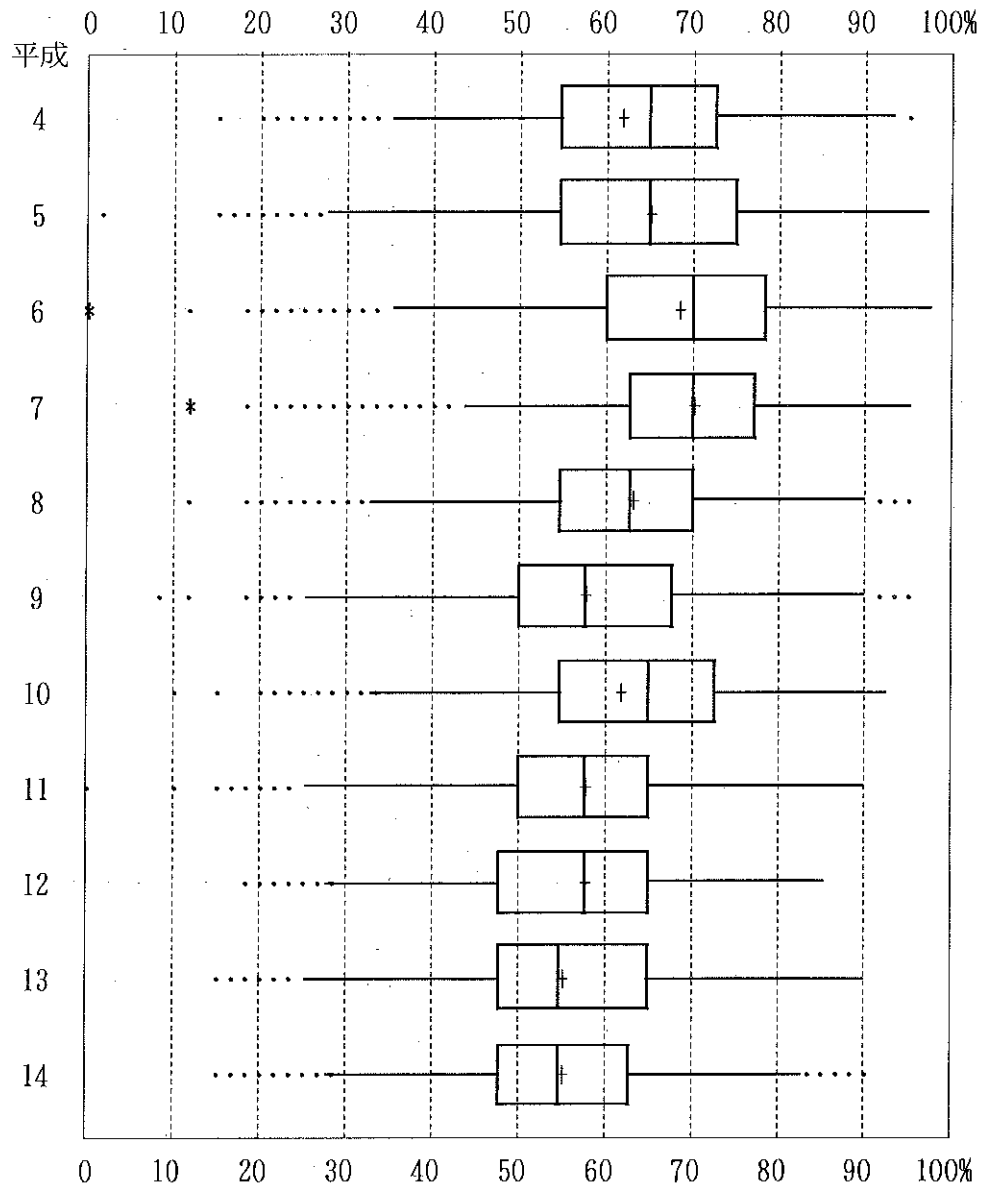
日本語教育能力検定試験 多肢選択総合得点
四分位等の推移



箱の中の「+」は平均を表し、「・」や「*」は外れ値を表す。

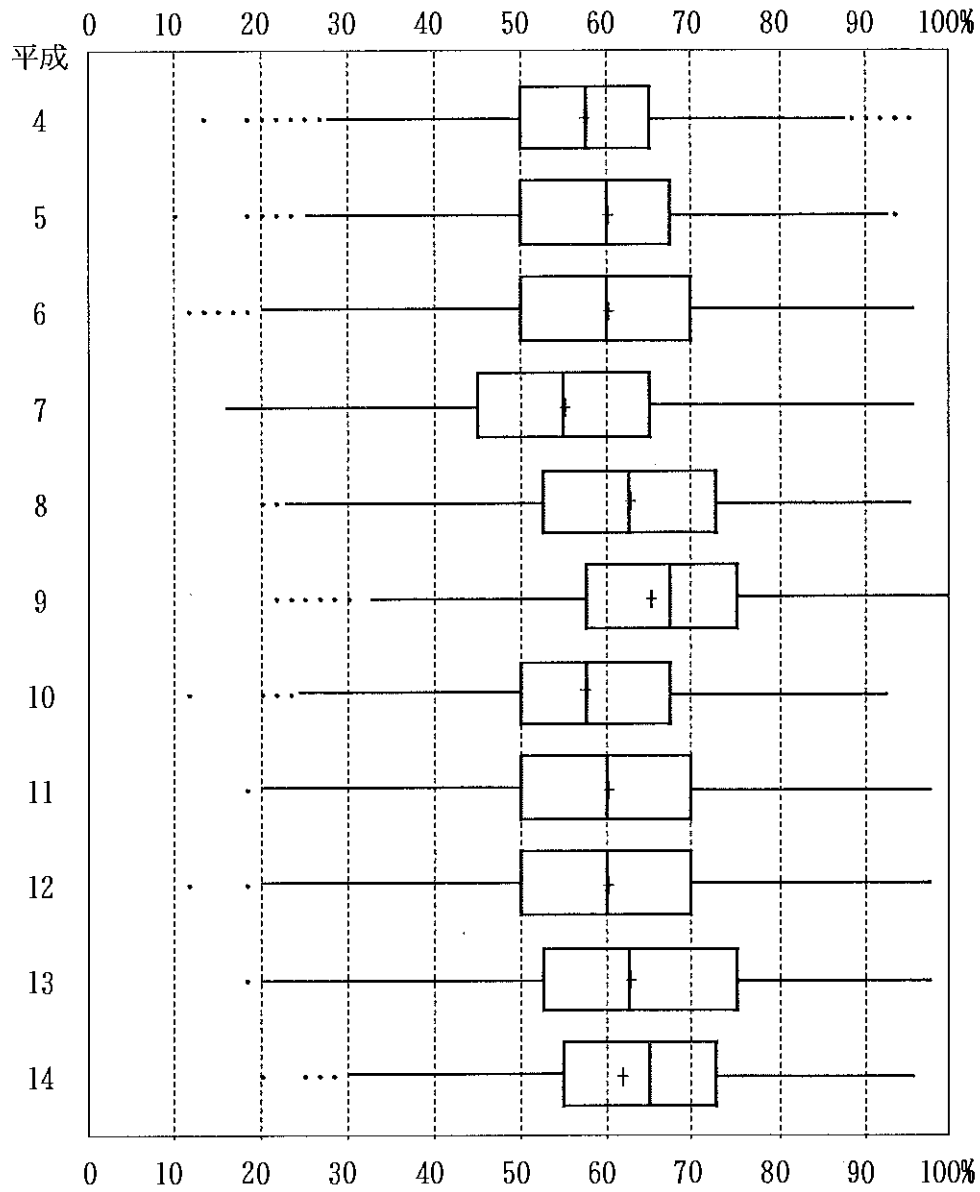
日本語教育能力検定試験 筆記試験 I

四分位等の推移



箱の中の「+」は平均を表し、「・」や「*」は外れ値を表す。

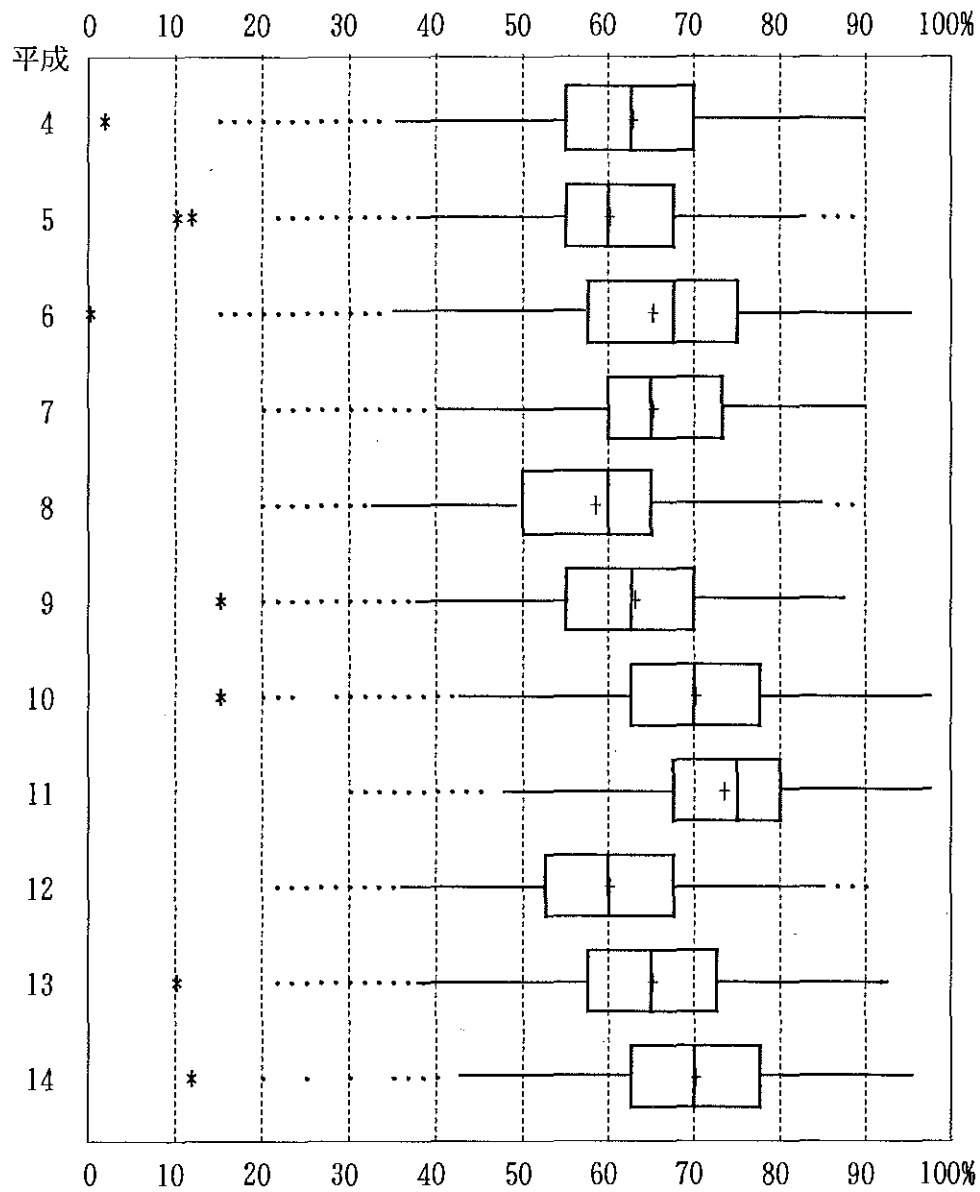
日本語教育能力検定試験 聴解試験
四分位等の推移



箱の中の「+」は平均を表し、「・」や「*」は外れ値を表す。

日本語教育能力検定試験 筆記試験II

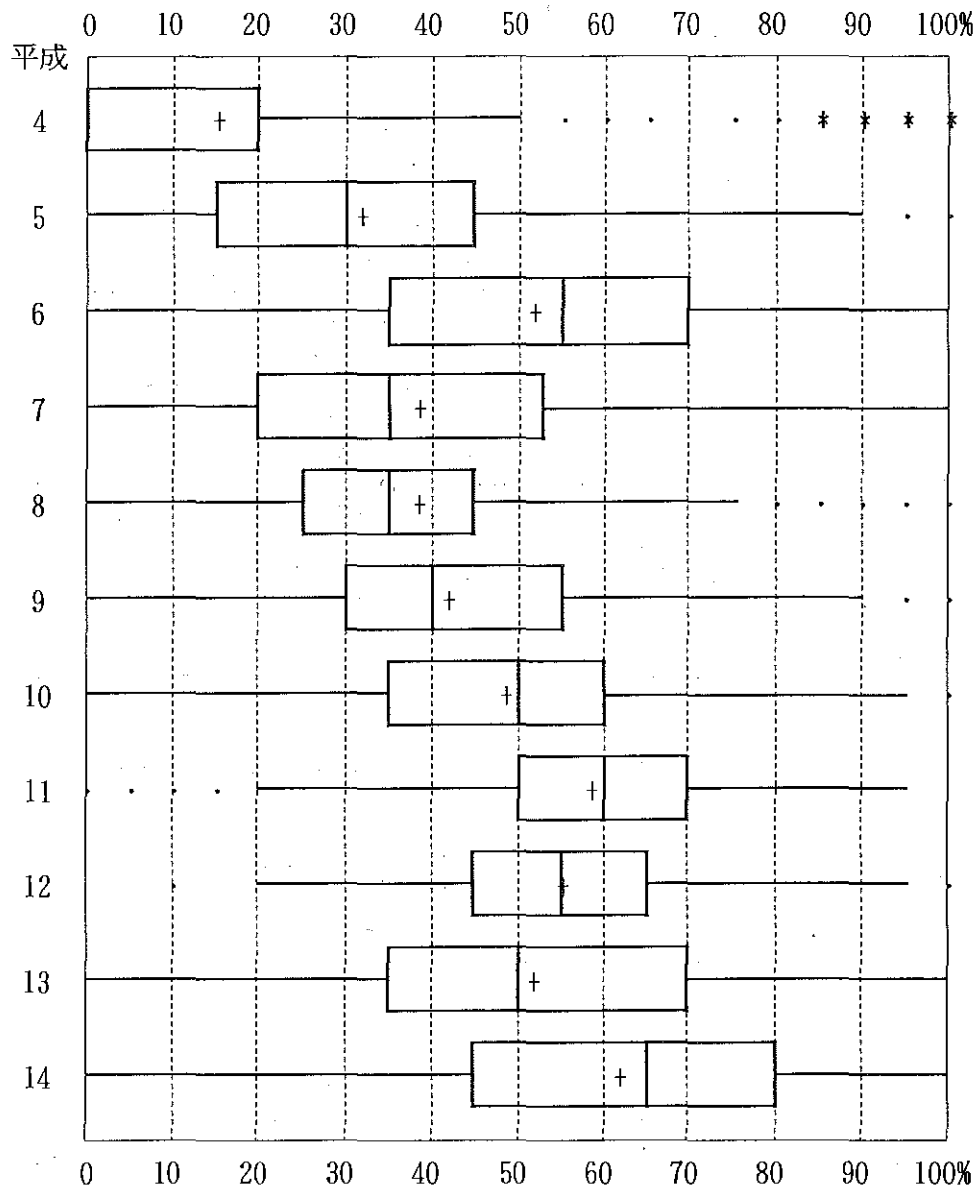
四分位等の推移



箱の中の「+」は平均を表し、「・」や「*」は外れ値を表す。

日本語教育能力検定試験 記述問題

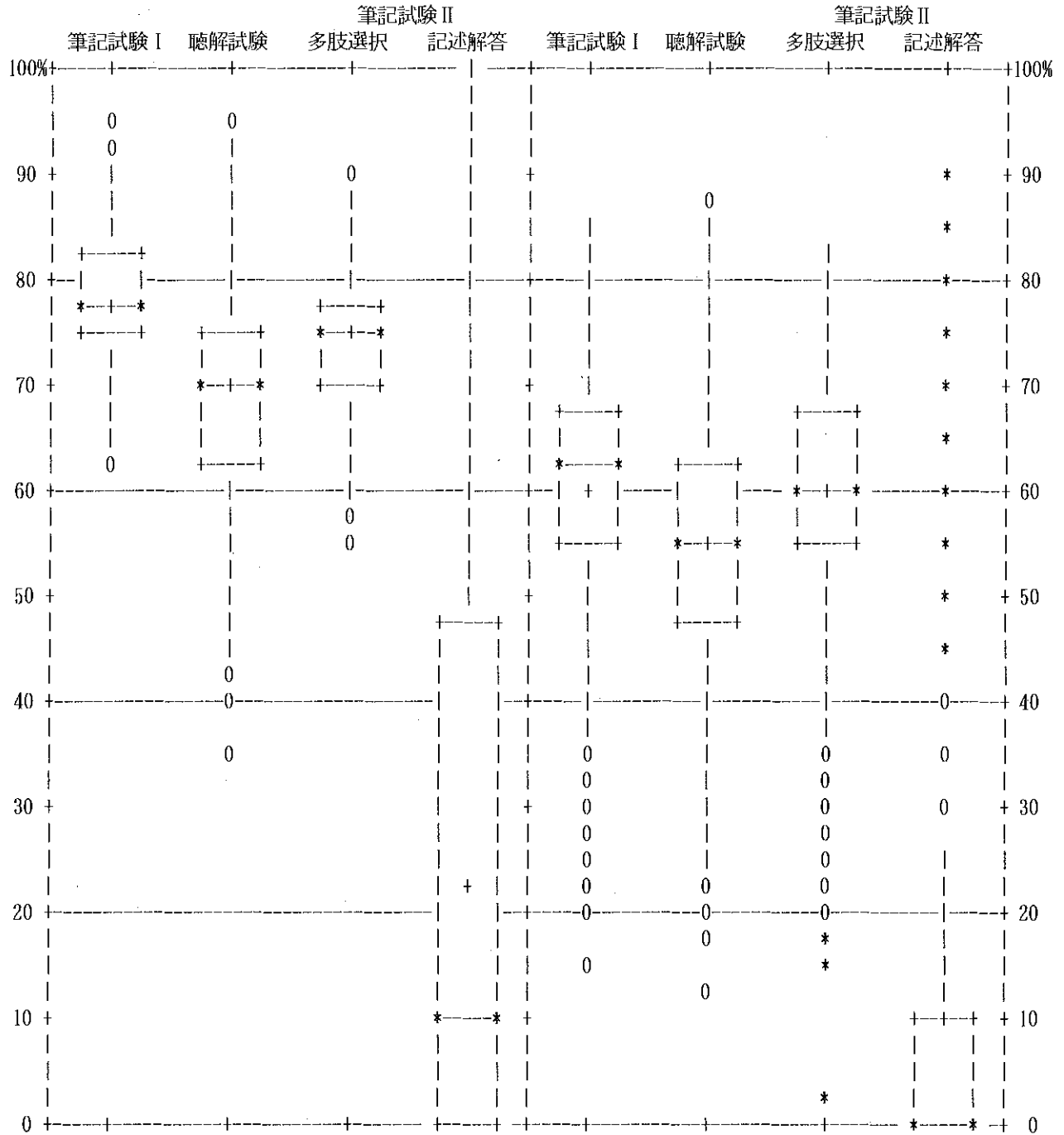
四分位等の推移



箱の中の「+」は平均を表し、「・」や「*」は外れ値を表す。

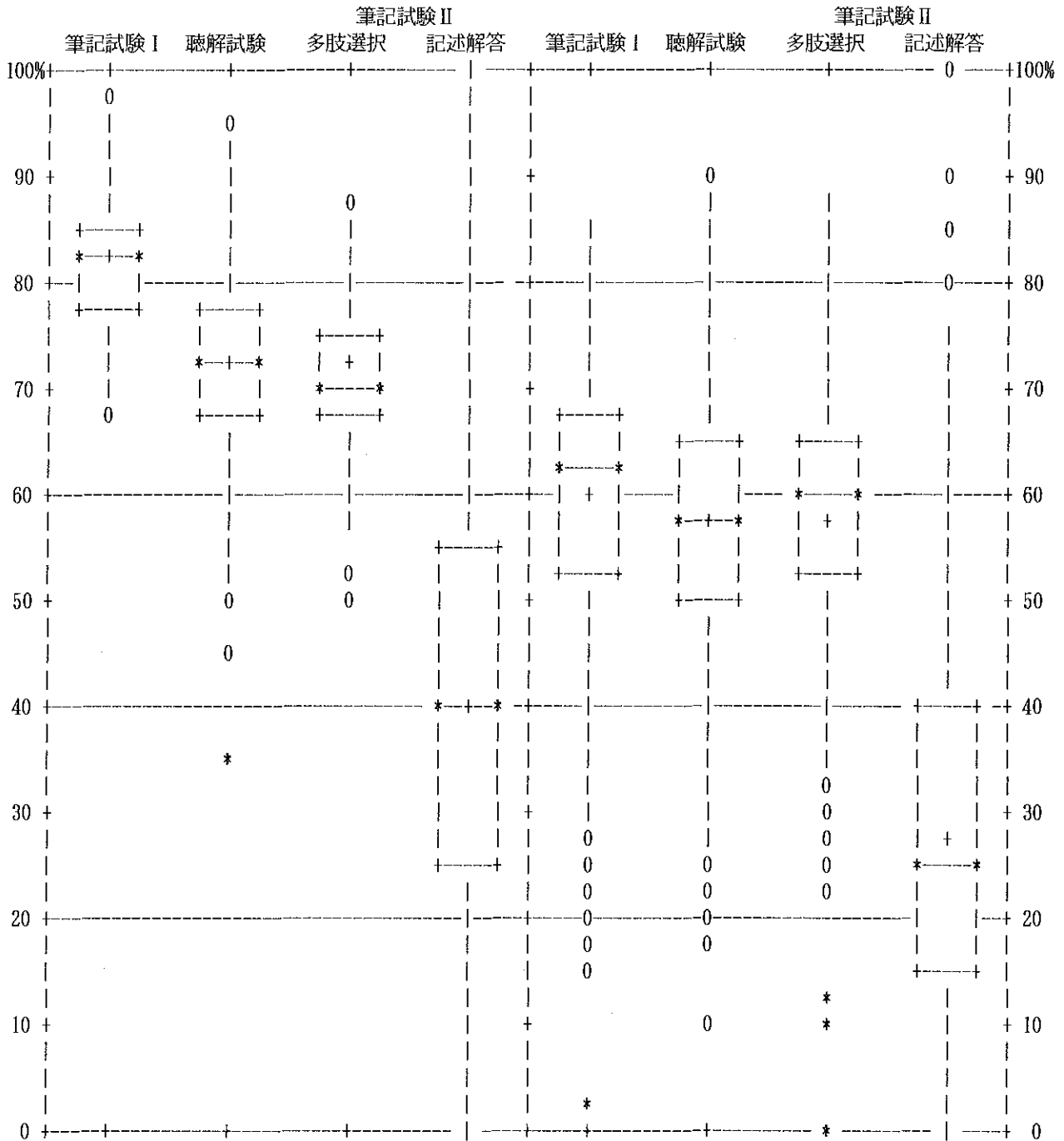
平成4年度 日本語教育能力検定試験 四分位等
合格者

不合格者



箱の中の「+」は平均を表し、「0」や「*」は外れ値を表す。

平成5年度 日本語教育能力検定試験 四分位等
合格者 不合格者



箱の中の「+」は平均を表し、「0」や「*」は外れ値を表す。

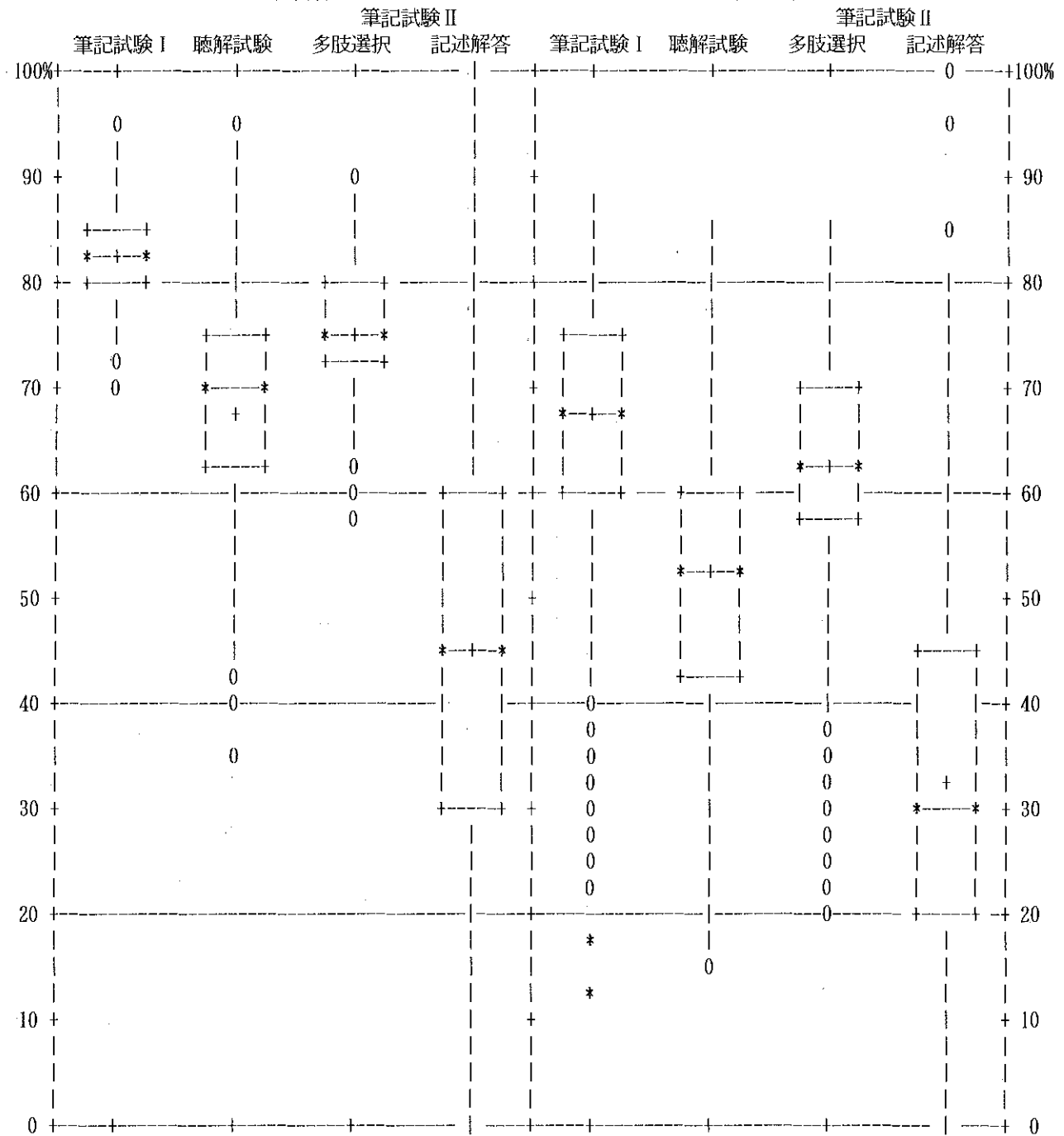
筆記試験Ⅱ



平成7年度 日本語教育能力検定試験 四分位等

合格者

不合格者

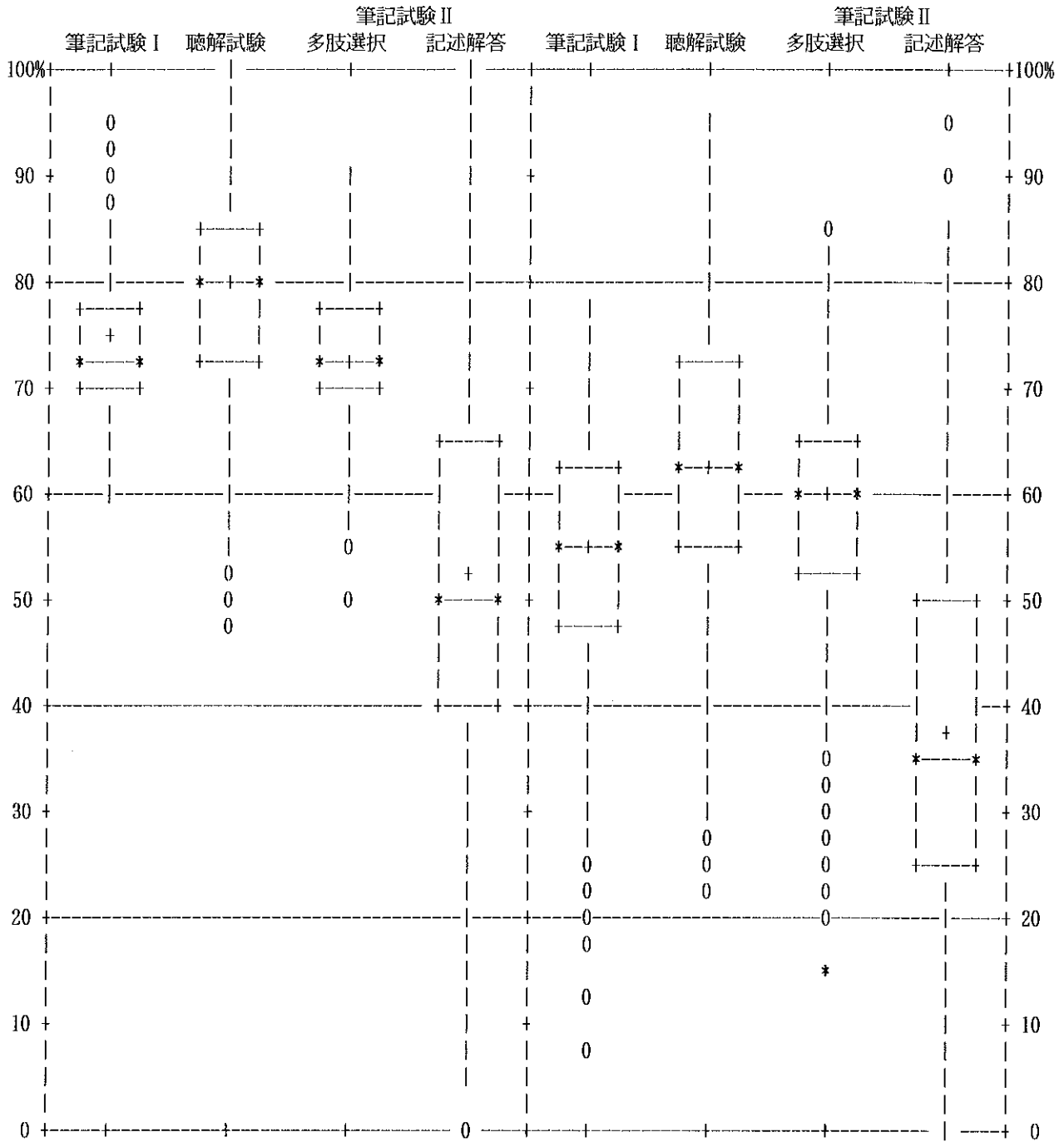


箱の中の「+」は平均を表し、「0」や「*」は外れ値を表す。

筆記試驗 II



平成9年度 日本語教育能力検定試験 四分位等
合格者 不合格者

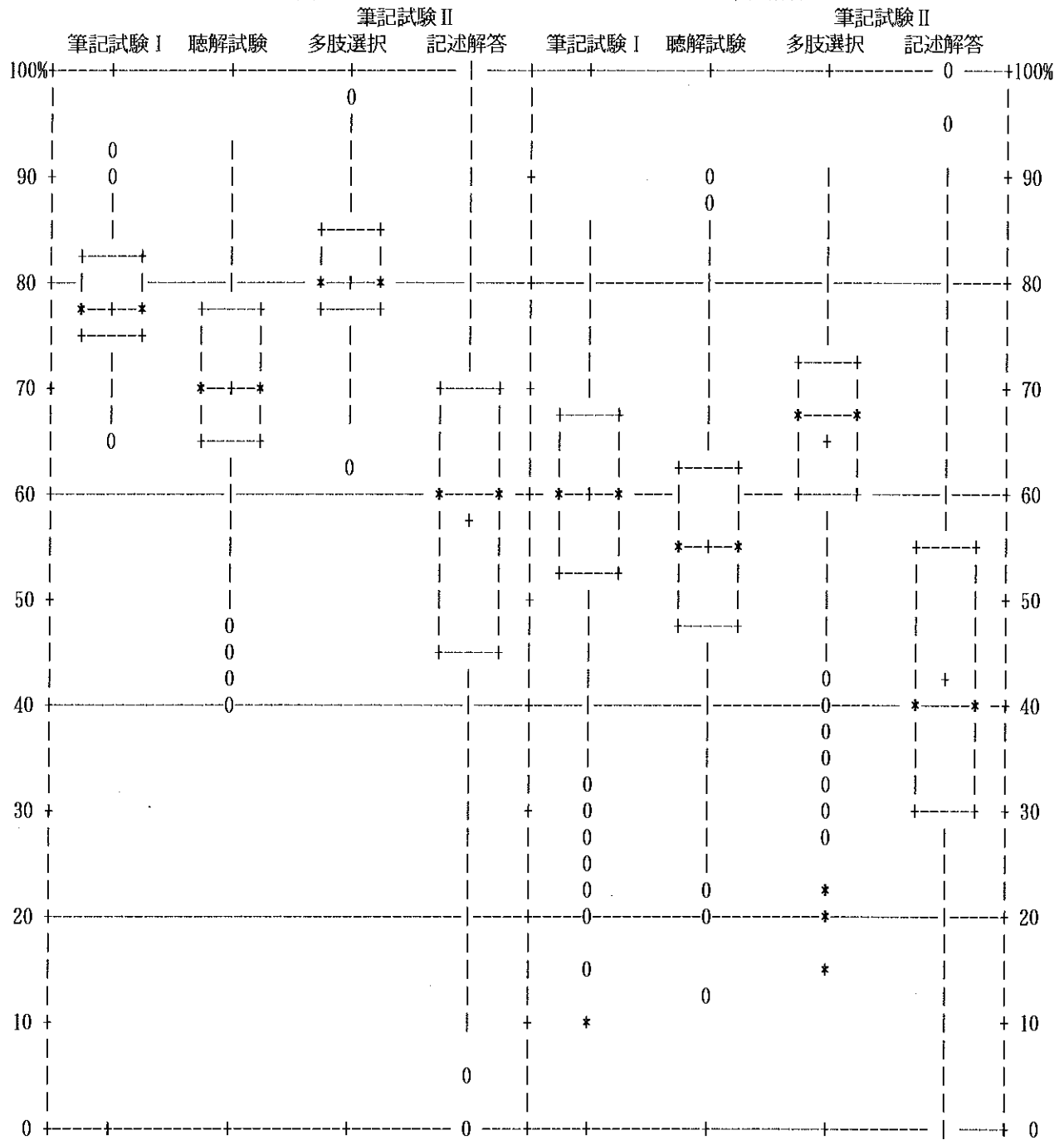


箱の中の「+」は平均を表し、「0」や「*」は外れ値を表す。

平成10年度 日本語教育能力検定試験 四分位等

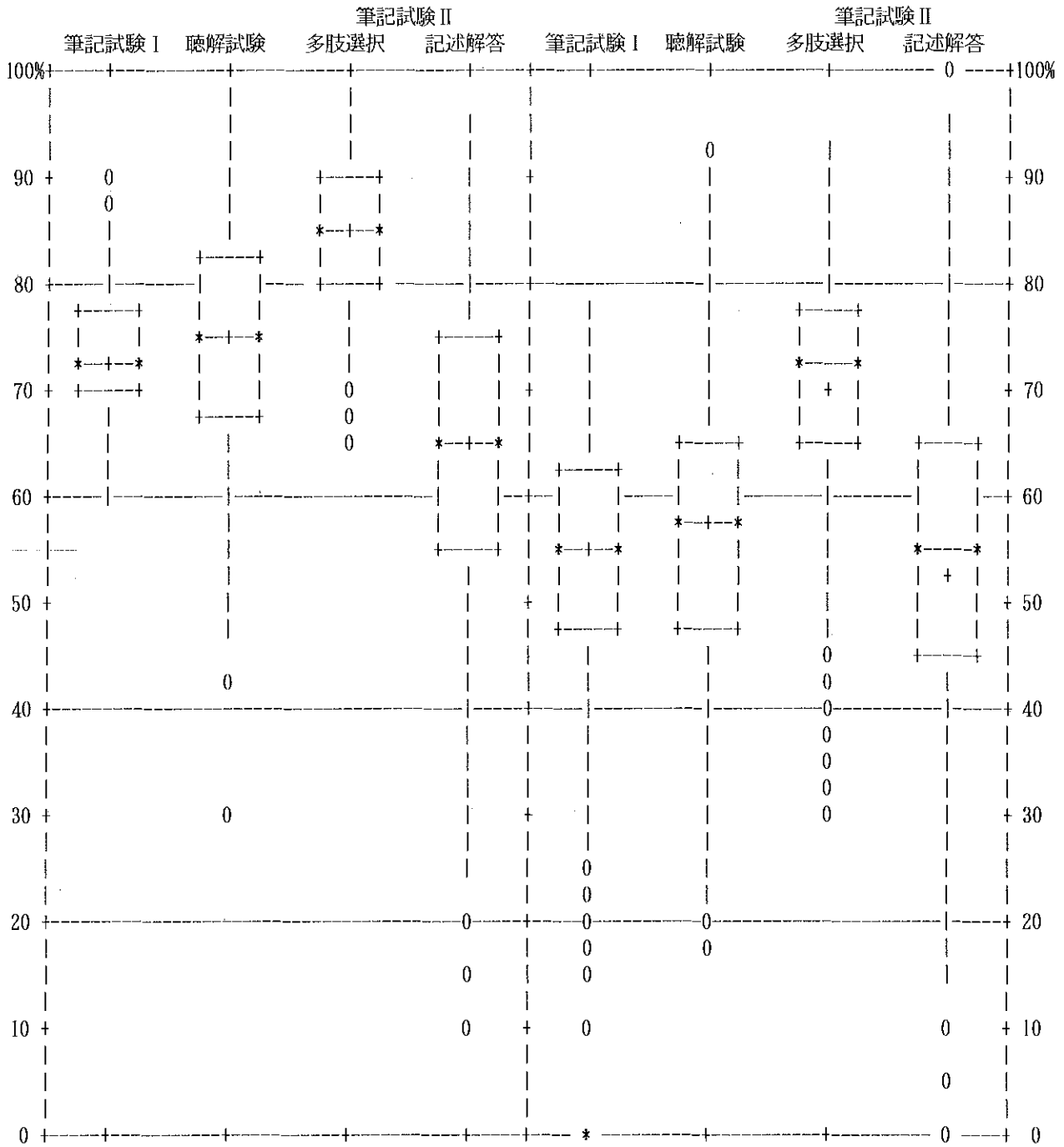
合格者

不合格者



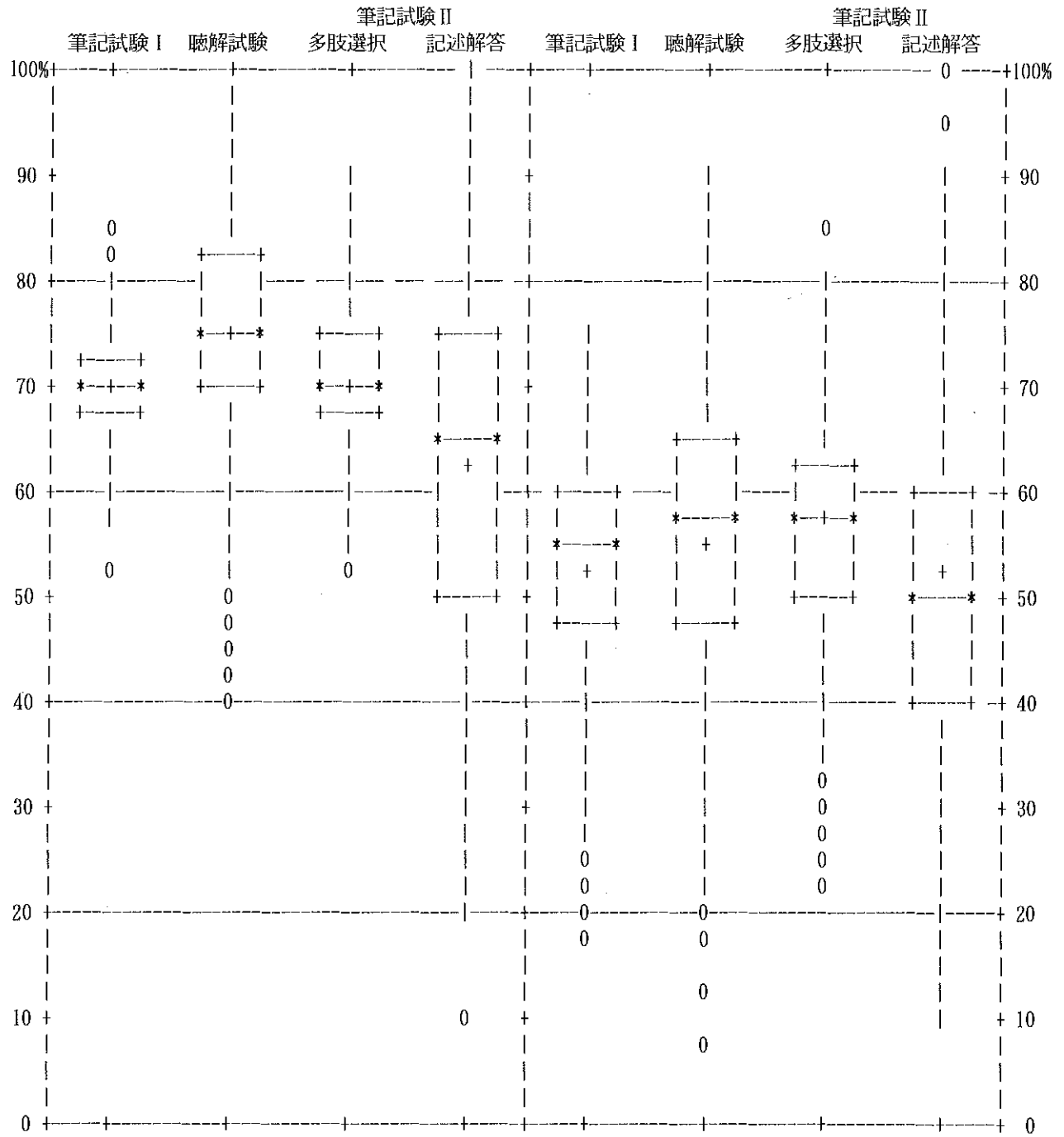
箱の中の「+」は平均を表し、「0」や「*」は外れ値を表す。

平成11年度 日本語教育能力検定試験 四分位等
合格者 不合格者



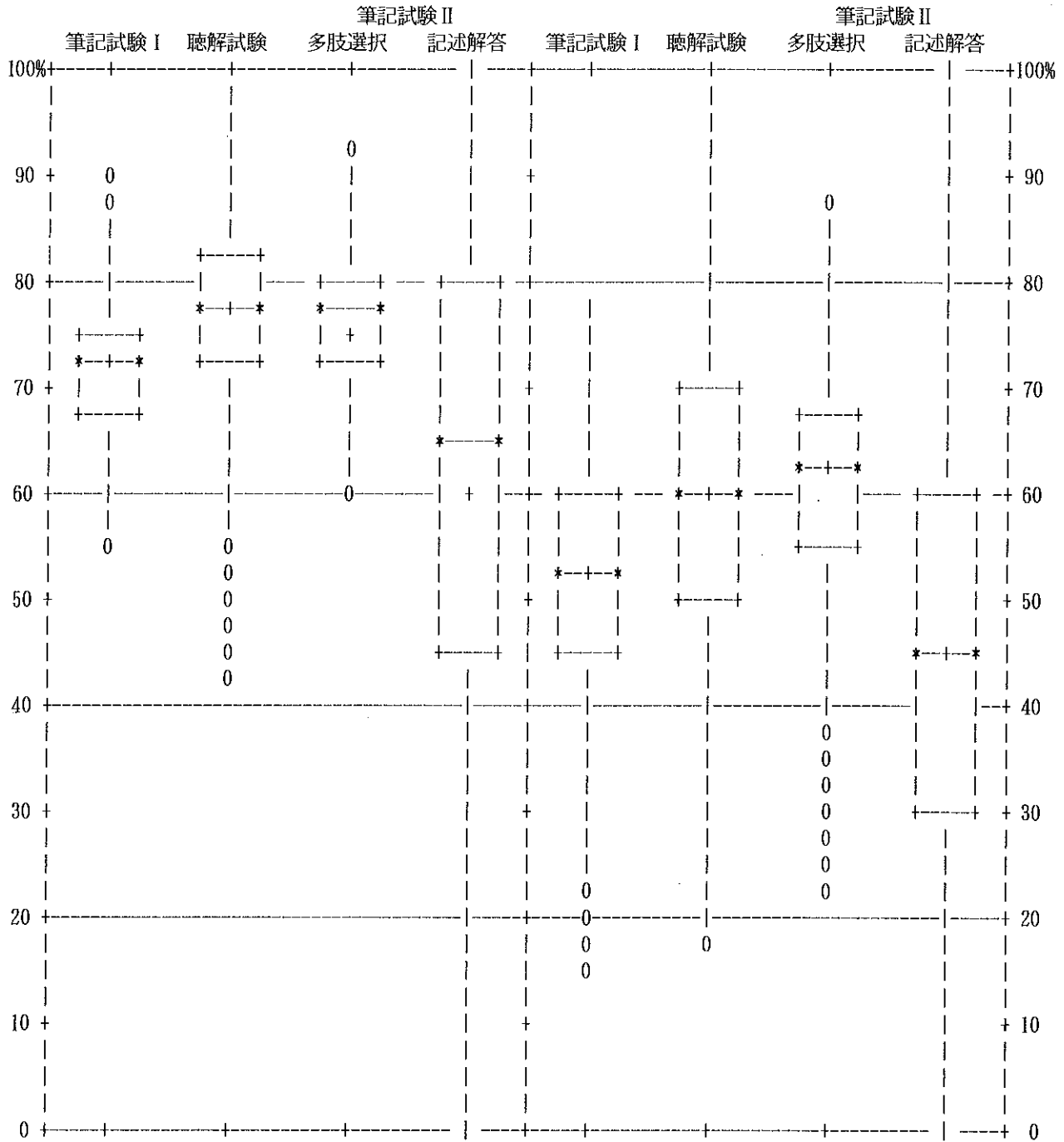
箱の中の「+」は平均を表し、「0」や「*」は外れ値を表す。

平成12年度 日本語教育能力検定試験 四分位等
合格者 不合格者



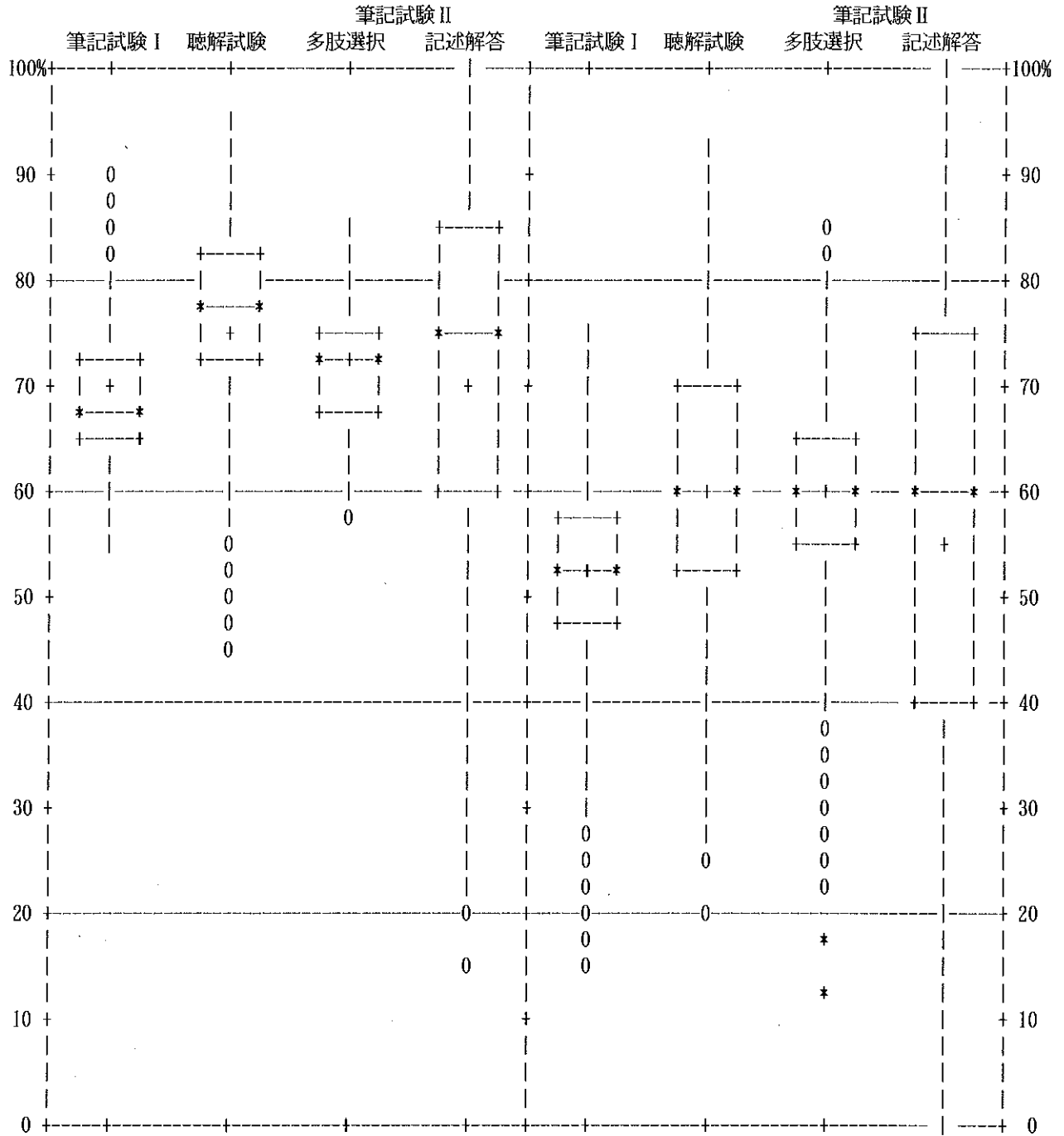
箱の中の「+」は平均を表し、「0」は外れ値を表す。

平成13年度 日本語教育能力検定試験 四分位等
合格者 不合格者



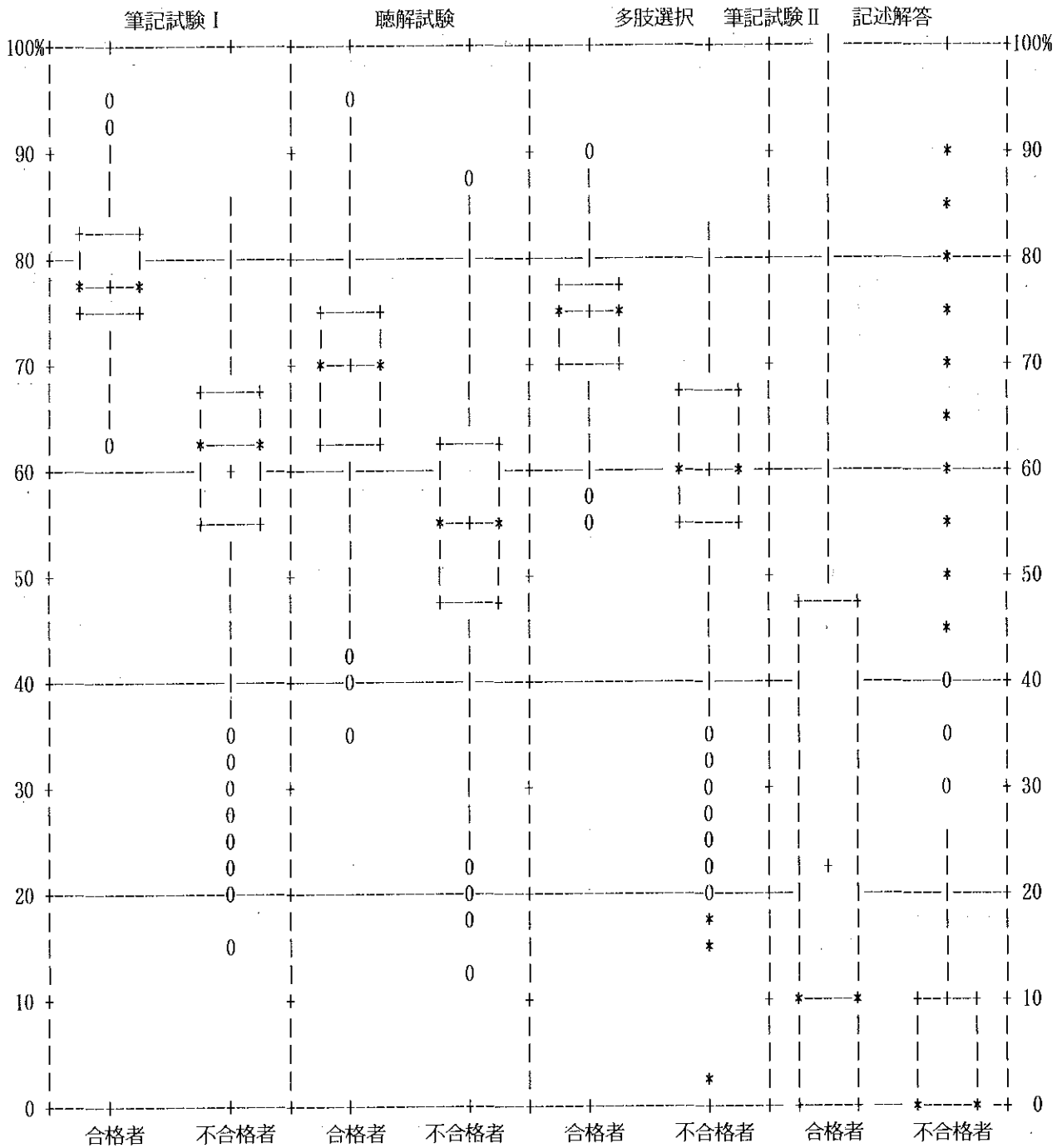
箱の中の「+」は平均を表し、「0」は外れ値を表す。

平成14年度 日本語教育能力検定試験 四分位等
合格者 不合格者



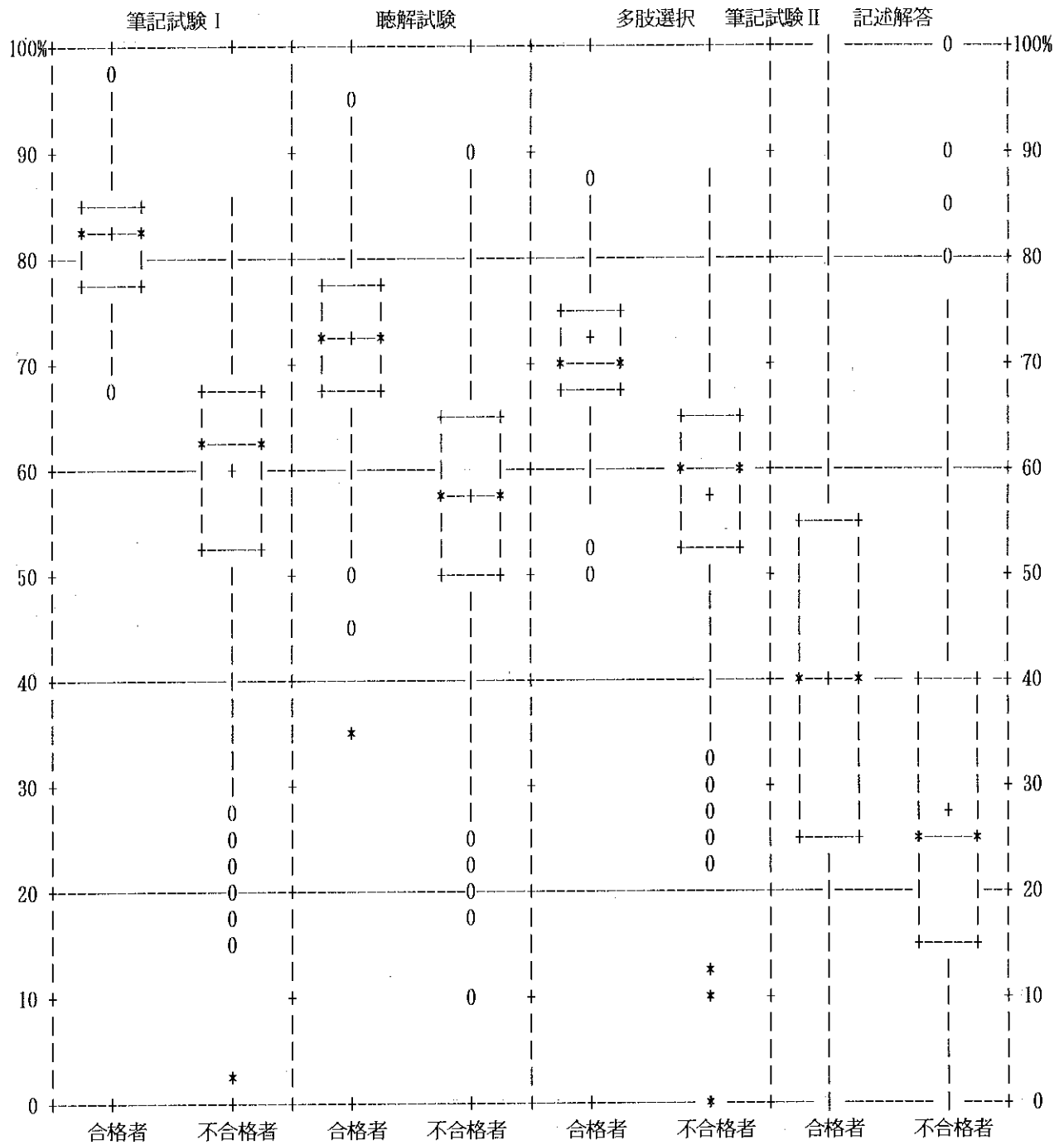
箱の中の「+」は平均を表し、「0」や「*」は外れ値を表す。

平成4年度 日本語教育能力検定試験 四分位等



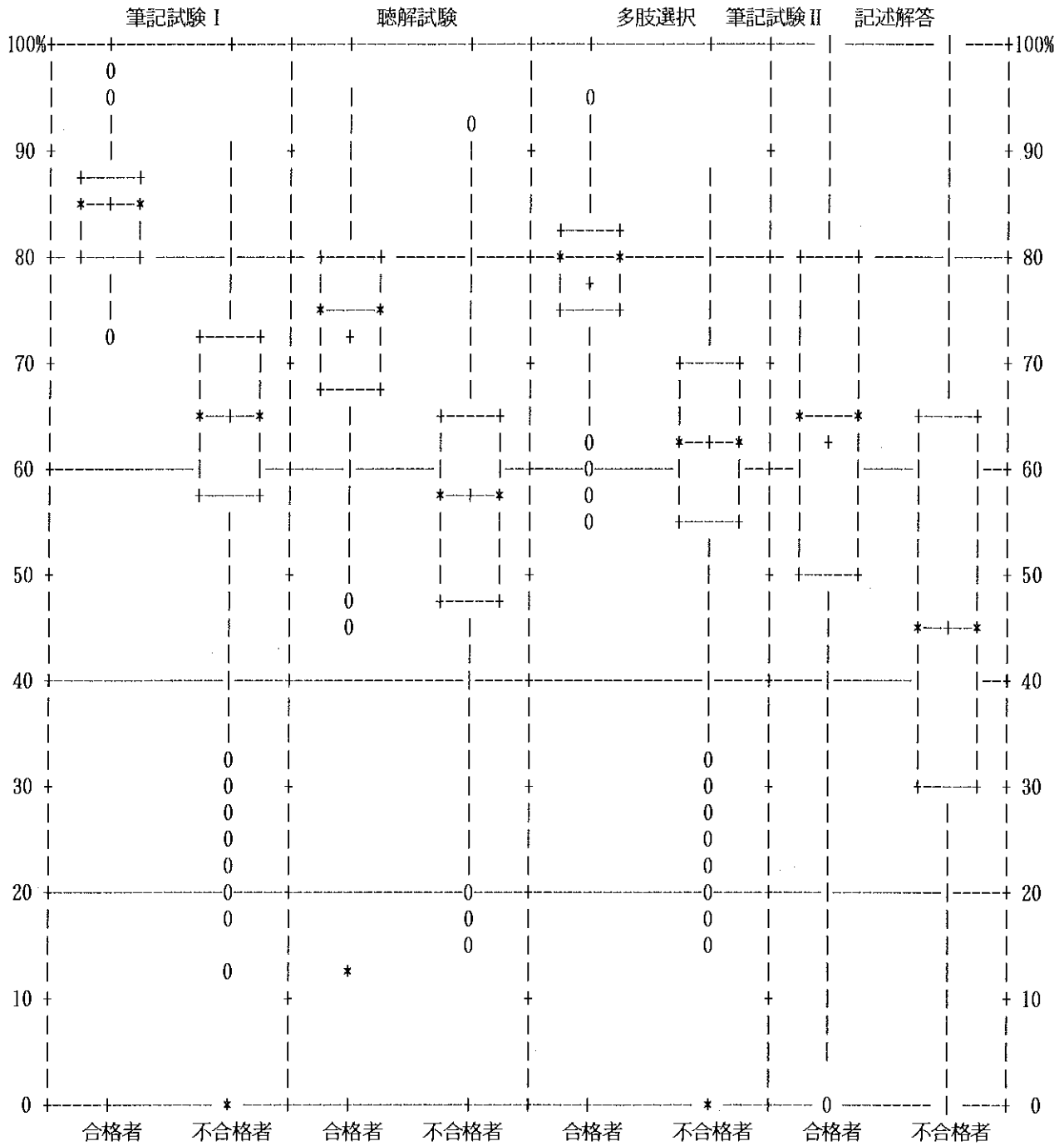
箱の中の「M」は平均を表し、「Q1」や「Q3」は外れ値を表す。

平成5年度 日本語教育能力検定試験 四分位等



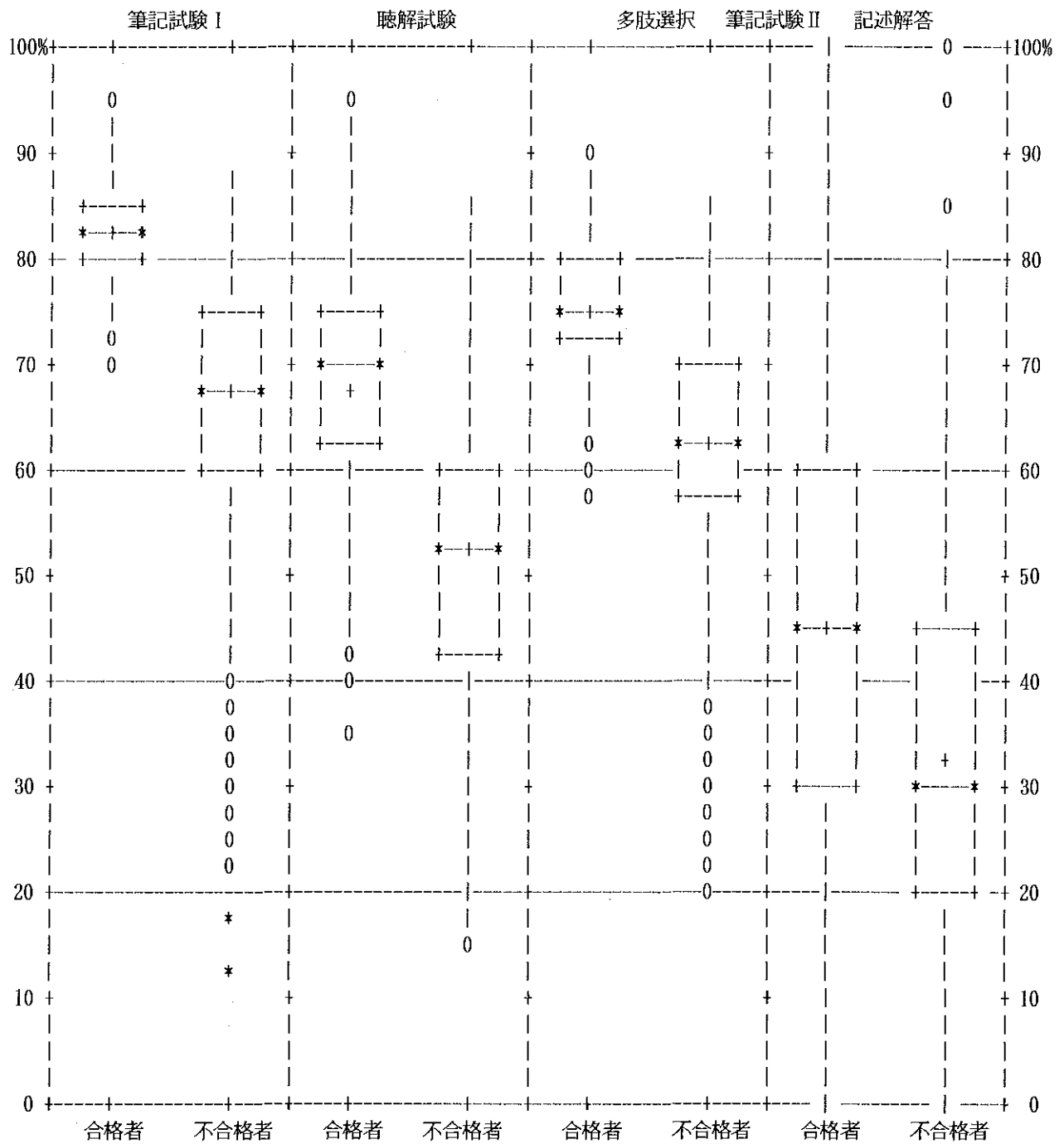
箱の中の「+」は平均を表し、「0」や「*」は外れ値を表す。

平成6年度 日本語教育能力検定試験 四分位等



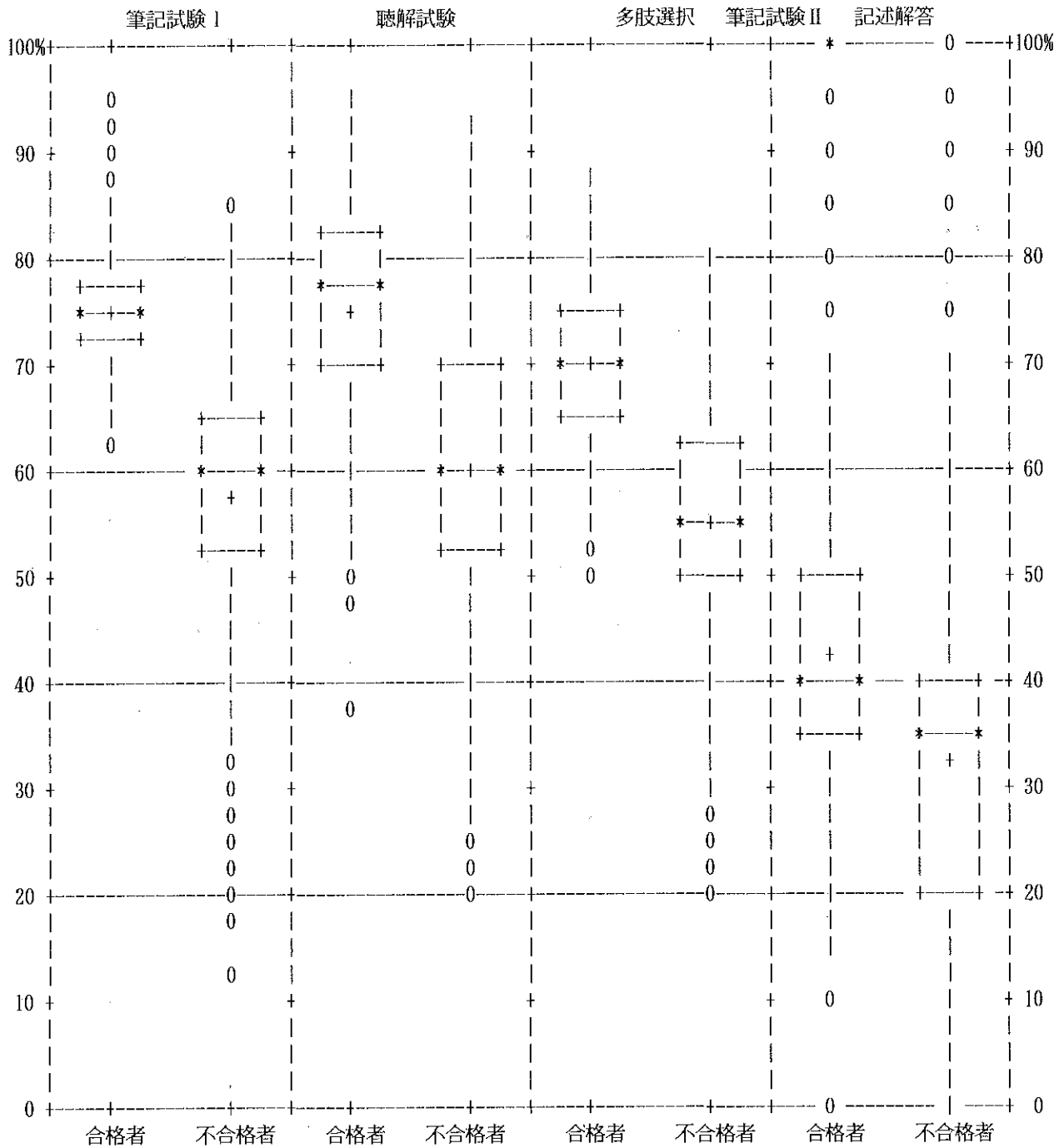
箱の中の「+」は平均を表し、「0」や「*」は外れ値を表す。

平成7年度 日本語教育能力検定試験 四分位等



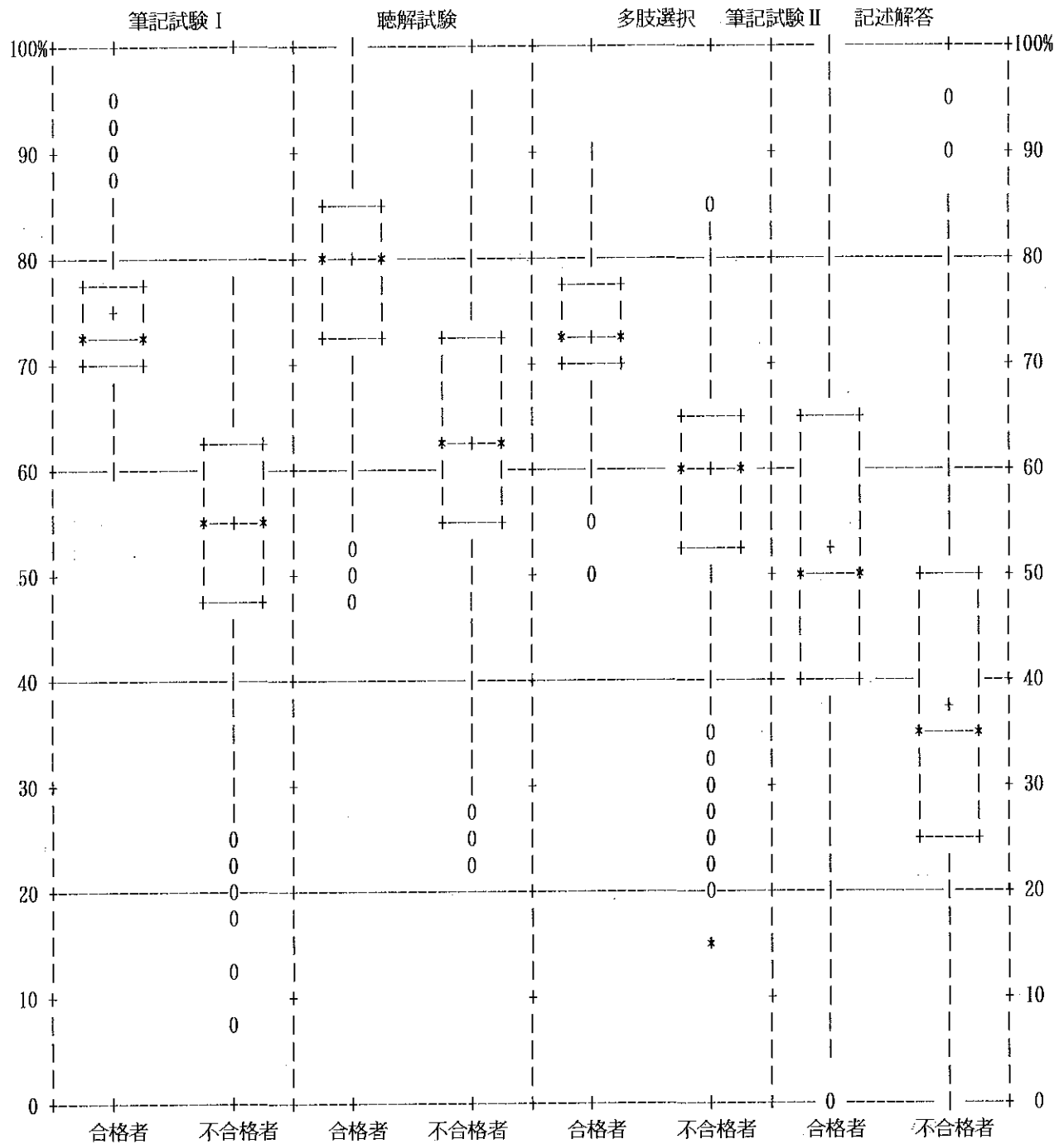
箱の中の「+」は平均を表し、「0」や「*」は外れ値を表す。

平成8年度 日本語教育能力検定試験 四分位等



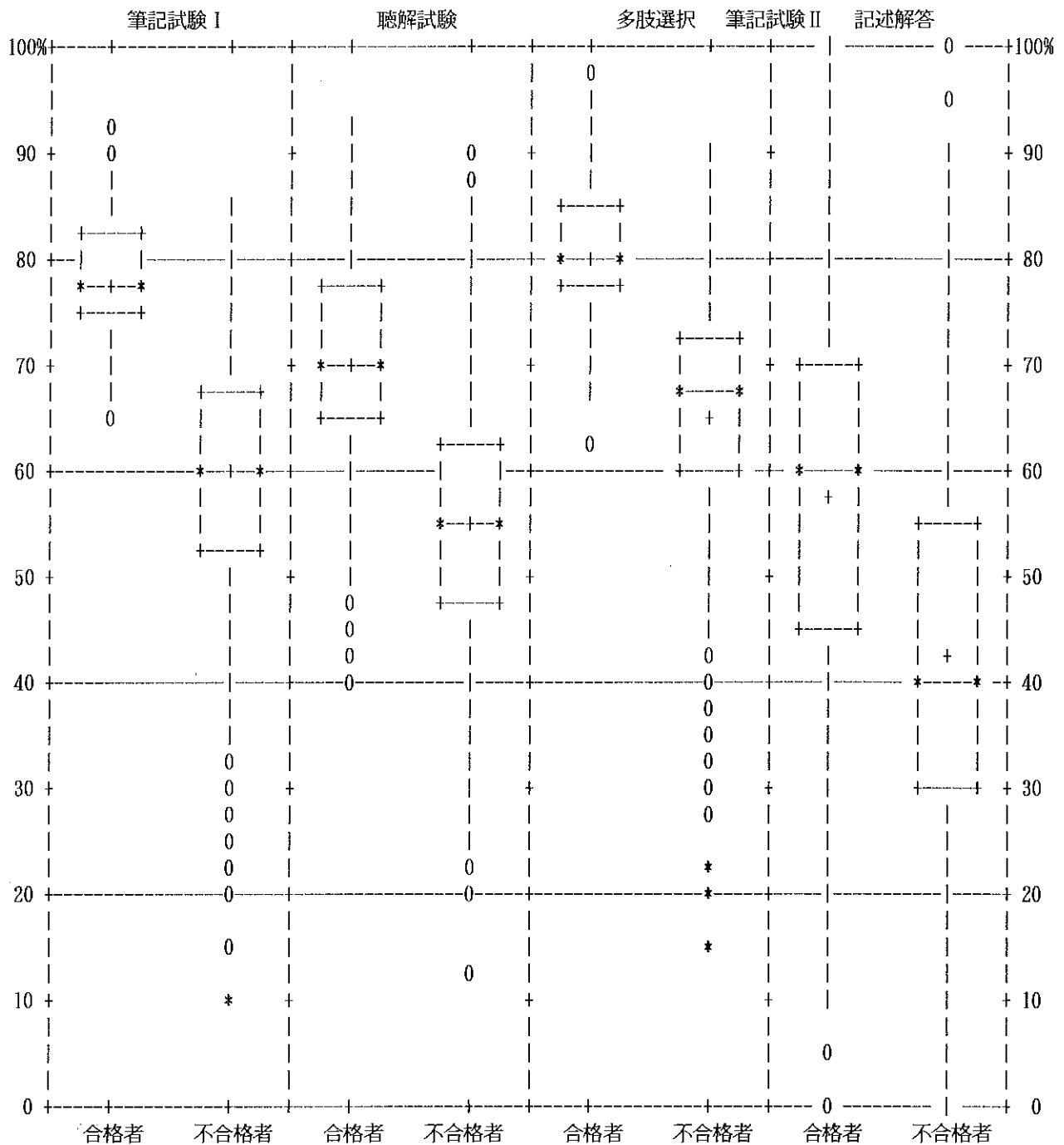
箱の中の「+」は平均を表し、「0」や「*」は外れ値を表す。

平成9年度 日本語教育能力検定試験 四分位等



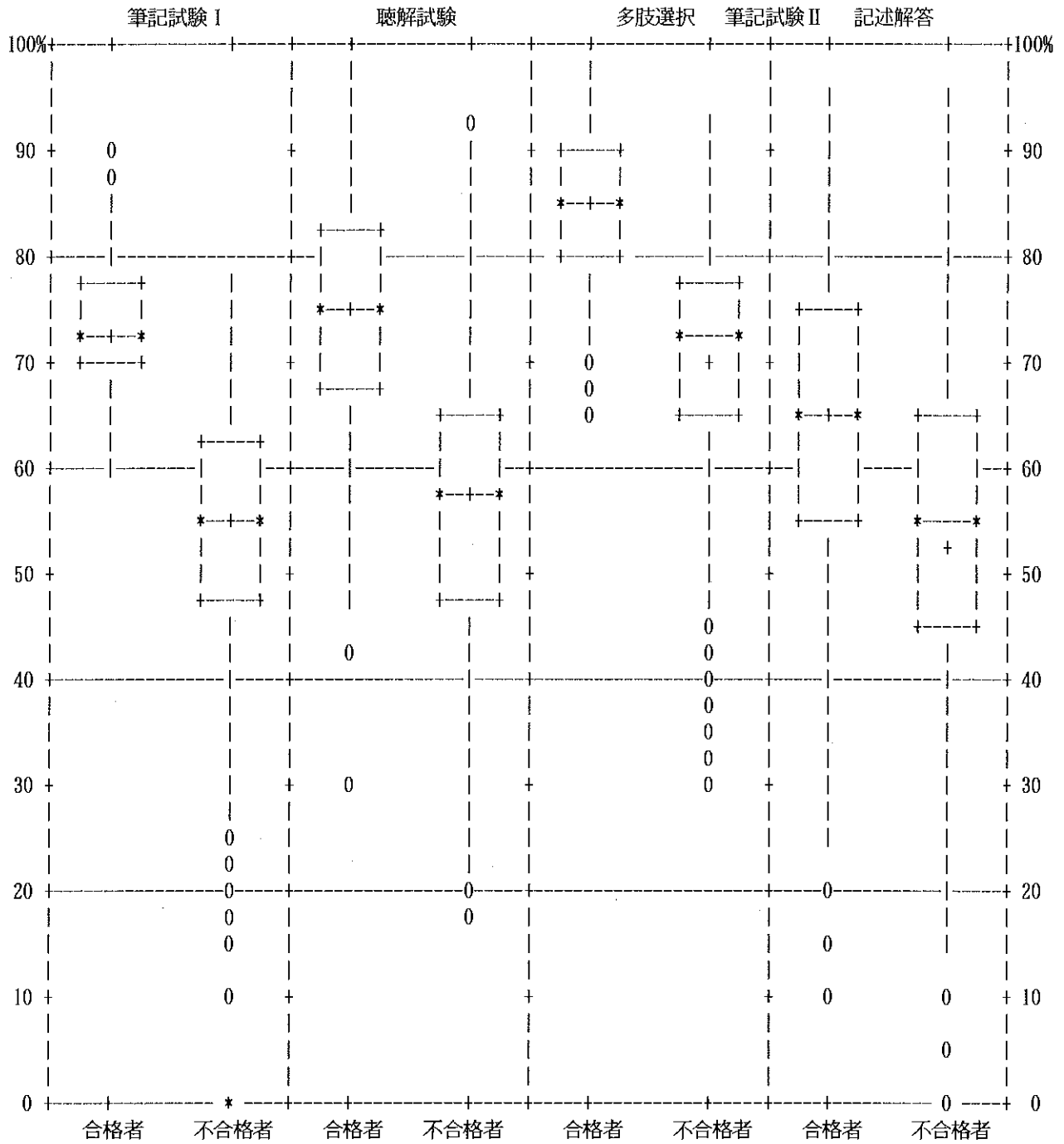
箱の中の「+」は平均を表し、「0」や「*」は外れ値を表す.

平成10年度 日本語教育能力検定試験 四分位等



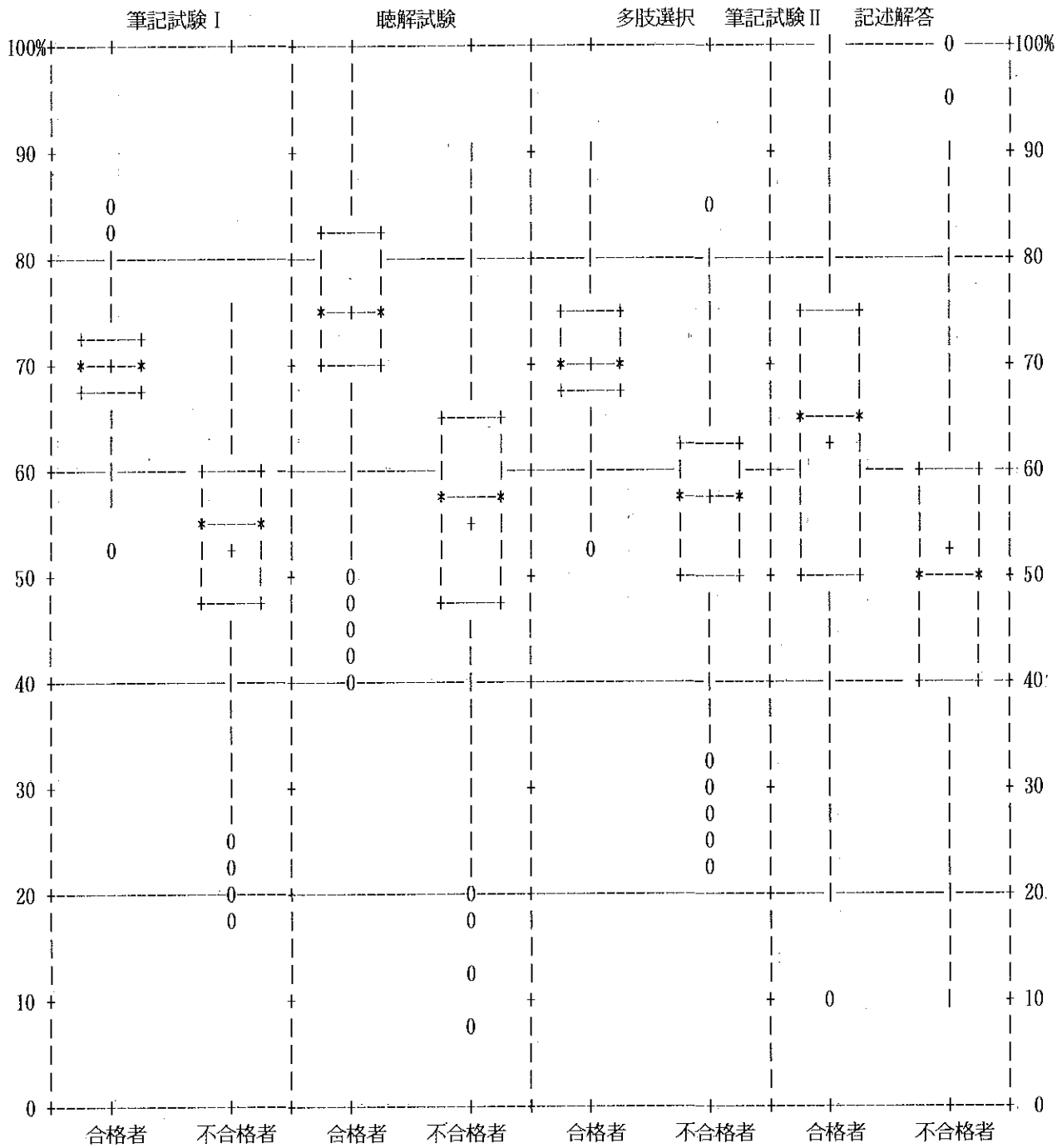
箱の中の「+」は平均を表し、「0」や「*」は外れ値を表す。

平成11年度 日本語教育能力検定試験 四分位等



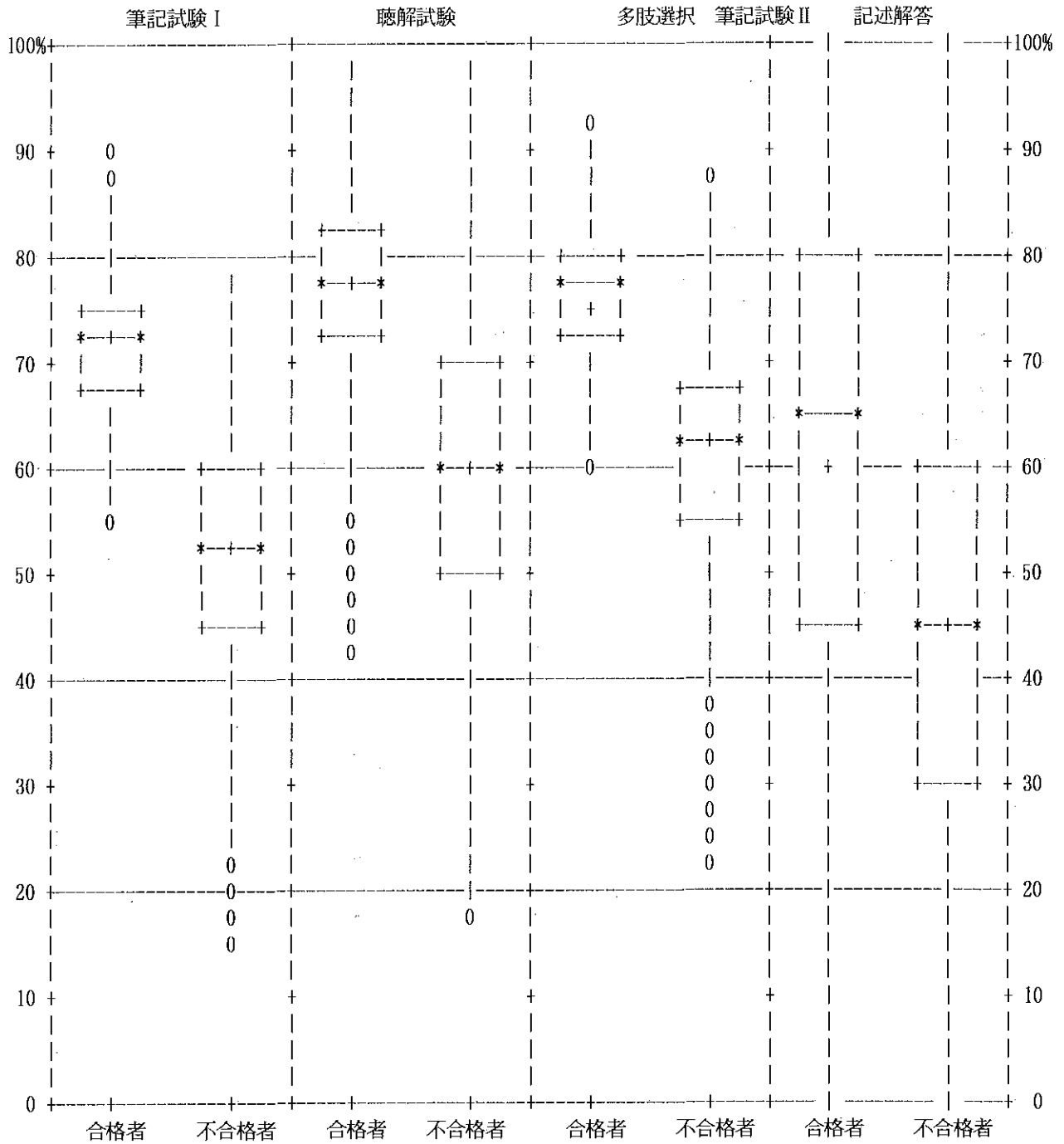
箱の中の「+」は平均を表し、「0」や「*」は外れ値を表す。

平成12年度 日本語教育能力検定試験 四分位等



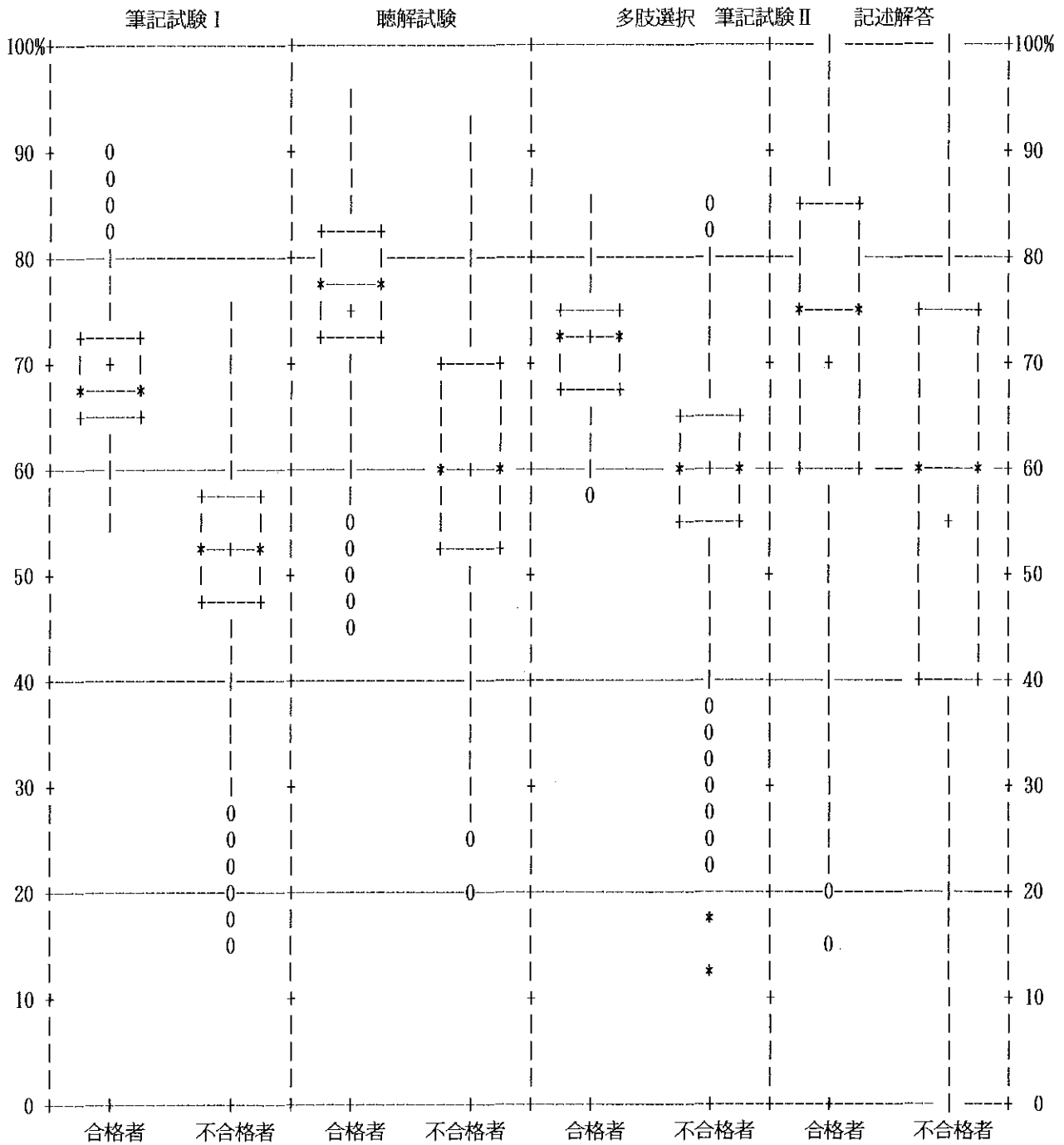
箱の中の「+」は平均を表し、「0」は外れ値を表す。

平成13年度 日本語教育能力検定試験 四分位等



箱の中の「+」は平均を表し、「0」は外れ値を表す。

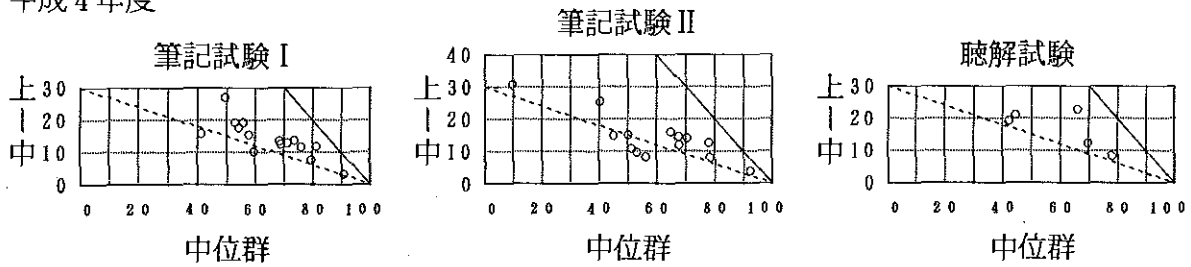
平成14年度 日本語教育能力検定試験 四分位等



箱の中の「+」は平均を表し、「0」や「*」は外れ値を表す。

日本語教育能力検定試験 上位群と中位群の大問得点率

平成4年度



筆記試験 I

問題	中位群	上-中
1	69.09	12.50
2	79.84	7.75
3	76.19	11.78
4	90.81	3.30
5	55.91	19.27
6	49.55	27.01
7	54.49	17.66
8	41.45	15.81
9	59.67	10.24
10	73.82	13.71
11	57.96	15.54
12	81.50	11.90
13	71.25	12.93
14	53.09	19.19
15	68.60	13.50

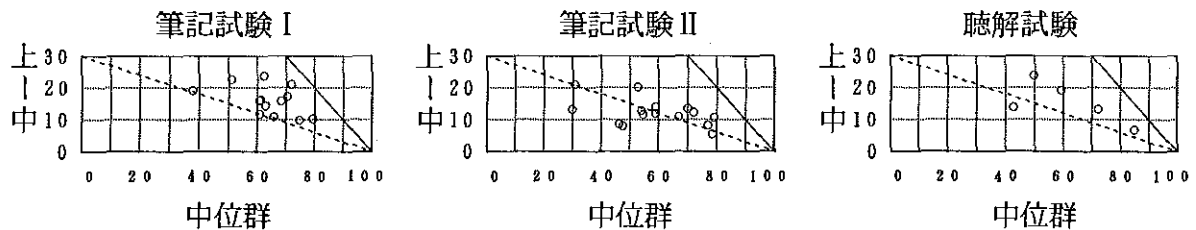
筆記試験 II

問題	中位群	上-中
1	40.33	25.57
2	78.61	8.18
3	67.67	14.54
4	50.37	15.11
5	70.66	14.04
6	78.09	12.62
7	67.93	11.88
8	53.56	9.75
9	65.12	16.13
10	56.57	8.27
11	51.57	10.93
12	92.40	3.96
13	45.23	14.80
14	9.75	30.93

聴解試験

問題	中位群	上-中
1	69.99	12.54
2	66.08	22.83
3	44.71	21.13
4	42.47	19.36
5	78.22	8.41

平成5年度



筆記試験 I

問題	中位群	上-中
1	74.76	9.87
2	61.25	16.26
3	62.42	23.80
4	61.15	11.82
5	60.79	16.15
6	72.00	21.11
7	70.59	17.28
8	51.02	22.63
9	66.07	10.98
10	68.33	15.92
11	79.55	10.30
12	38.07	19.13
13	62.99	14.44

筆記試験 II

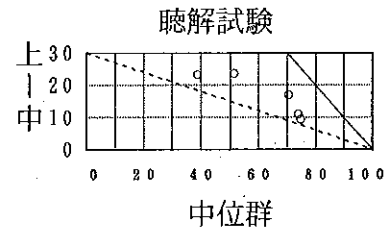
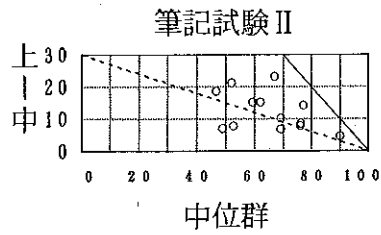
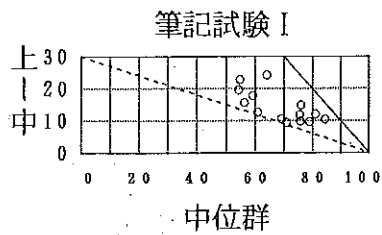
問題	中位群	上-中
1	30.06	13.38
2	76.99	8.33
3	72.22	12.30
4	70.13	13.41
5	52.84	20.27
6	46.31	8.61
7	59.16	12.18
8	54.89	11.69
9	54.14	12.85
10	59.15	14.16
11	67.16	10.89
12	79.39	10.66
13	78.69	5.56
14	47.65	8.13
15	30.81	21.17

聴解試験

問題	中位群	上-中
1	72.38	13.32
2	59.37	19.24
3	49.78	23.97
4	42.80	13.87
5	85.09	6.81

日本語教育能力検定試験 上位群と中位群の大問得点率

平成6年度



筆記試験Ⅰ

問題	中位群	上-中
1	75.84	11.74
2	59.31	17.76
3	79.10	9.49
4	64.08	24.12
5	54.93	22.86
6	69.20	10.59
7	81.23	11.99
8	71.09	9.47
9	75.90	9.83
10	84.71	10.46
11	56.39	15.61
12	61.12	12.61
13	54.39	19.61
14	76.17	14.87

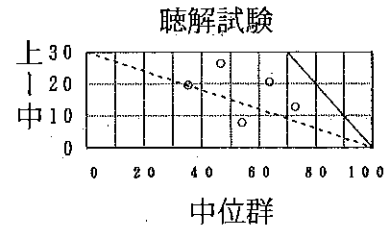
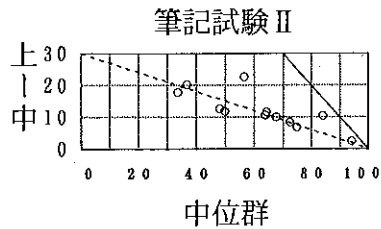
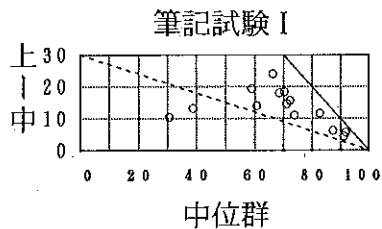
筆記試験Ⅱ

問題	中位群	上-中
1	77.39	14.23
2	76.43	8.54
3	52.91	7.86
4	69.20	10.25
5	59.61	15.22
6	67.10	23.09
7	62.15	15.10
8	76.14	7.72
9	69.24	6.83
10	46.75	18.60
11	49.16	6.91
12	90.17	4.65
13	52.29	21.16

聴解試験

問題	中位群	上-中
1	74.07	11.00
2	70.61	17.07
3	51.51	23.59
4	38.92	23.20
5	74.77	9.35

平成7年度



筆記試験Ⅰ

問題	中位群	上-中
1	73.95	11.00
2	91.40	4.40
3	30.77	10.46
4	60.75	14.07
5	72.36	15.54
6	91.97	5.56
7	70.47	18.35
8	68.62	17.90
9	71.36	14.52
10	82.82	11.56
11	39.12	13.22
12	87.44	6.12
13	66.36	24.02
14	59.05	19.33

筆記試験Ⅱ

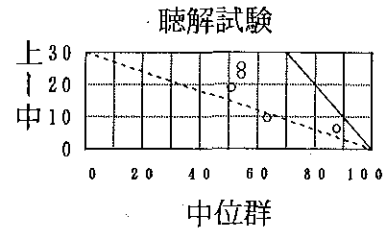
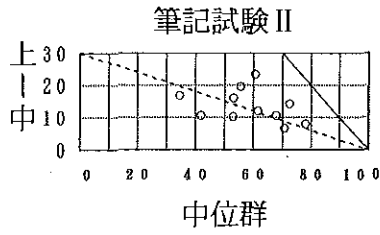
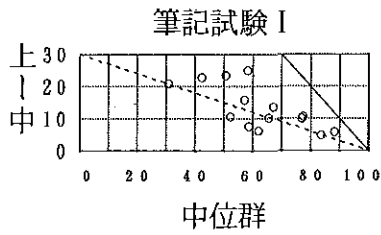
問題	中位群	上-中
1	84.16	10.29
2	72.61	8.48
3	94.21	2.32
4	63.99	10.52
5	75.16	6.76
6	49.87	11.88
7	67.72	9.97
8	56.57	22.59
9	33.77	17.86
10	64.51	11.56
11	48.10	12.59
12	36.89	20.23

聴解試験

問題	中位群	上-中
1	72.93	12.78
2	63.87	20.62
3	46.55	26.44
4	35.53	19.49
5	54.13	7.75

日本語教育能力検定試験 上位群と中位群の大問得点率

平成8年度



筆記試験 I

問題	中位群	上-中
1	65.78	10.21
2	67.31	13.63
3	83.85	4.82
4	31.00	20.82
5	58.37	25.06
6	77.58	10.72
7	57.40	15.92
8	77.03	9.98
9	52.40	10.72
10	42.67	22.89
11	58.76	7.71
12	62.19	6.20
13	88.41	5.80
14	50.87	23.52

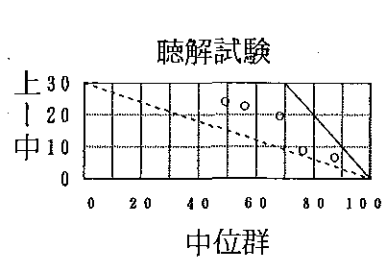
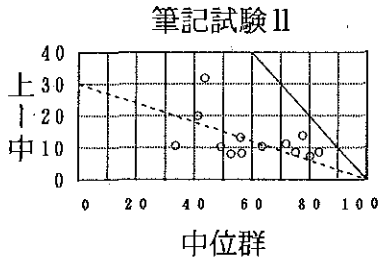
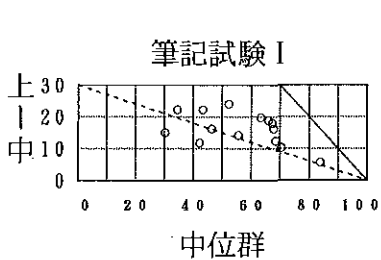
筆記試験 II

問題	中位群	上-中
1	72.62	14.33
2	53.39	16.07
3	78.21	8.06
4	61.72	12.08
5	67.95	10.68
6	55.83	19.74
7	60.89	23.37
8	41.90	10.61
9	70.90	6.61
10	53.18	10.30
11	34.71	16.91

聴解試験

問題	中位群	上-中
1	87.64	6.42
2	51.15	19.15
3	54.36	23.09
4	54.49	25.75
5	63.55	9.73

平成9年度



筆記試験 I

問題	中位群	上-中
1	68.63	12.41
2	66.09	18.77
3	63.57	19.94
4	83.86	5.73
5	70.59	10.35
6	67.96	16.27
7	34.69	22.20
8	42.41	11.80
9	55.74	14.22
10	43.43	22.34
11	46.65	16.18
12	52.45	24.15
13	30.47	15.07
14	67.60	18.03

筆記試験 II

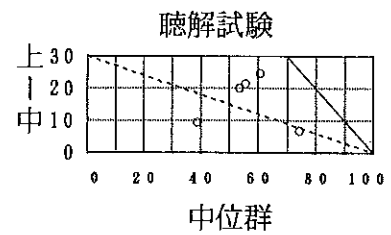
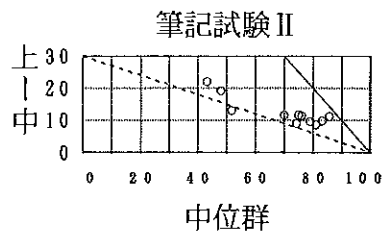
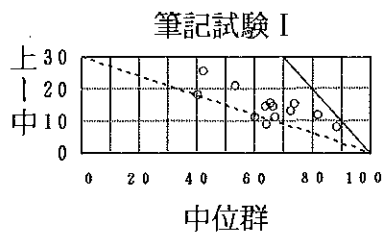
問題	中位群	上-中
1	33.66	10.59
2	80.34	7.48
3	77.74	13.77
4	83.60	8.56
5	75.25	8.69
6	71.94	11.20
7	43.65	31.88
8	56.23	13.30
9	56.66	8.30
10	52.96	8.06
11	49.38	10.18
12	63.81	10.43
13	41.41	20.12

聴解試験

問題	中位群	上-中
1	87.51	6.67
2	68.32	19.58
3	56.08	22.57
4	49.47	24.10
5	76.51	8.84

日本語教育能力検定試験 上位群と中位群の大問得点率

平成10年度



筆記試験 I

問題	中位群	上-中
1	64.07	14.61
2	74.06	15.47
3	64.42	8.97
4	66.52	14.56
5	72.58	13.27
6	88.37	8.19
7	81.99	12.09
8	65.67	15.72
9	60.37	11.30
10	67.23	11.27
11	42.40	25.54
12	40.41	18.26
13	53.41	21.13

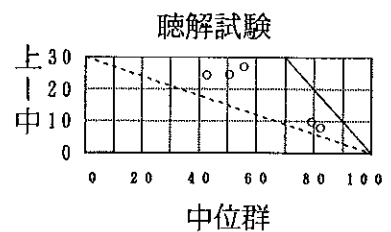
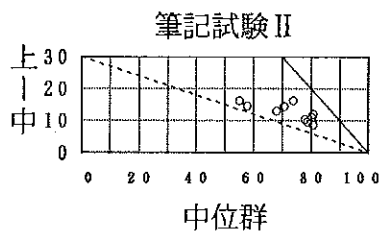
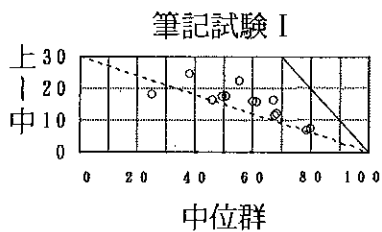
筆記試験 II

問題	中位群	上-中
1	75.12	11.58
2	74.46	9.09
3	52.06	13.10
4	85.66	11.26
5	83.29	9.86
6	43.40	22.08
7	76.18	11.41
8	70.17	11.69
9	80.97	8.64
10	79.03	9.59
11	48.26	19.20

聴解試験

問題	中位群	上-中
1	74.42	6.80
2	60.86	24.72
3	55.72	21.42
4	53.73	20.08
5	38.93	9.52

平成11年度



筆記試験 I

問題	中位群	上-中
1	68.34	12.23
2	38.11	24.68
3	78.52	7.05
4	60.29	16.02
5	61.59	15.80
6	50.80	17.54
7	55.50	22.50
8	67.70	11.63
9	79.97	7.60
10	49.45	17.58
11	46.27	16.51
12	67.29	16.51
13	25.39	18.20

筆記試験 II

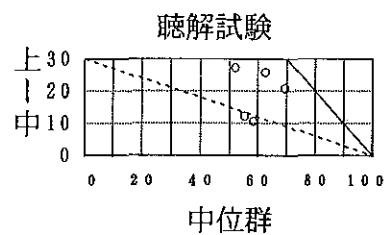
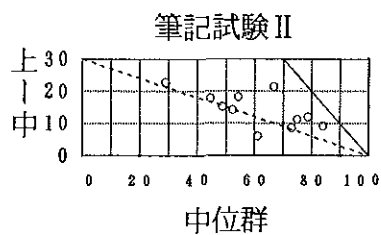
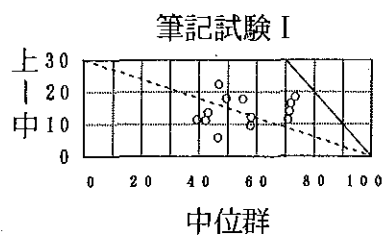
問題	中位群	上-中
1	77.86	10.46
2	70.96	14.50
3	80.94	8.57
4	78.93	9.73
5	80.32	11.01
6	80.92	12.04
7	73.95	16.23
8	68.19	12.98
9	55.27	16.27
10	57.88	14.61

聴解試験

問題	中位群	上-中
1	79.19	9.93
2	55.93	27.11
3	42.90	24.38
4	50.93	24.70
5	82.34	7.99

日本語教育能力検定試験 上位群と中位群の大問得点率

平成12年度



筆記試験Ⅰ

問題	中位群	上-中
1	57.98	9.62
2	55.31	17.69
3	43.36	13.66
4	58.29	12.26
5	71.63	13.95
6	71.87	16.45
7	46.88	22.48
8	71.09	11.40
9	46.55	5.81
10	73.53	18.43
11	39.41	11.31
12	42.39	11.25
13	49.57	17.97

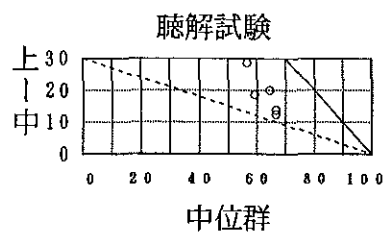
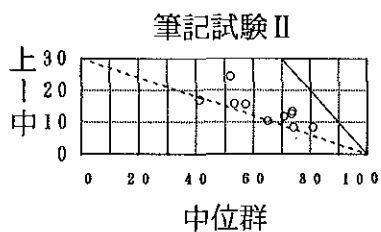
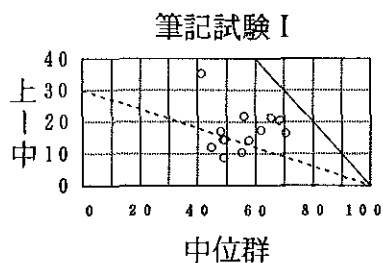
筆記試験Ⅱ

問題	中位群	上-中
1	73.11	8.55
2	61.23	5.92
3	52.39	14.23
4	78.96	12.03
5	48.77	15.15
6	66.92	21.34
7	84.17	9.17
8	44.58	17.85
9	75.18	11.28
10	28.98	22.73
11	54.43	18.10

聴解試験

問題	中位群	上-中
1	58.59	10.51
2	69.43	20.85
3	62.96	25.82
4	52.16	27.23
5	55.60	12.24

平成13年度



筆記試験Ⅰ

問題	中位群	上-中
1	55.31	10.44
2	44.80	11.94
3	49.13	8.88
4	61.87	17.35
5	48.89	14.48
6	65.52	21.29
7	68.32	20.68
8	55.91	21.70
9	49.39	14.37
10	41.46	35.27
11	57.64	14.12
12	47.88	16.94
13	70.58	16.32

筆記試験Ⅱ

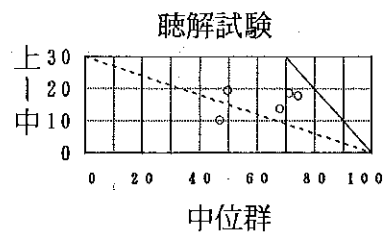
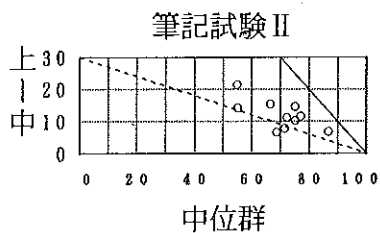
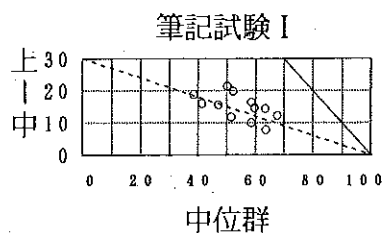
問題	中位群	上-中
1	70.78	11.71
2	73.50	12.68
3	74.15	8.44
4	81.14	8.47
5	41.38	16.94
6	65.14	10.46
7	57.31	15.52
8	53.29	15.83
9	73.72	13.36
10	52.15	24.45

聴解試験

問題	中位群	上-中
1	66.96	12.44
2	56.90	28.66
3	64.73	20.01
4	59.21	18.67
5	66.96	13.87

平成14年度 日本語教育能力検定試験

上位群と中位群の大問得点率



筆記試験Ⅰ

問題	中位群	上一中
1	63.75	7.87
2	47.38	15.70
3	59.83	14.72
4	67.72	12.33
5	58.73	9.98
6	52.49	19.82
7	58.59	16.35
8	63.50	14.40
9	51.71	11.75
10	38.60	18.78
11	41.49	16.10
12	50.38	21.47

筆記試験Ⅱ

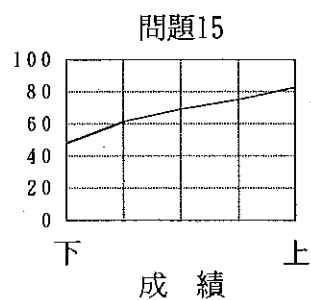
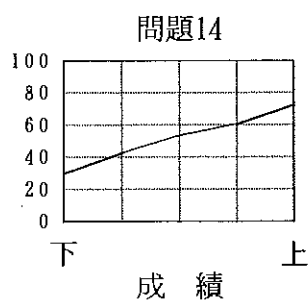
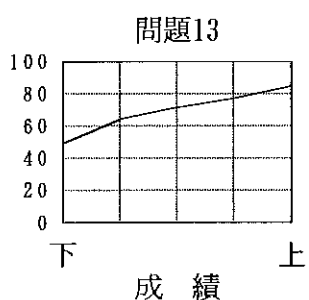
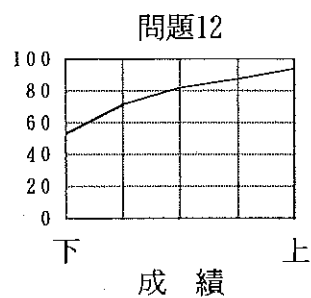
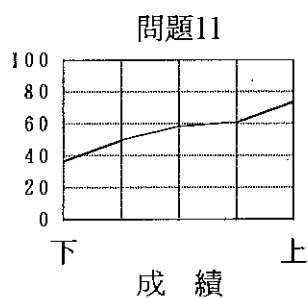
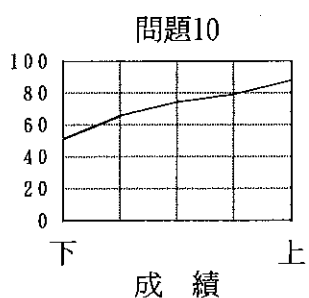
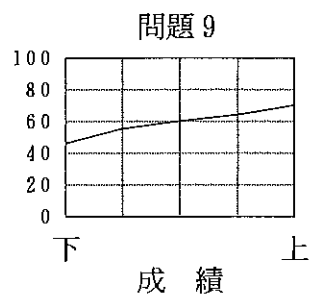
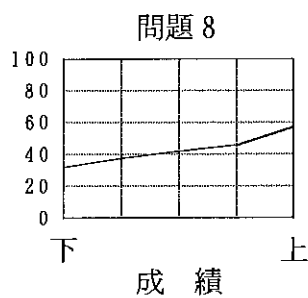
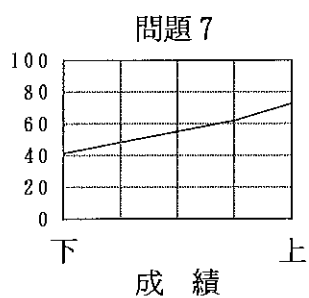
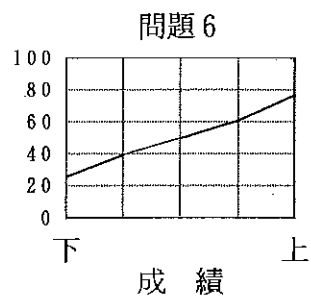
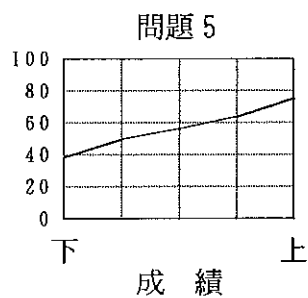
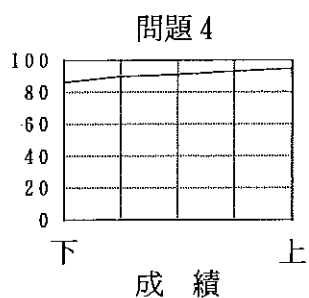
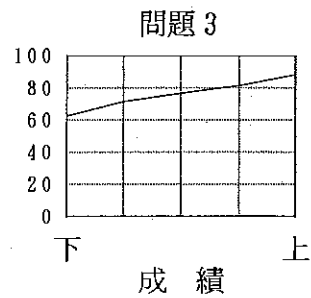
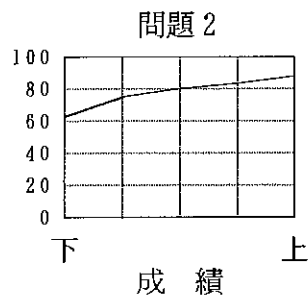
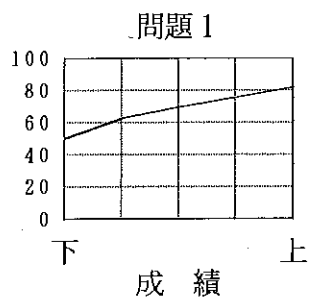
問題	中位群	上一中
1	71.75	7.75
2	72.40	11.19
3	75.35	10.20
4	68.96	6.70
5	55.08	21.38
6	77.38	11.63
7	55.19	14.25
8	75.34	14.59
9	86.78	6.78
10	66.73	15.46

聴解試験

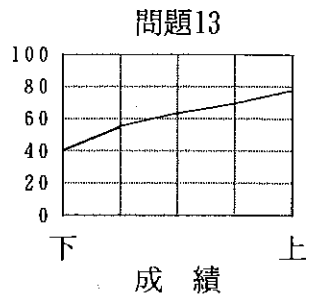
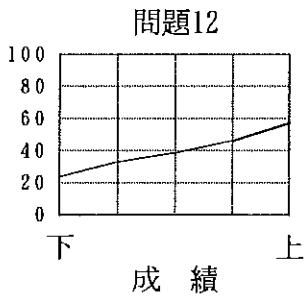
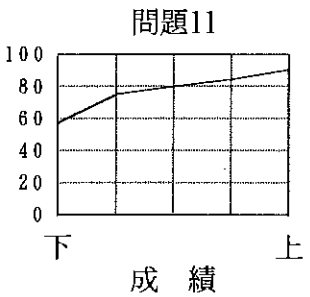
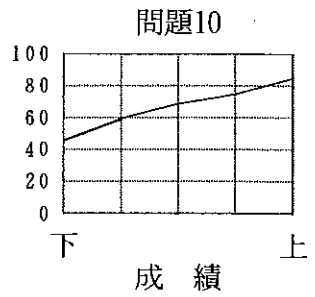
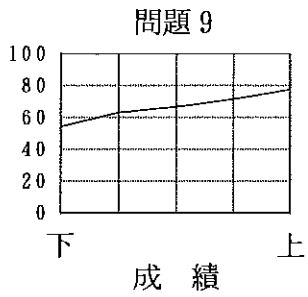
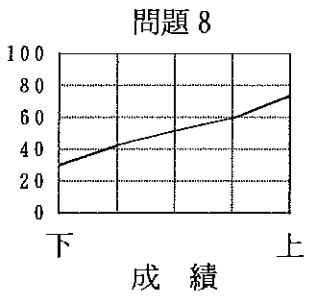
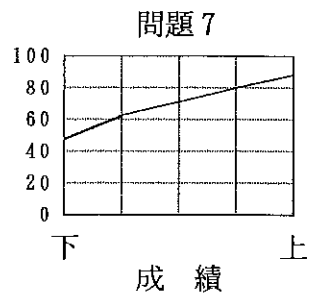
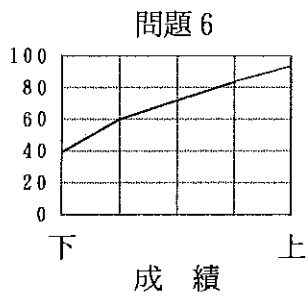
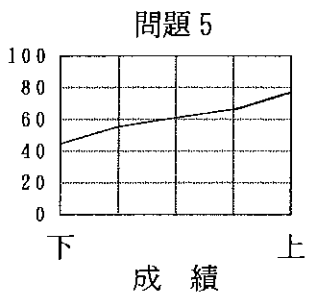
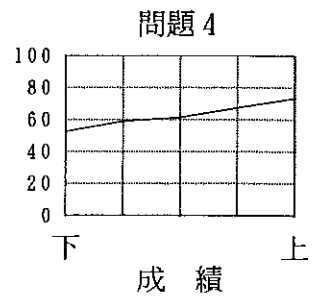
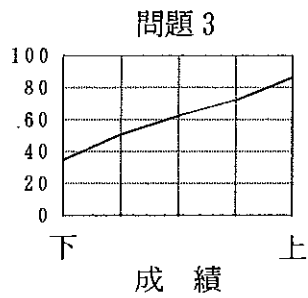
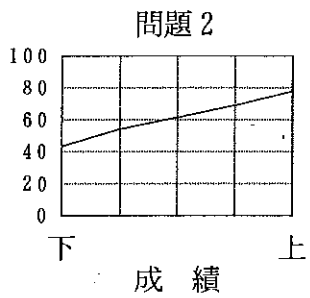
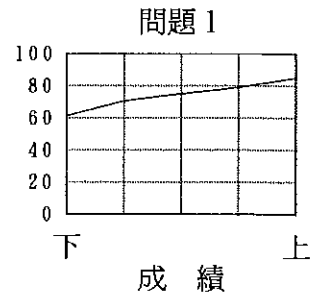
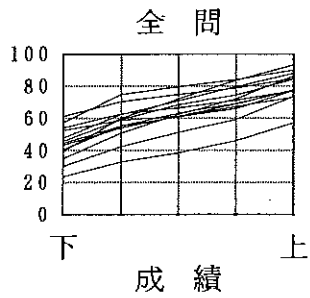
問題	中位群	上一中
1	68.00	13.92
2	71.20	18.56
3	74.48	17.76
4	49.85	19.45
5	47.07	10.26

平成4年度 日本語教育能力検定試験

筆記試験Ⅰ 大問得点率分析図

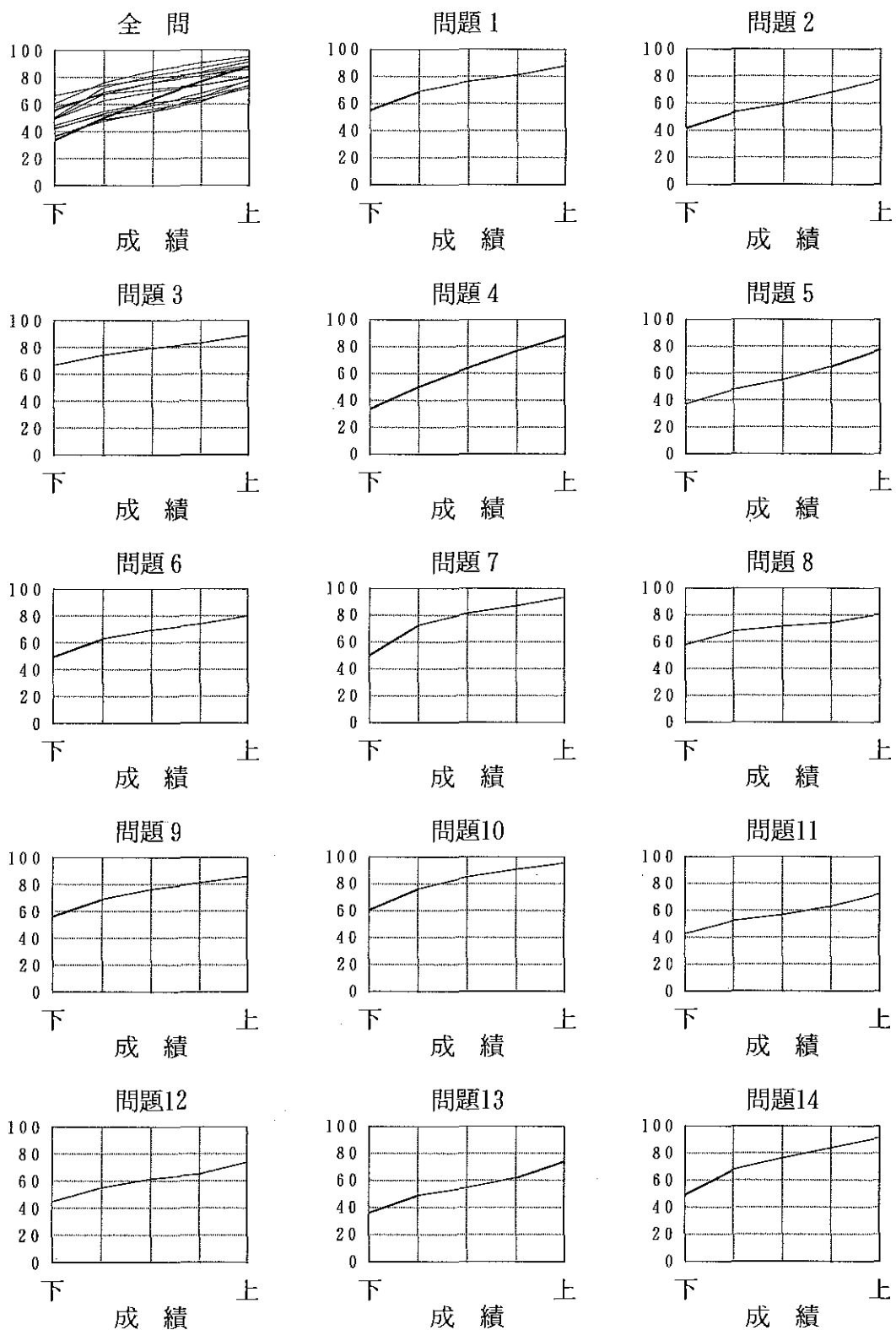


平成5年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅰ 大問得点率分析図



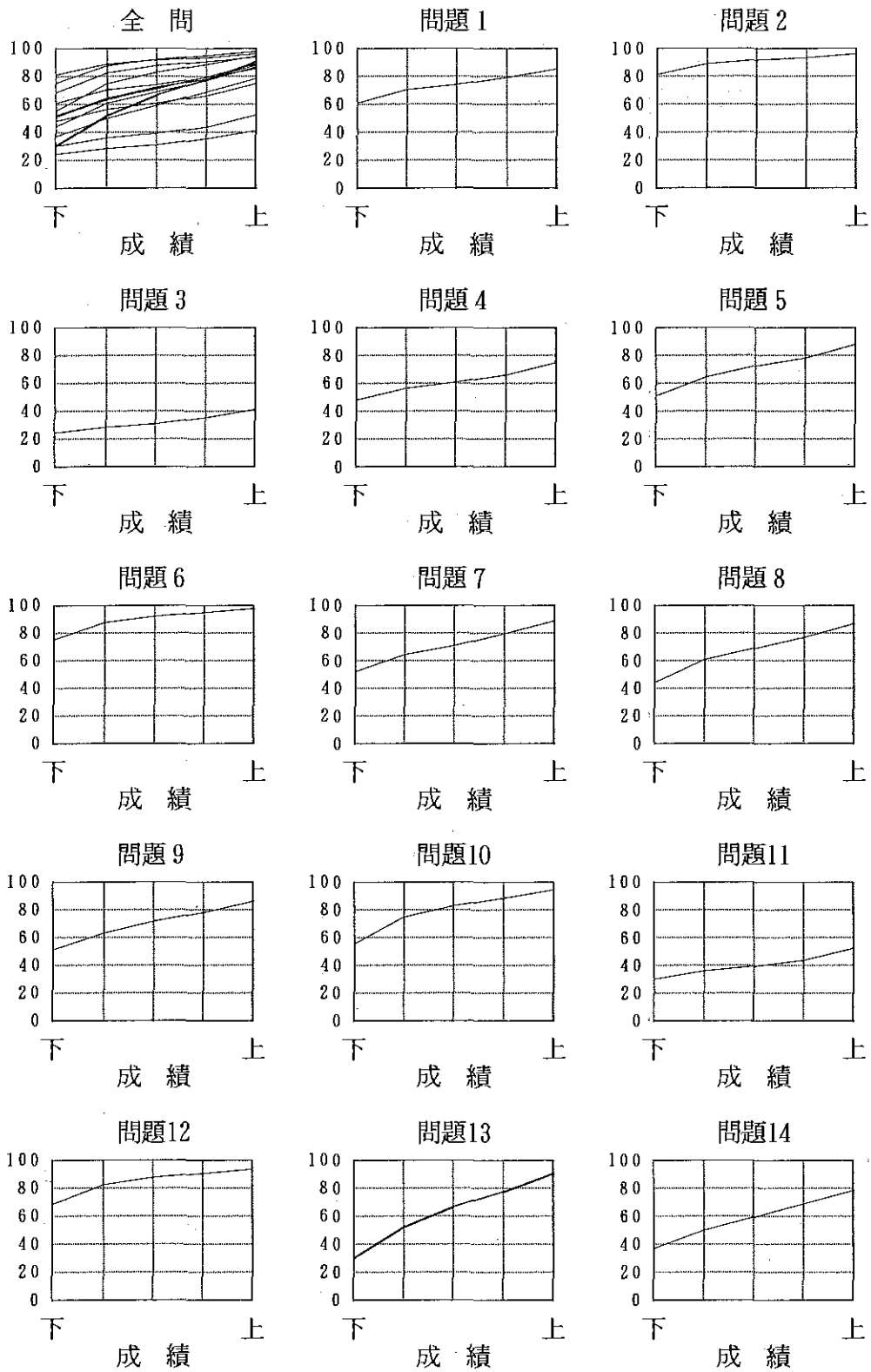
平成6年度 日本語教育能力検定試験

筆記試験Ⅰ 大問得点率分析図



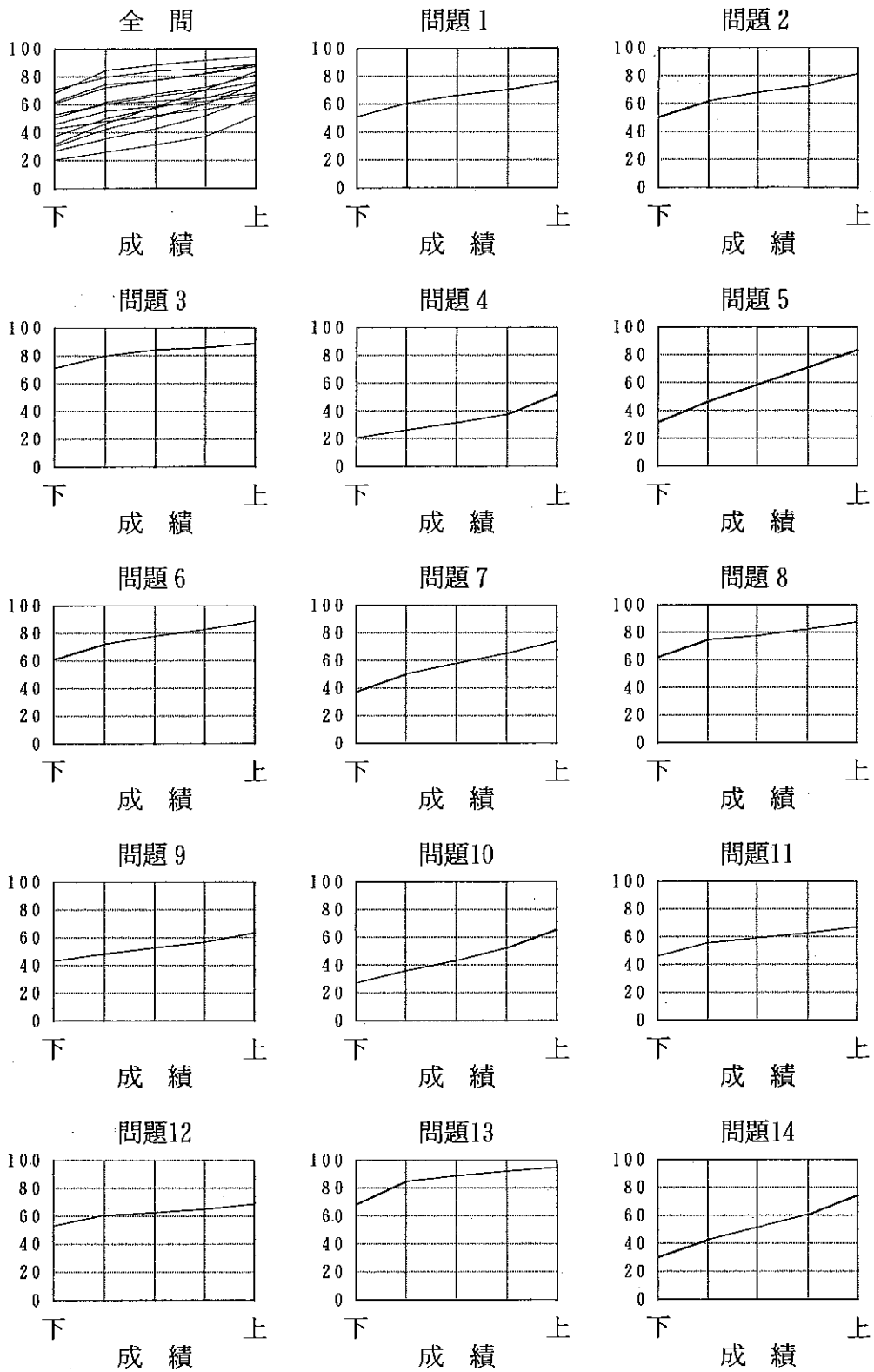
平成7年度 日本語教育能力検定試験

筆記試験Ⅰ 大問得点率分析図



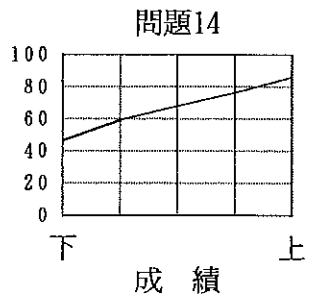
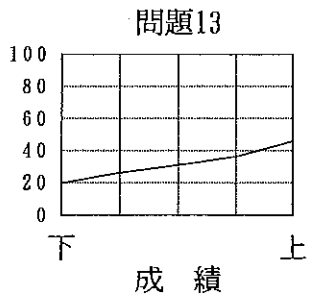
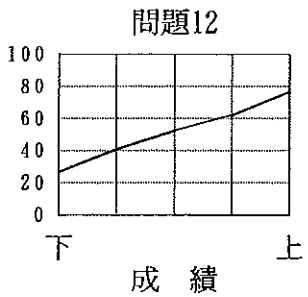
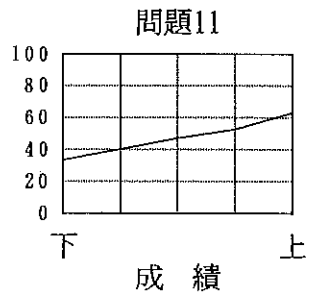
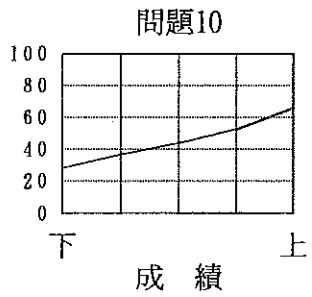
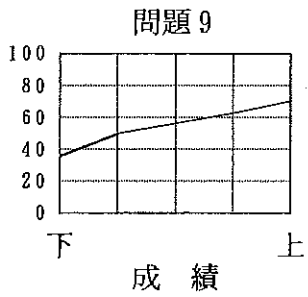
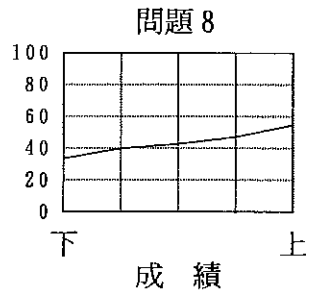
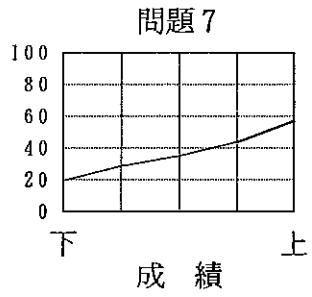
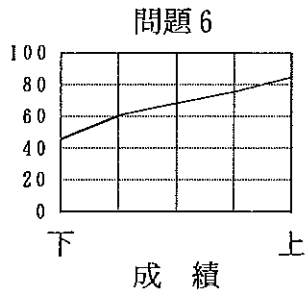
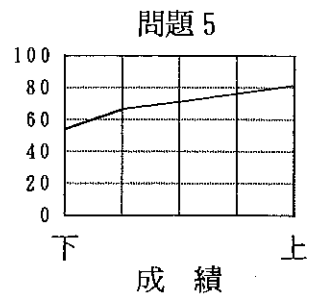
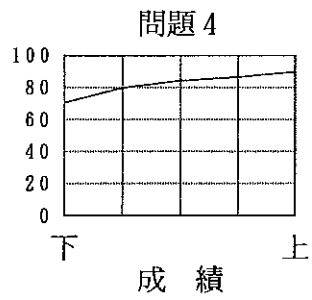
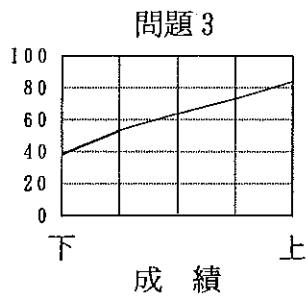
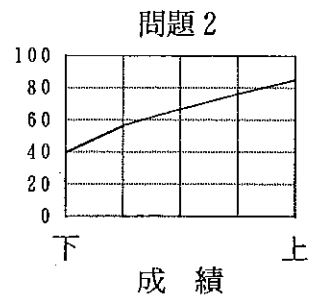
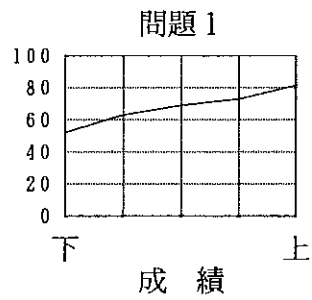
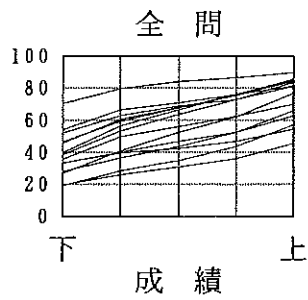
平成8年度 日本語教育能力検定試験

筆記試験Ⅰ 大問得点率分析図

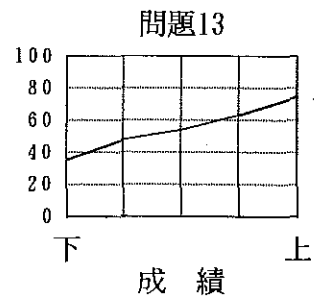
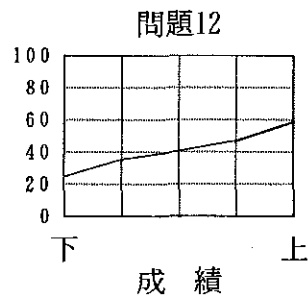
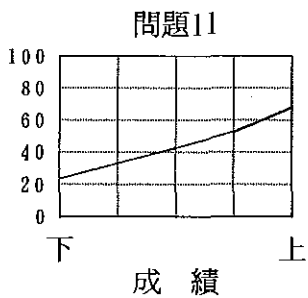
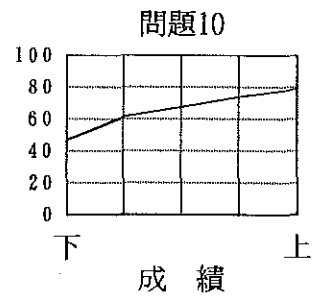
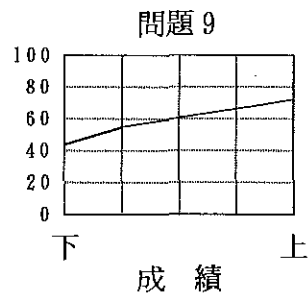
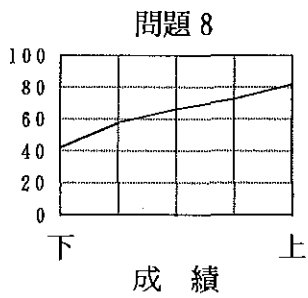
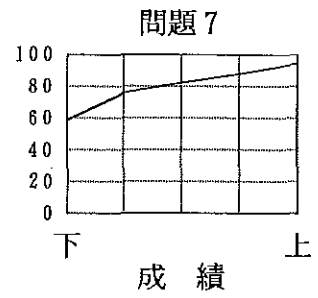
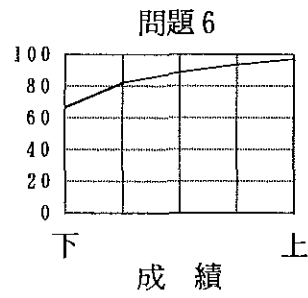
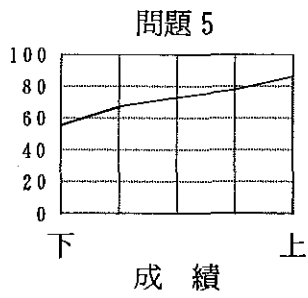
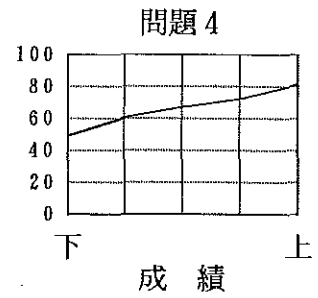
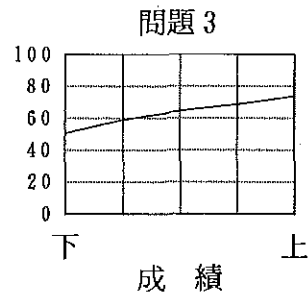
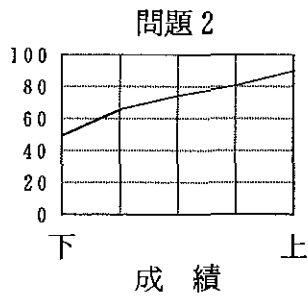
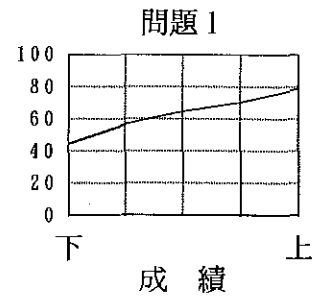
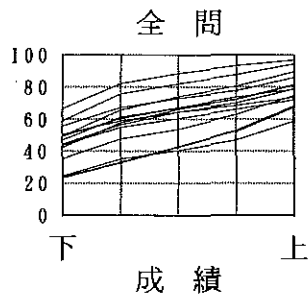


平成9年度 日本語教育能力検定試験

筆記試験Ⅰ 大問得点率分析図

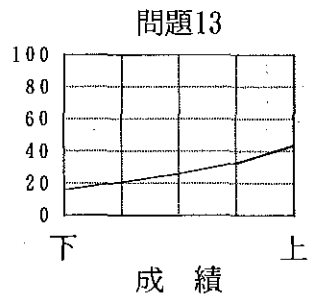
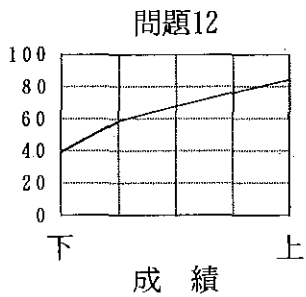
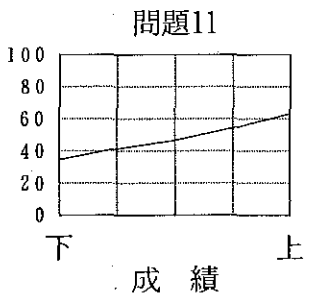
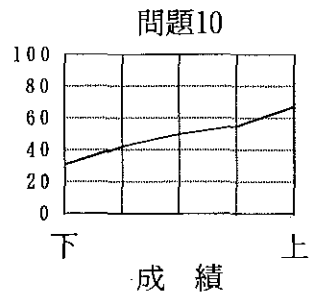
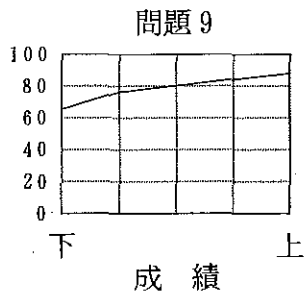
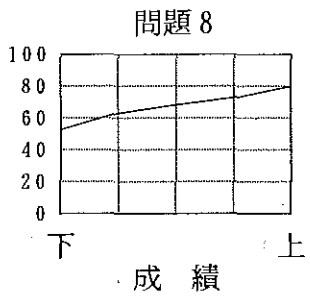
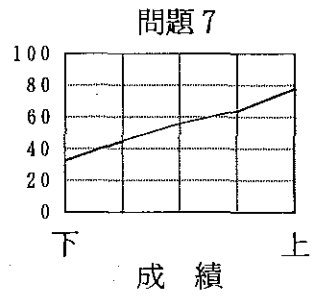
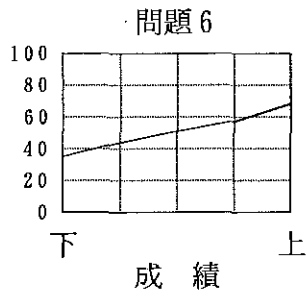
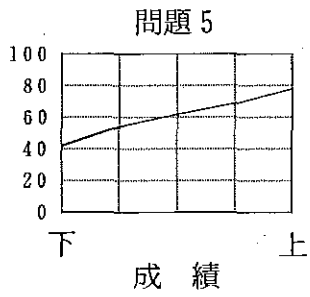
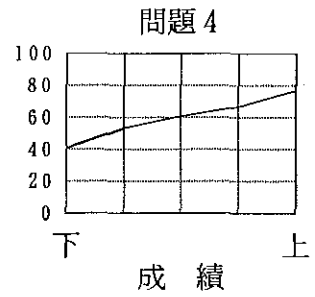
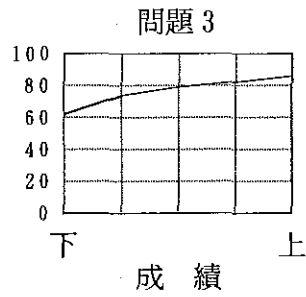
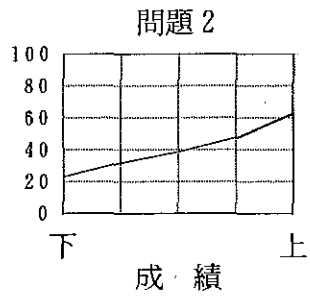
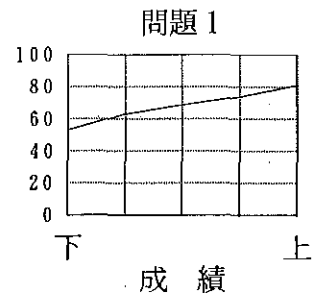
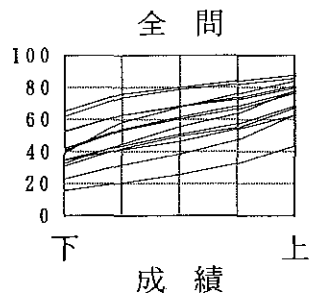


平成10年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅰ 大問得点率分析図



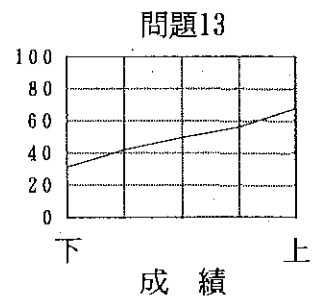
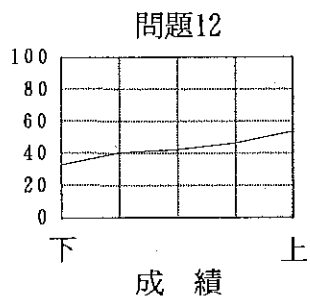
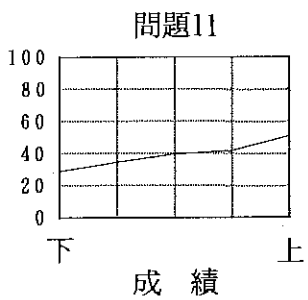
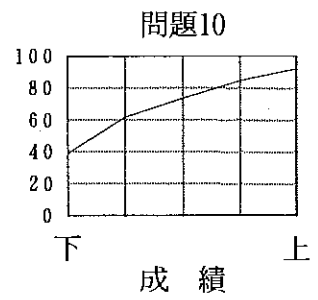
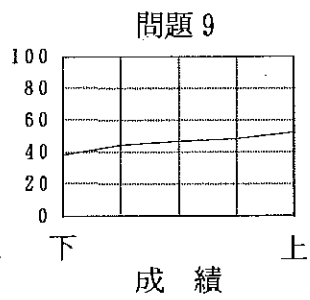
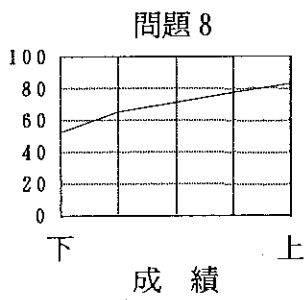
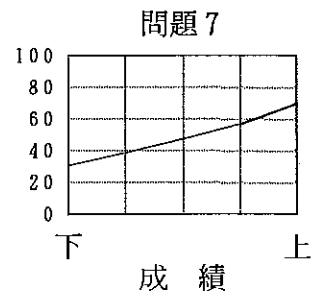
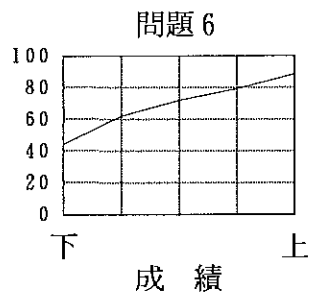
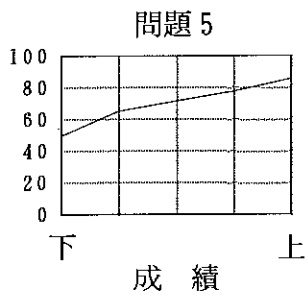
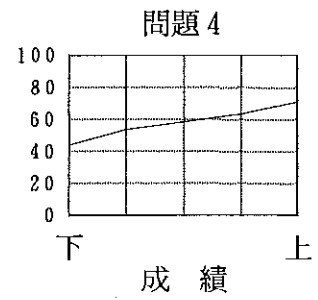
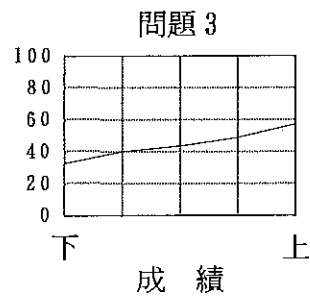
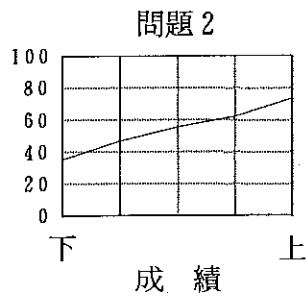
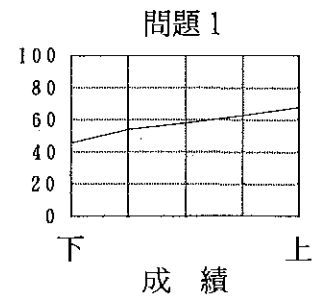
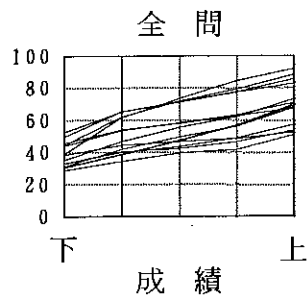
平成11年度 日本語教育能力検定試験

筆記試験Ⅰ 大問得点率分析図



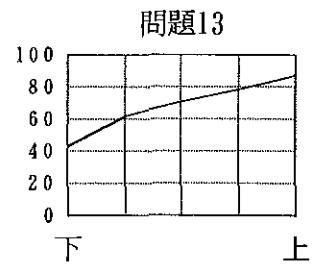
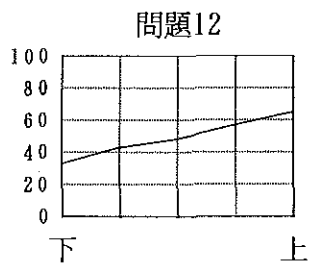
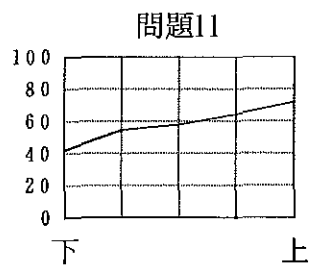
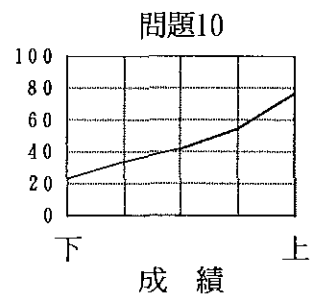
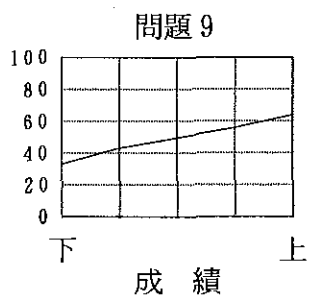
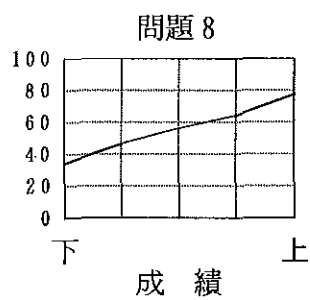
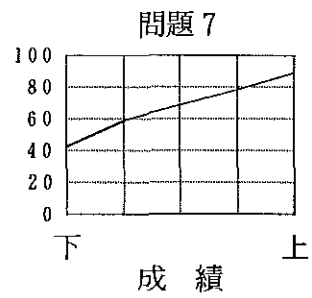
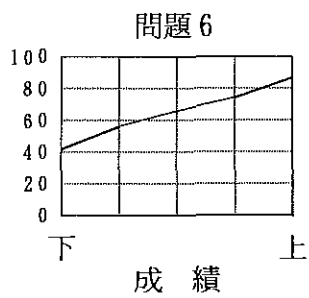
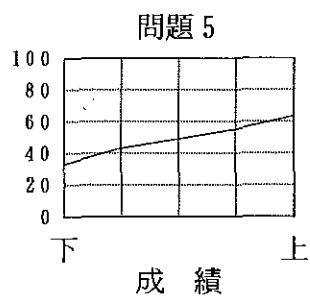
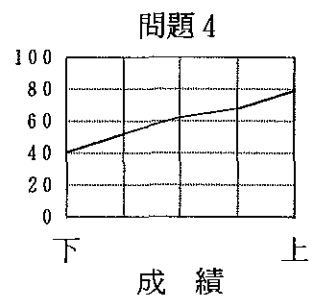
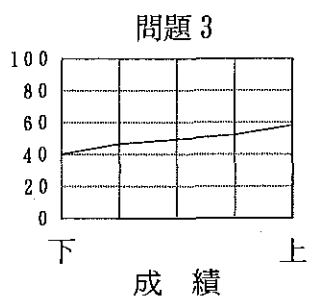
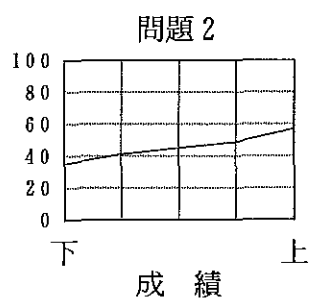
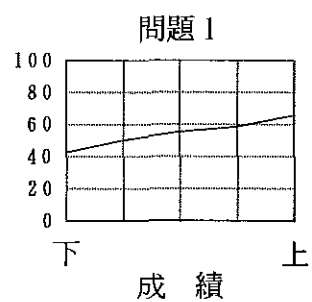
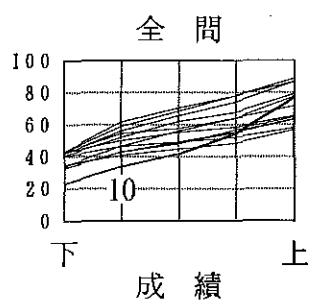
平成12年度 日本語教育能力検定試験

筆記試験Ⅰ 得点率分析図



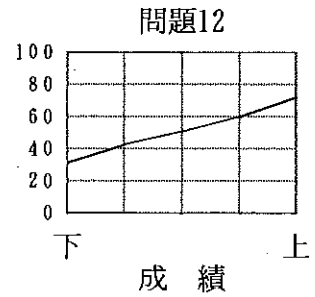
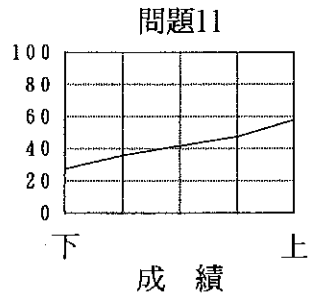
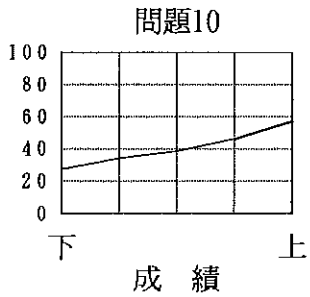
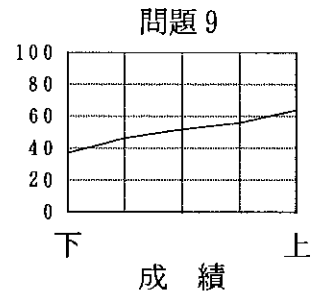
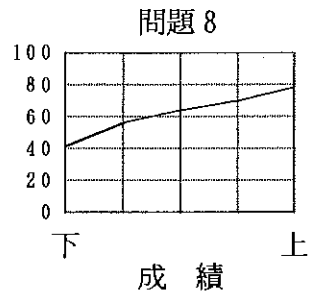
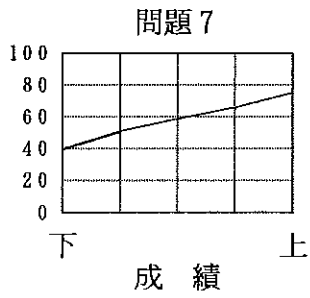
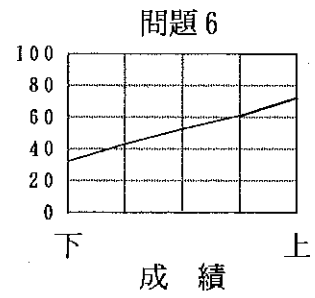
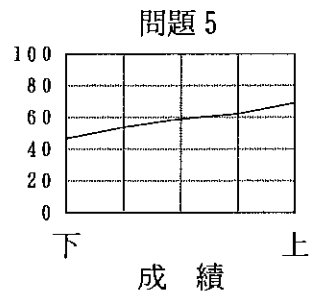
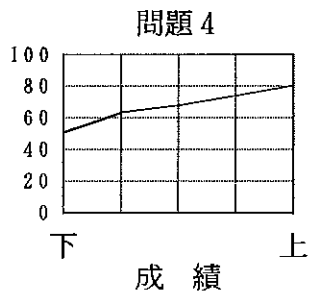
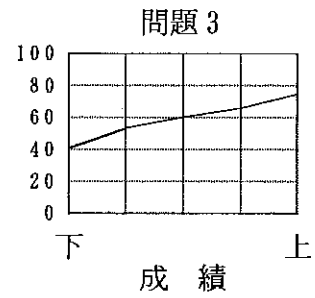
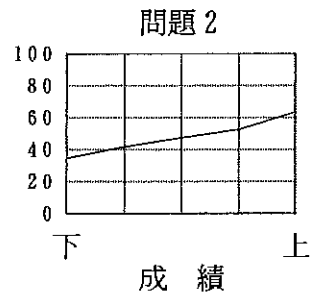
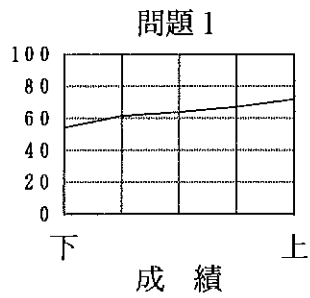
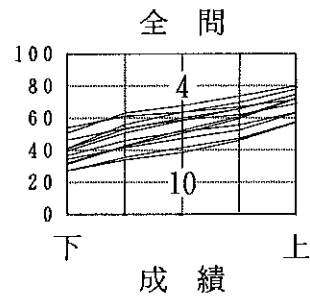
平成13年度 日本語教育能力検定試験

筆記試験Ⅰ 大問得点率分析図



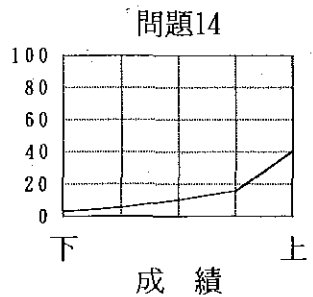
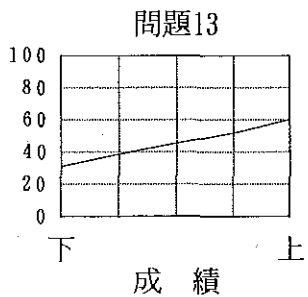
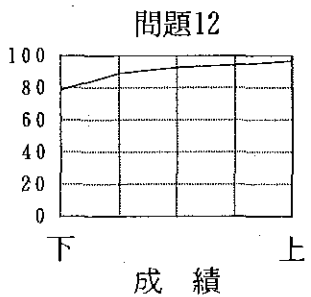
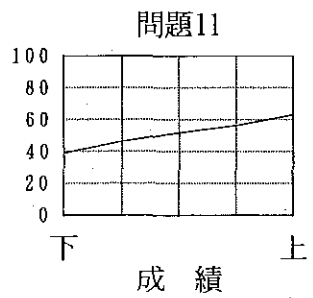
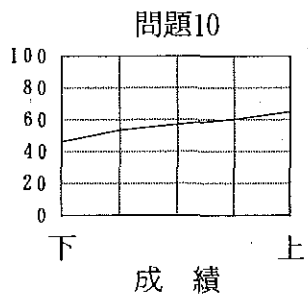
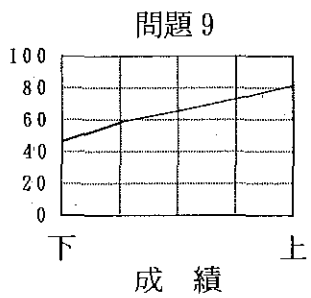
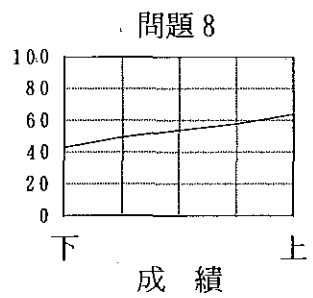
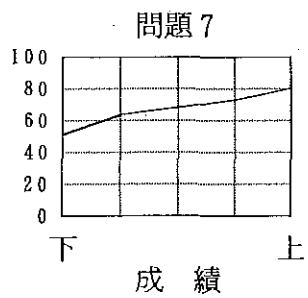
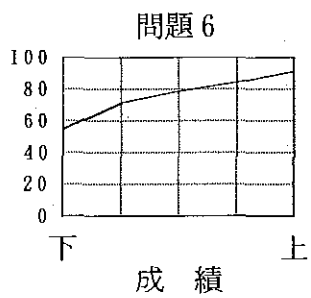
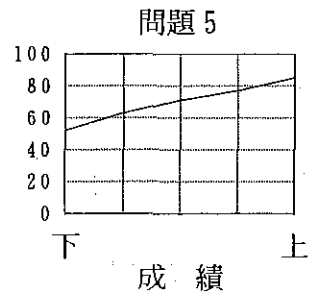
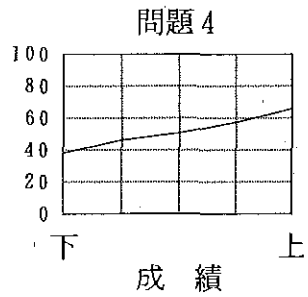
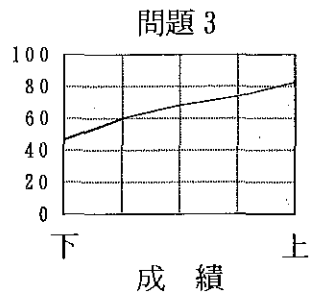
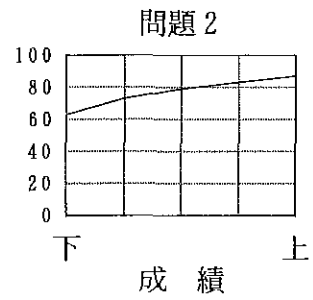
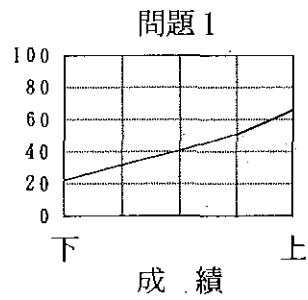
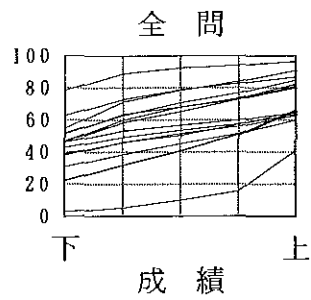
平成14年度 日本語教育能力検定試験

筆記試験Ⅰ 大問得点率分析図

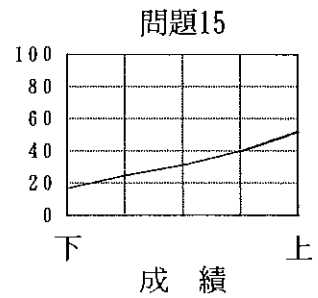
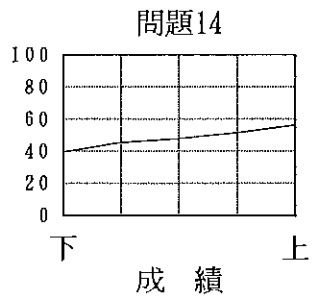
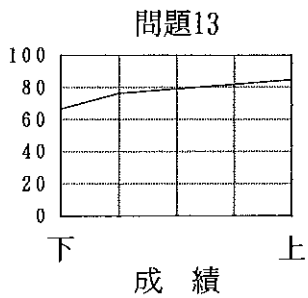
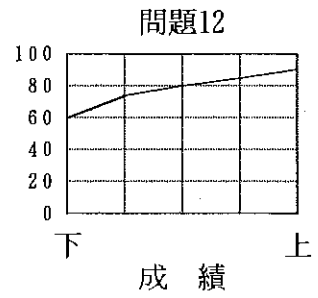
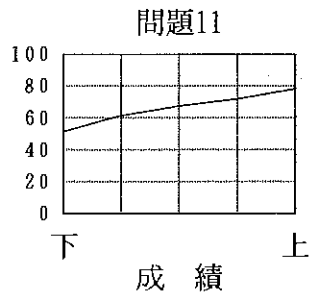
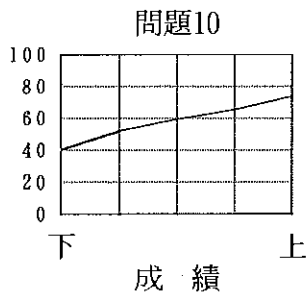
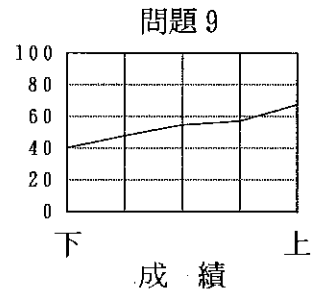
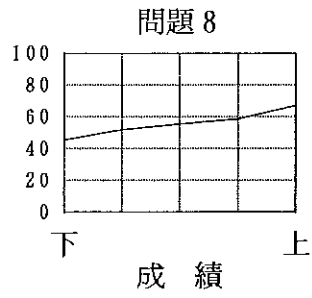
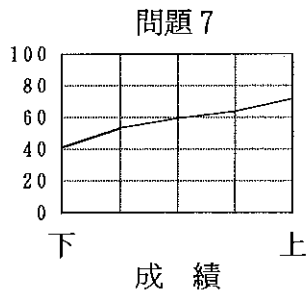
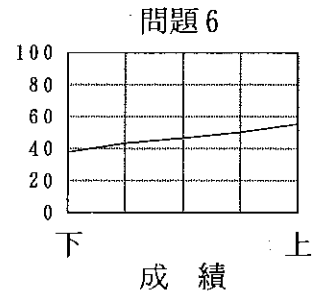
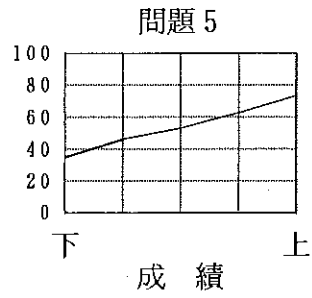
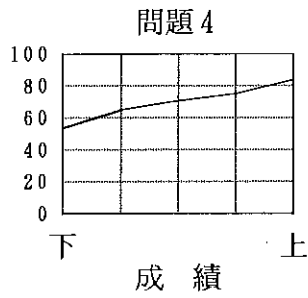
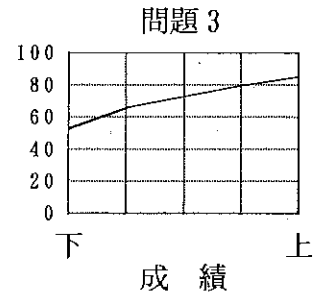
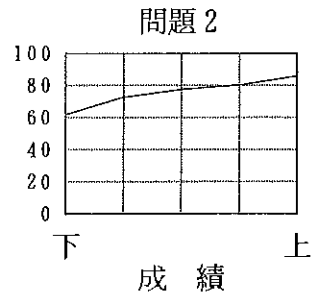
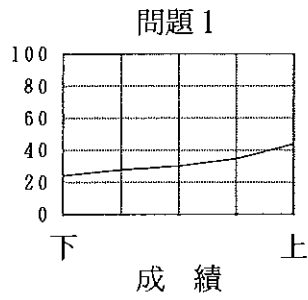


平成4年度 日本語教育能力検定試験

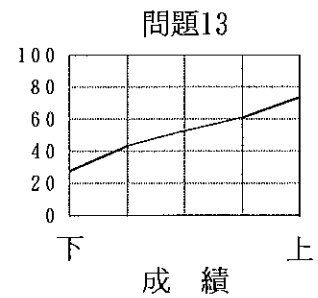
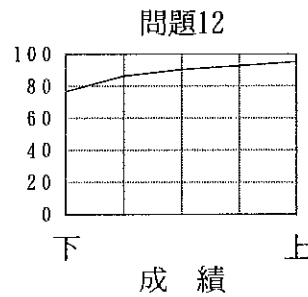
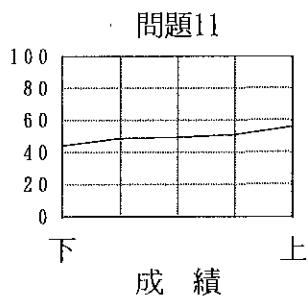
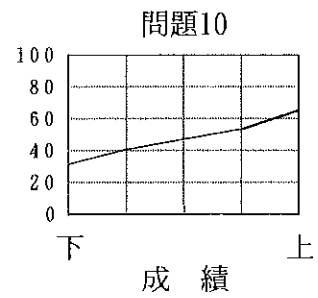
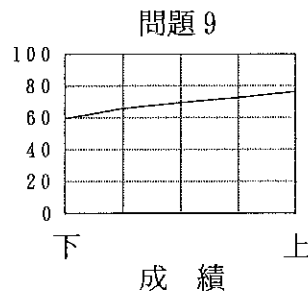
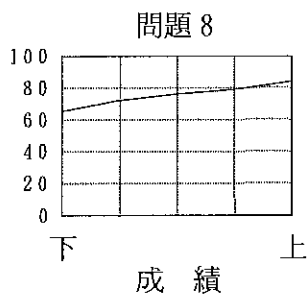
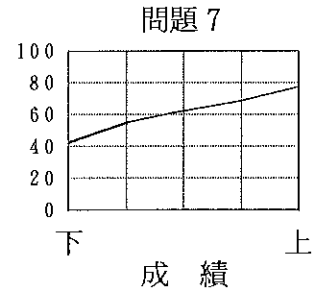
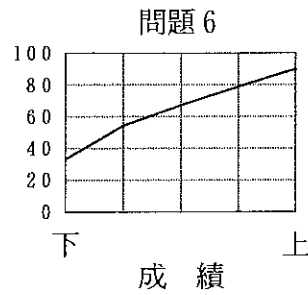
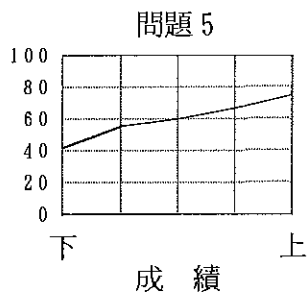
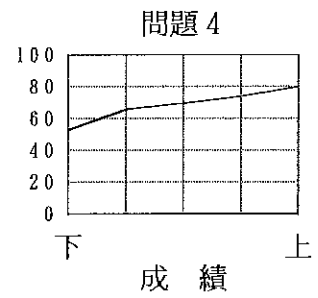
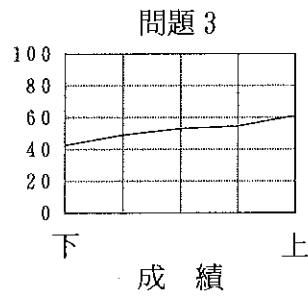
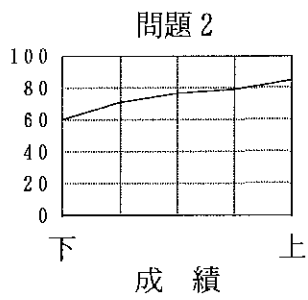
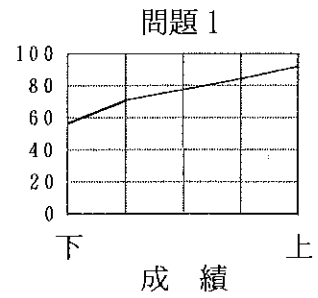
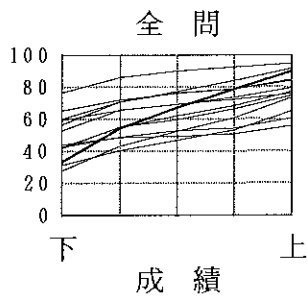
筆記試験Ⅱ 大問得点率分析図



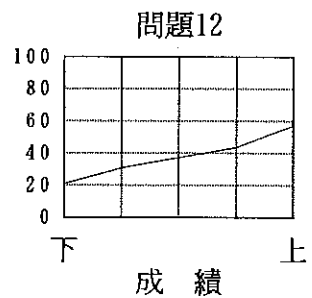
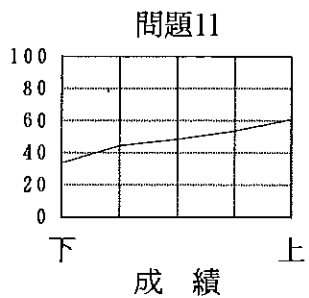
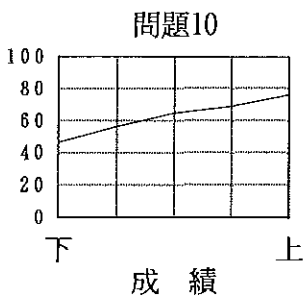
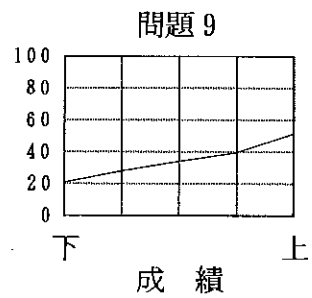
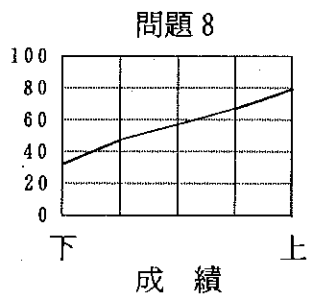
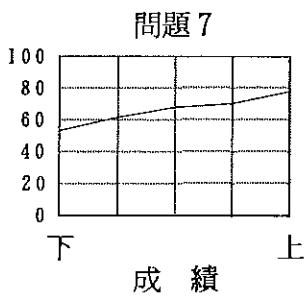
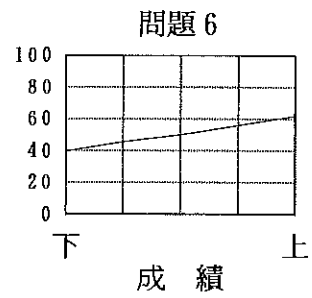
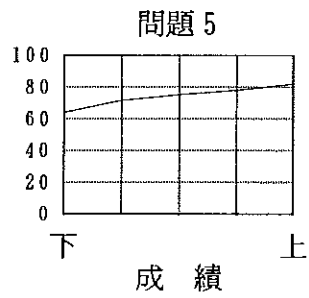
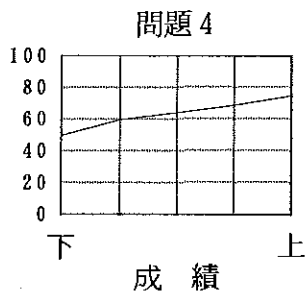
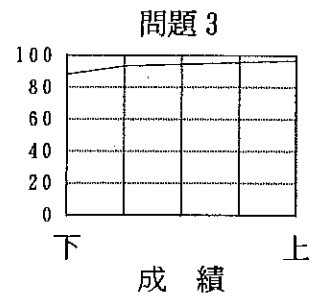
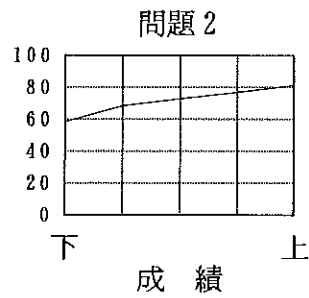
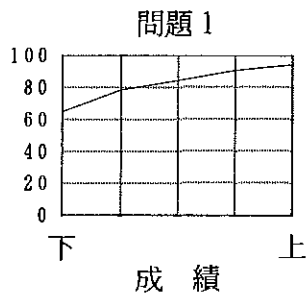
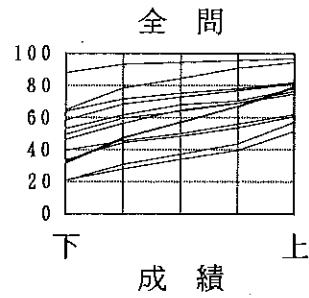
平成5年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅱ 大問得点率分析図



平成6年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅱ 大問得点率分析図

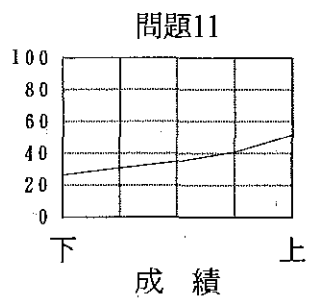
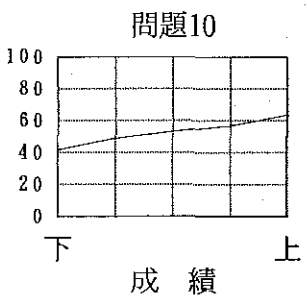
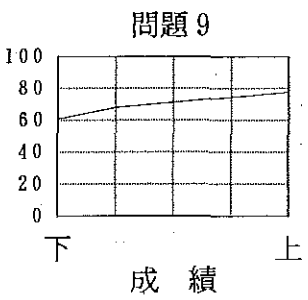
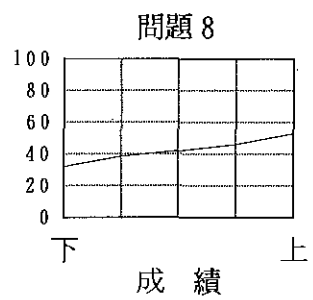
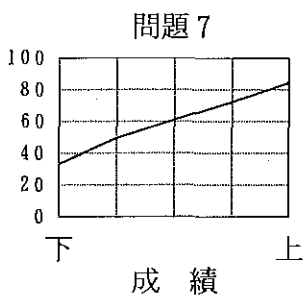
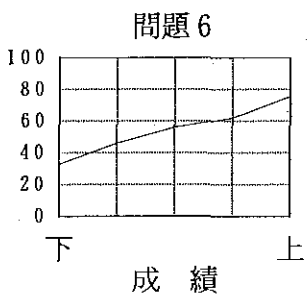
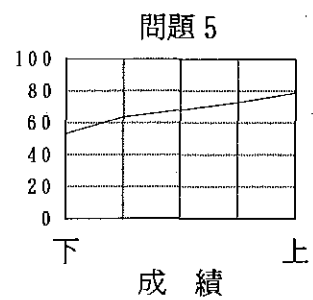
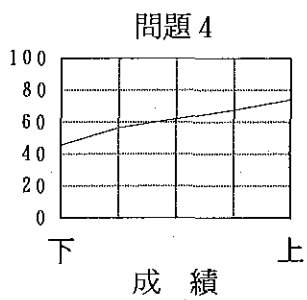
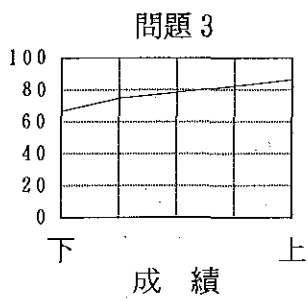
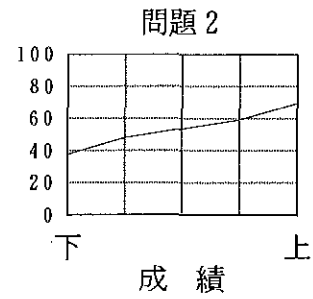
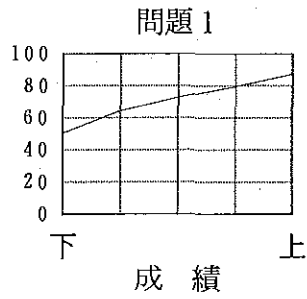
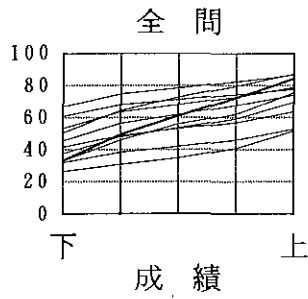


平成7年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅱ 大問得点率分析図

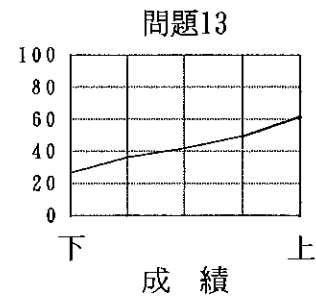
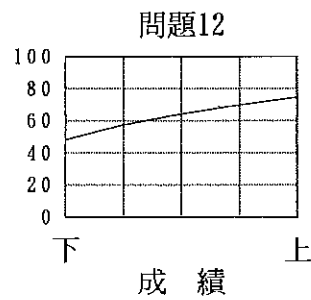
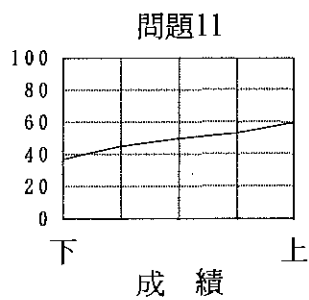
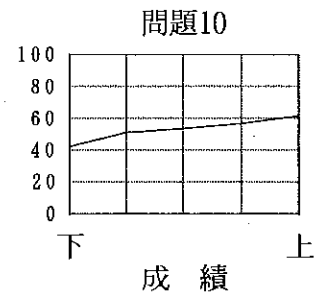
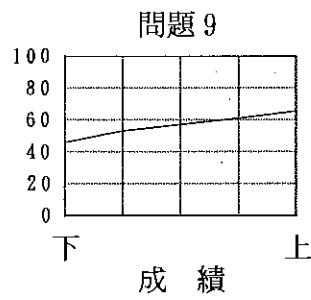
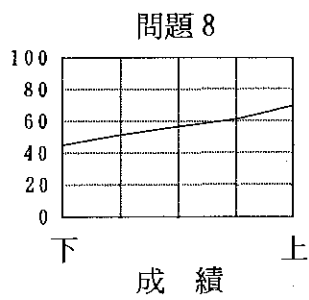
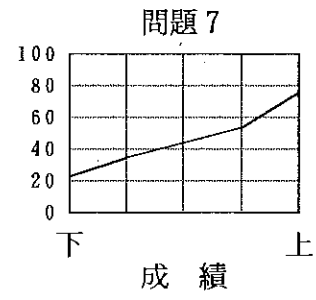
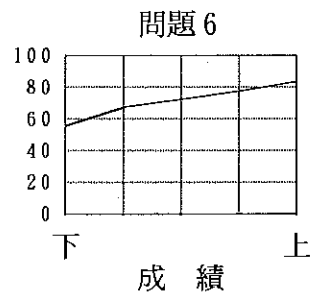
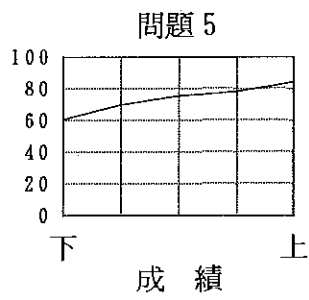
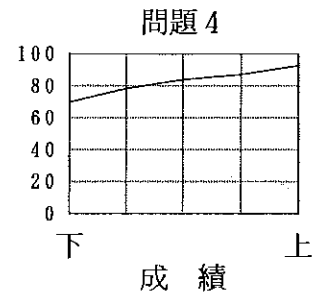
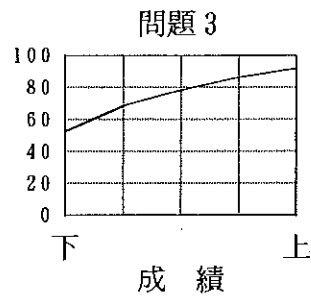
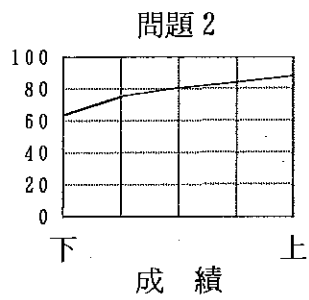
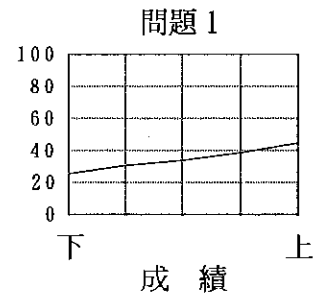
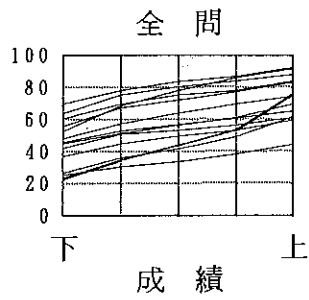


平成8年度 日本語教育能力検定試験

筆記試験Ⅱ 大問得点率分析図

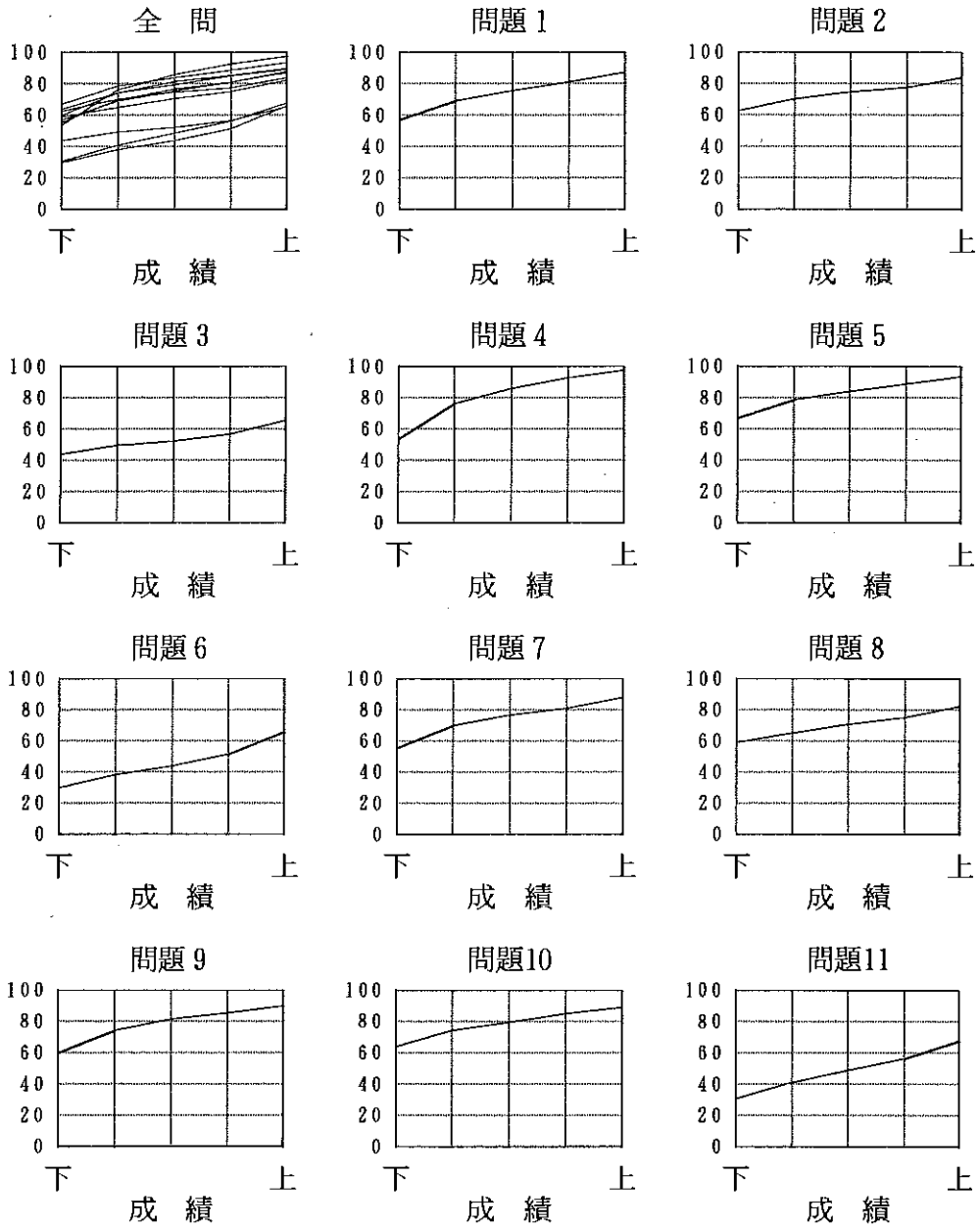


平成9年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅱ 大問得点率分析図



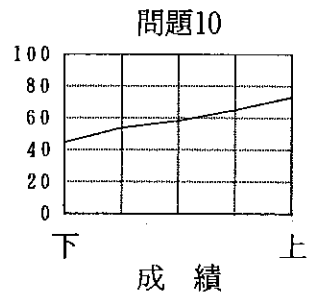
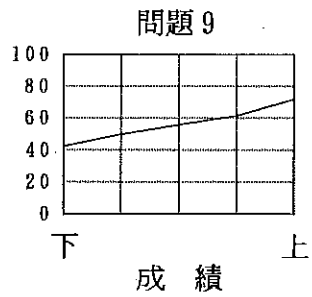
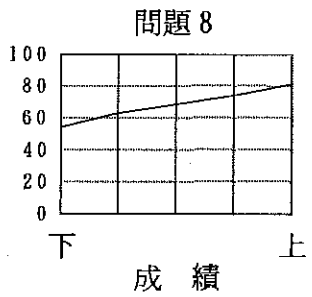
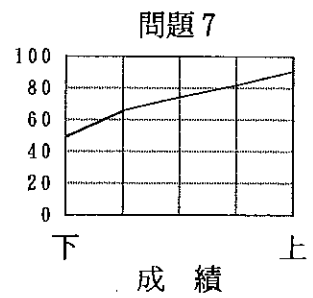
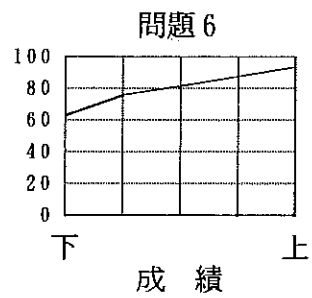
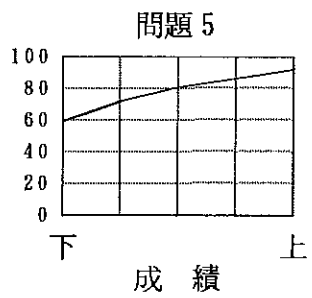
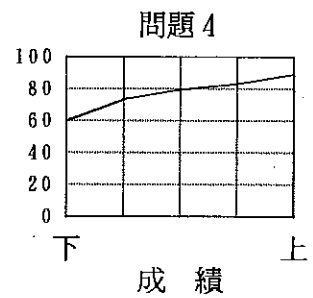
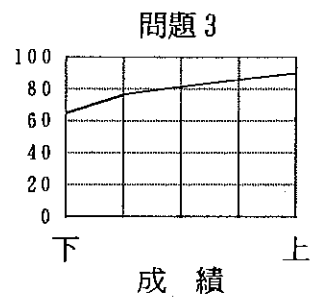
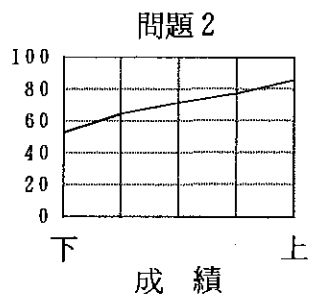
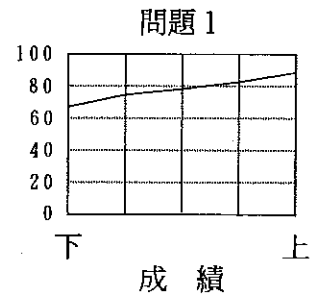
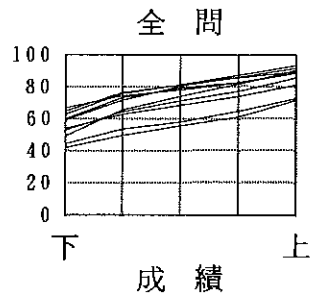
平成10年度 日本語教育能力検定試験

筆記試験Ⅱ 大問得点率分析図



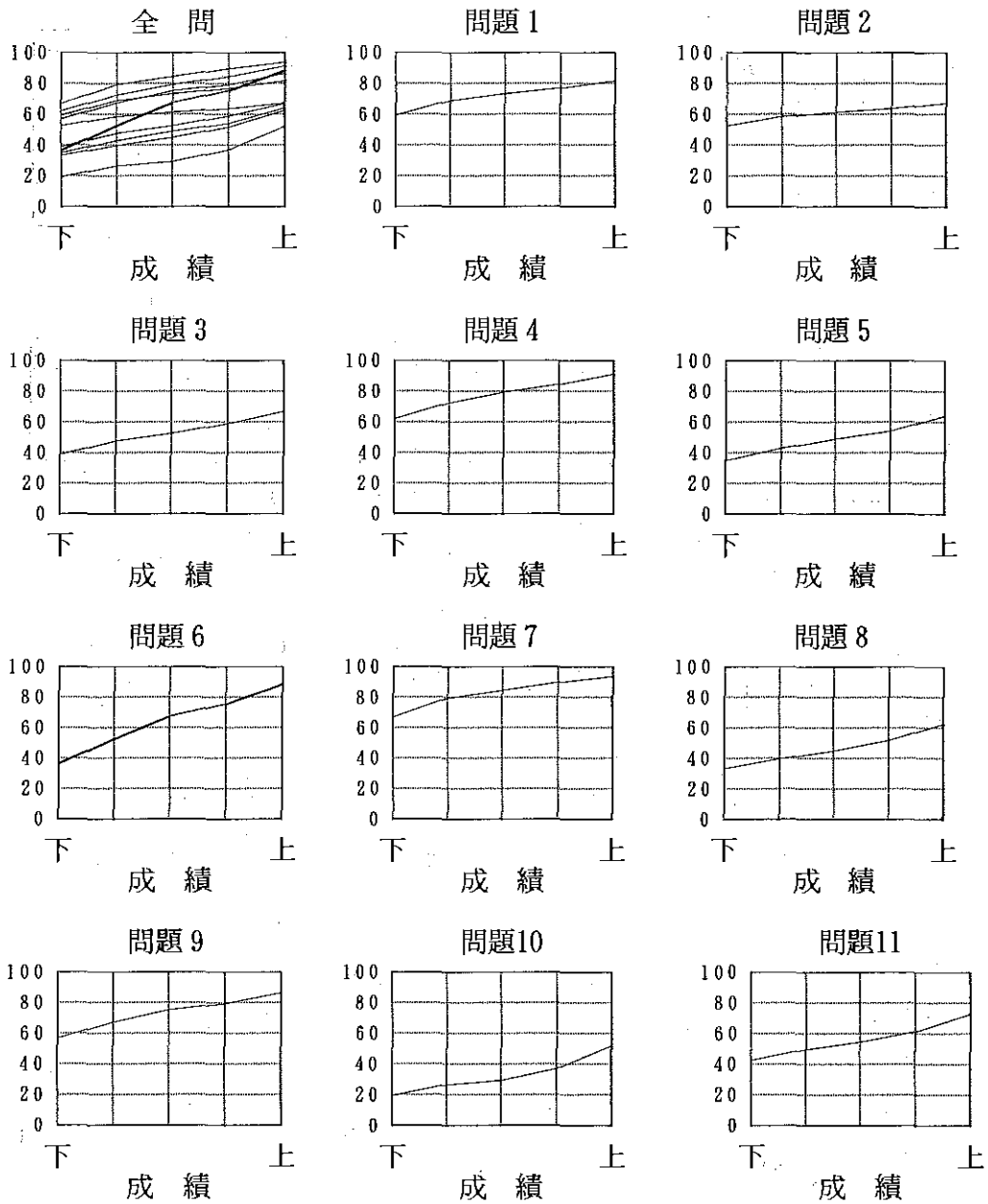
平成11年度 日本語教育能力検定試験

筆記試験Ⅱ 大問得点率分析図



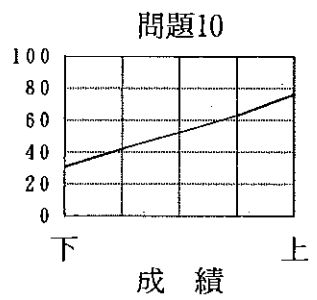
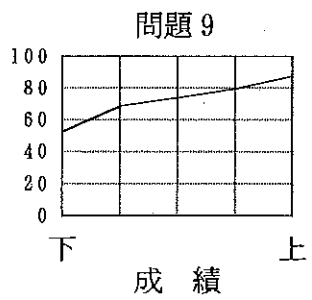
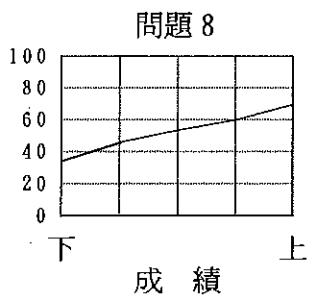
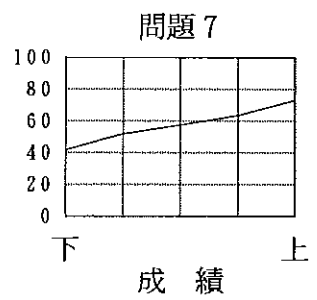
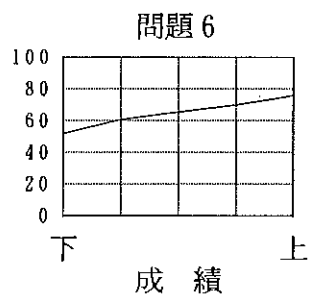
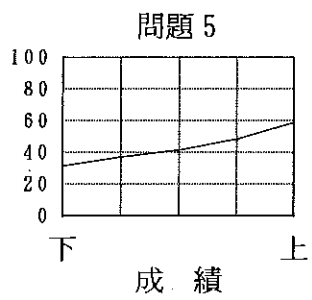
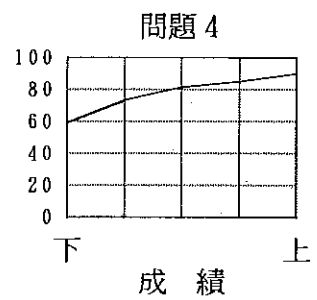
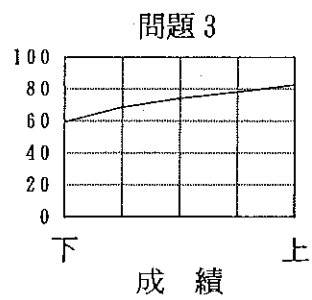
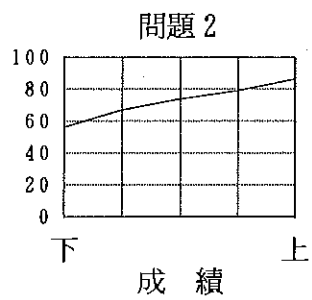
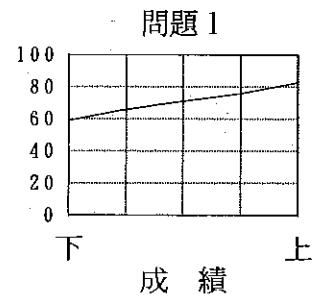
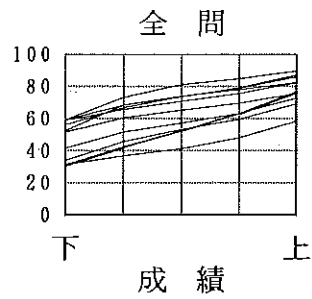
平成12年度 日本語教育能力検定試験

筆記試験Ⅱ 大問得点率分析図



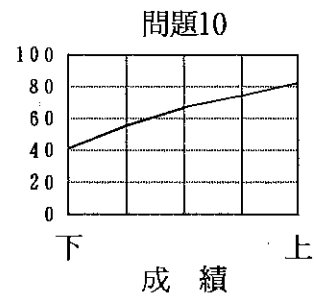
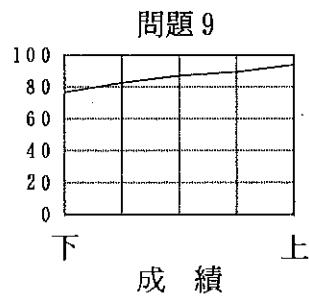
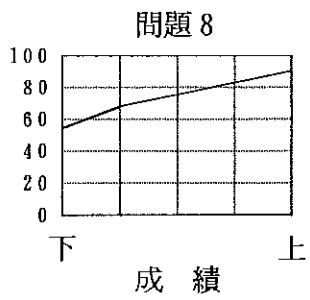
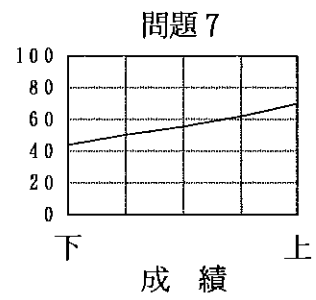
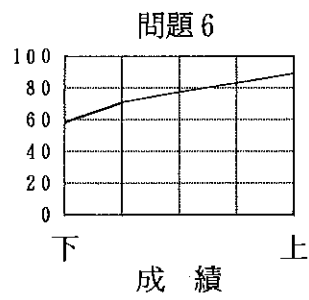
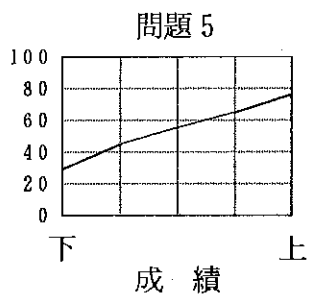
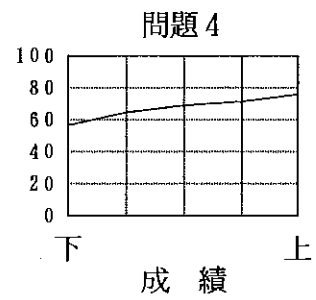
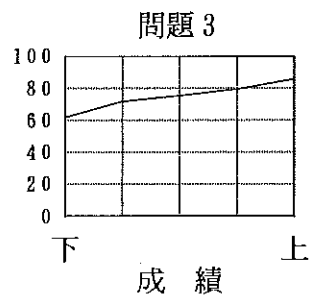
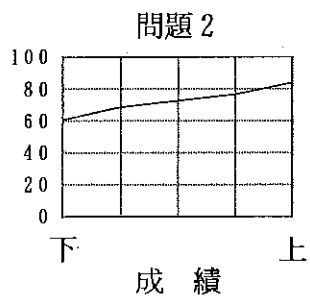
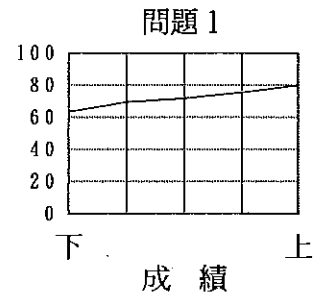
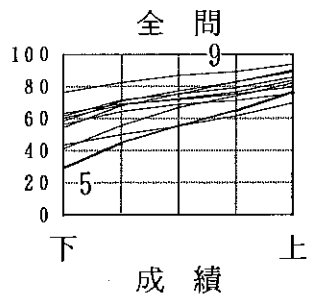
平成13年度 日本語教育能力検定試験

筆記試験Ⅱ 大問得点率分析図



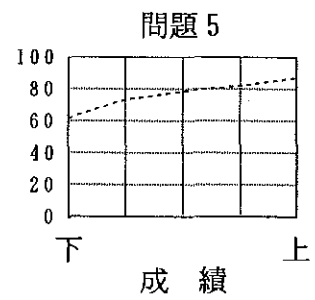
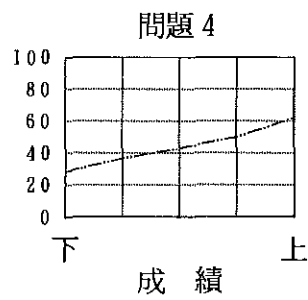
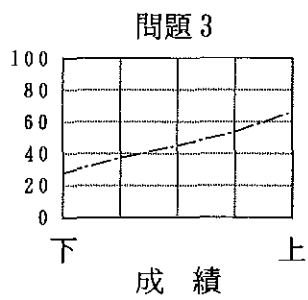
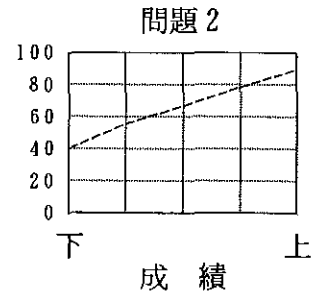
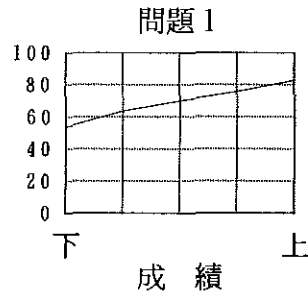
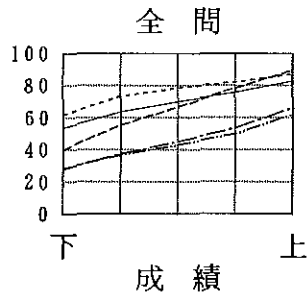
平成14年度 日本語教育能力検定試験

筆記試験Ⅱ 大問得点率分析図

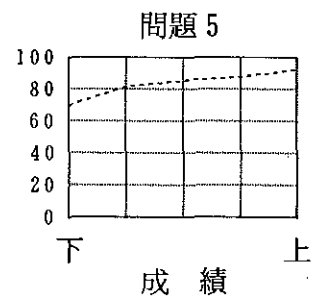
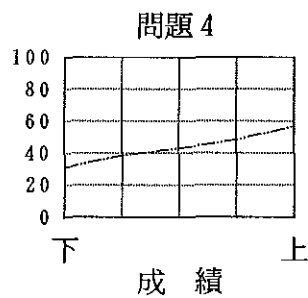
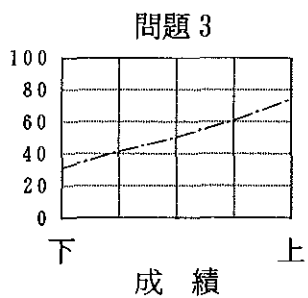
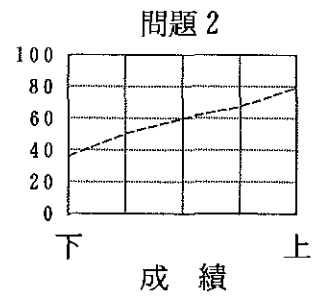
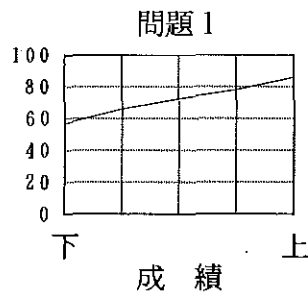
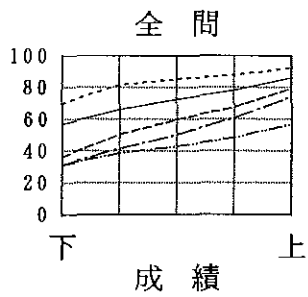


日本語教育能力検定試験 聴解試験 大問得点率分析図

平成4年度

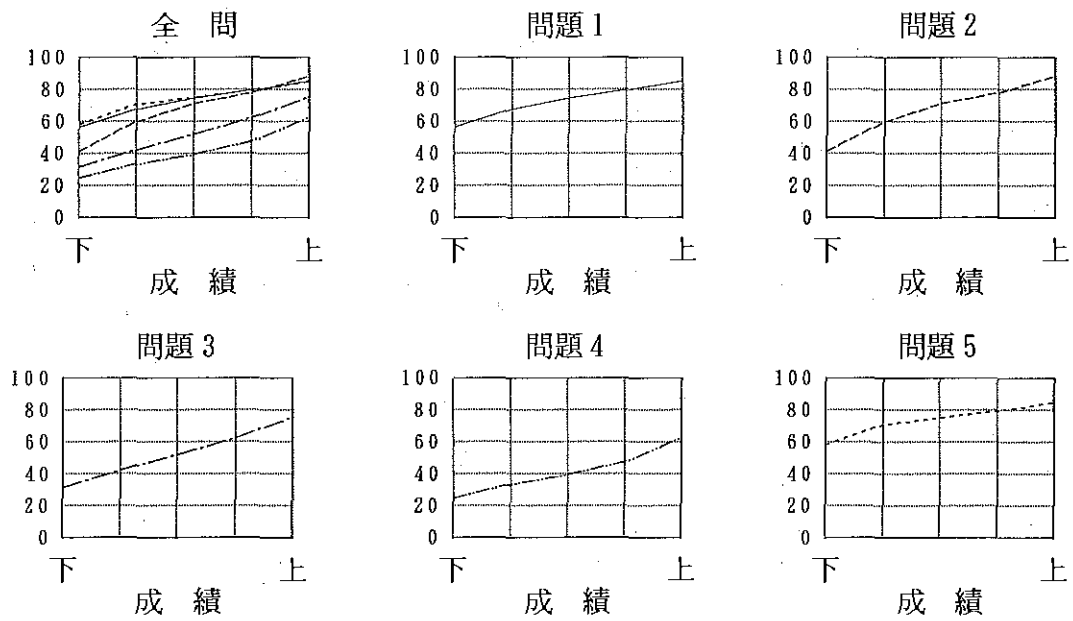


平成5年度

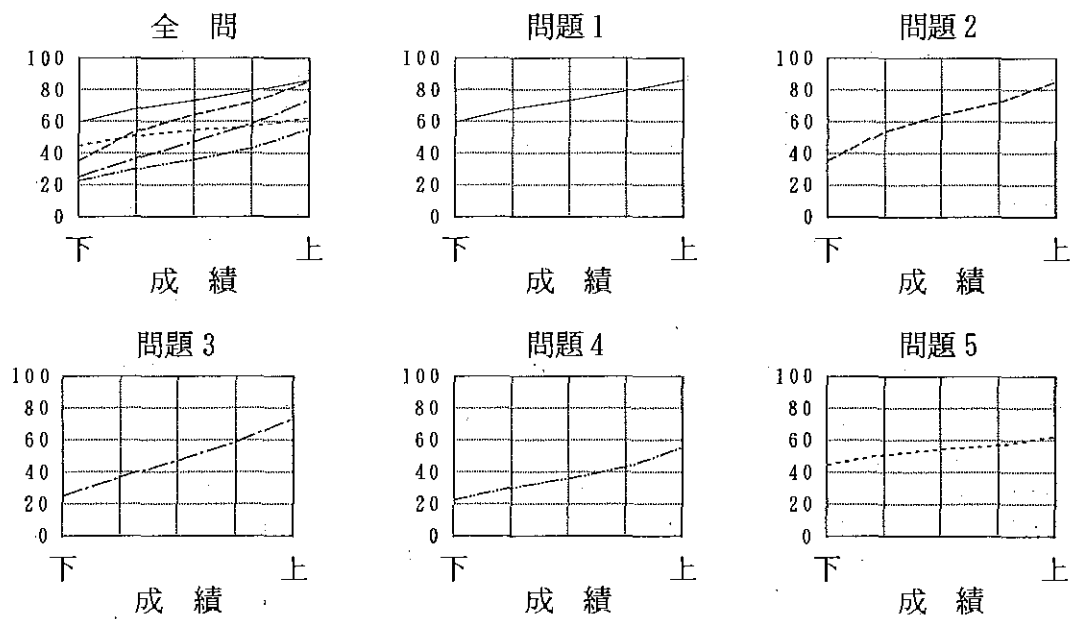


日本語教育能力検定試験 聴解試験 大問得点率分析図

平成6年度

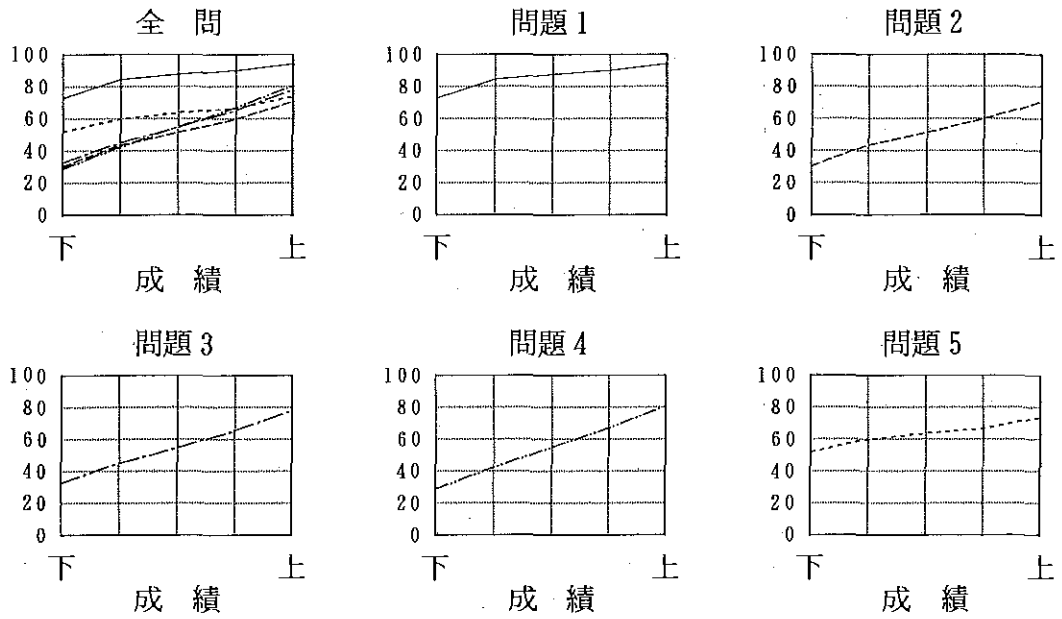


平成7年度

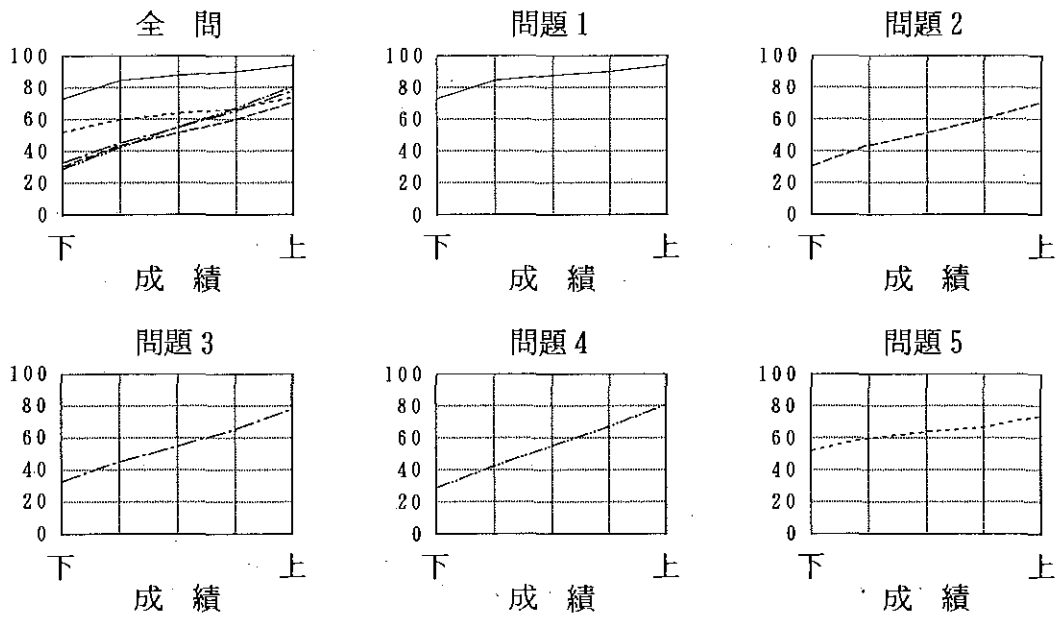


日本語教育能力検定試験 聴解試験 大問得点率分析図

平成8年度

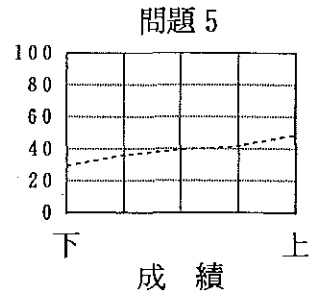
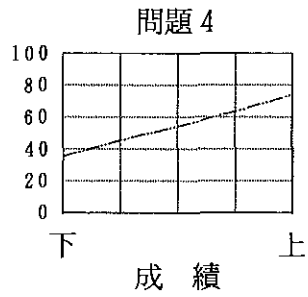
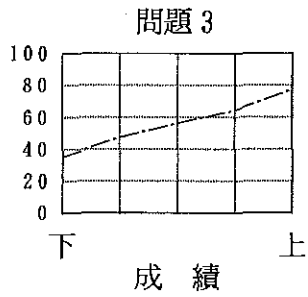
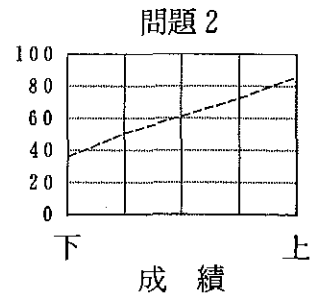
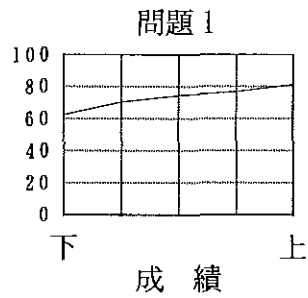
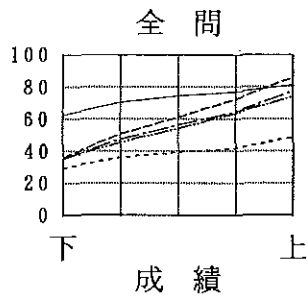


平成9年度

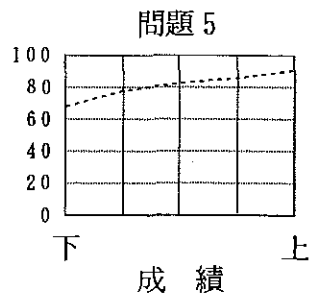
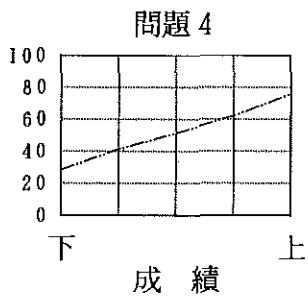
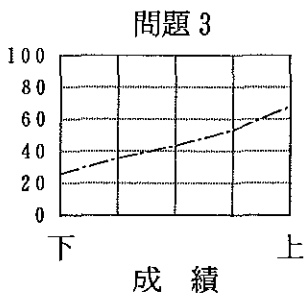
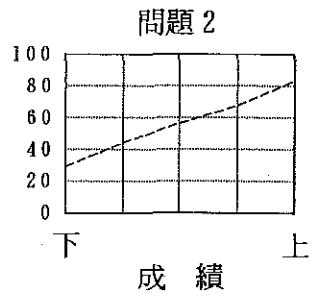
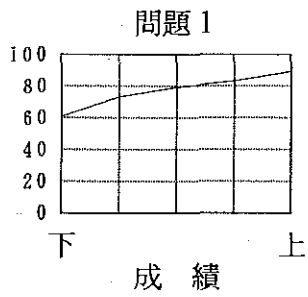
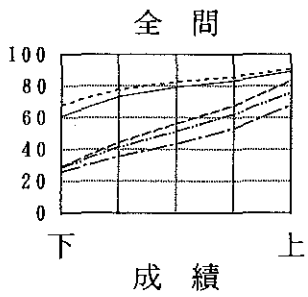


日本語教育能力検定試験 聴解試験 大問得点率分析図

平成10年度

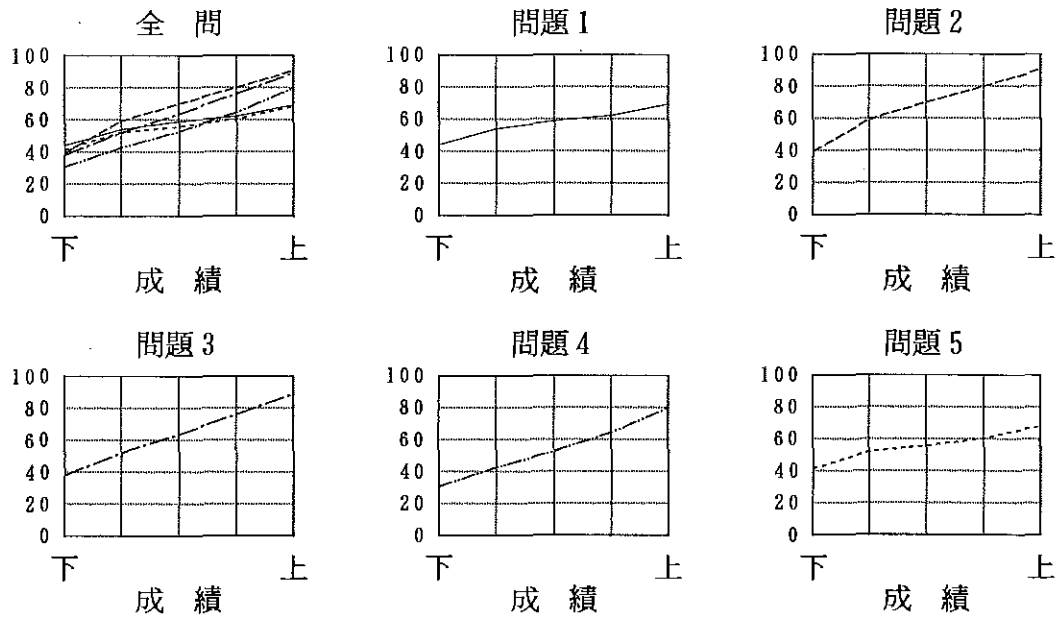


平成11年度

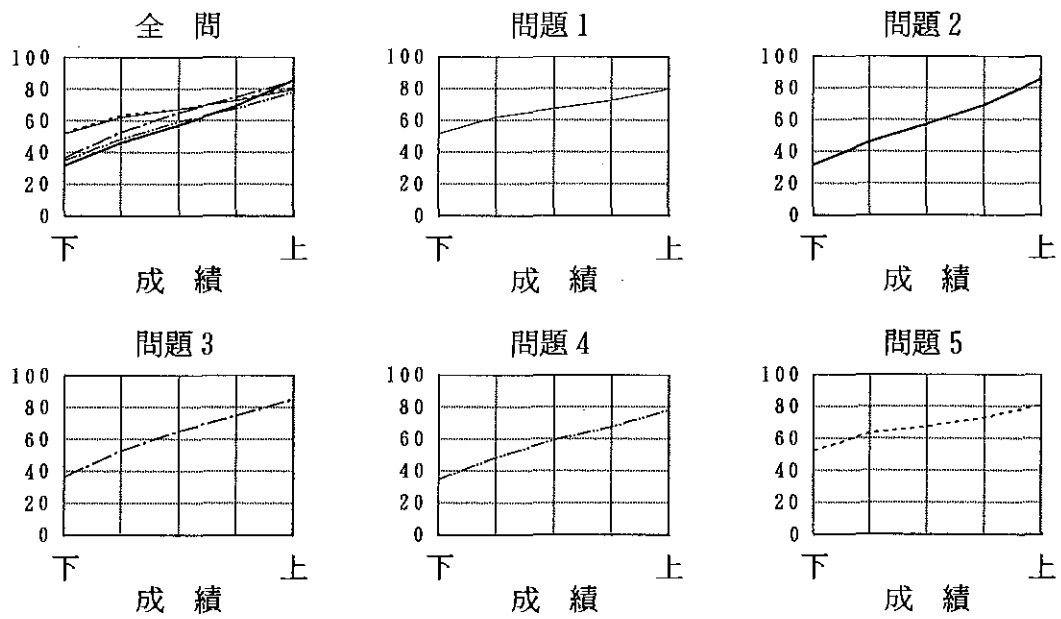


日本語教育能力検定試験 聴解試験 大問得点率分析図

平成12年度

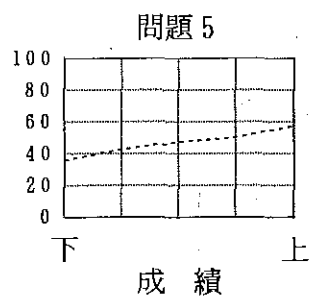
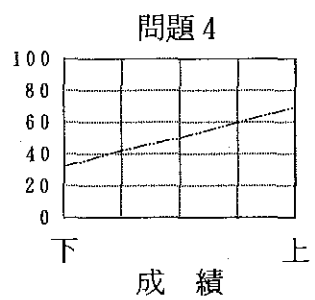
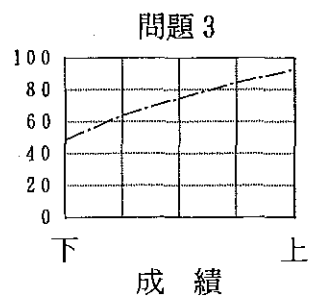
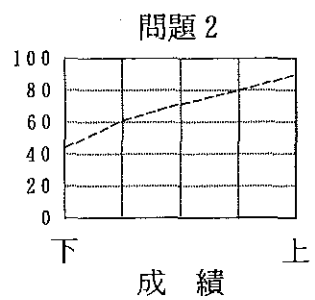
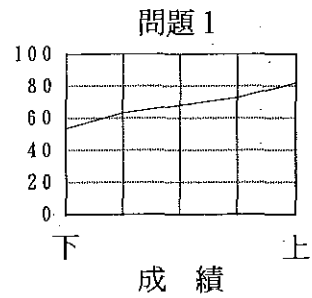
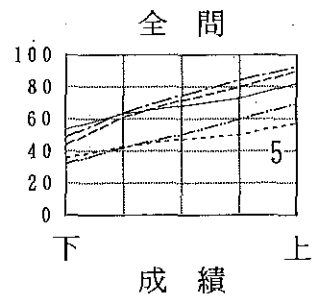


平成13年度



平成14年度 日本語教育能力検定試験

聴解試験 大問得点率分析図



平成4年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅰ 上位群と中位群の設問正答率

問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答
1- 1	95.03	1.98	5	4-1-1	87.00	7.23	C	9- 1	74.14	12.28	I
2	79.91	9.80	1	2	99.20	0.58	D	2	22.43	9.69	F
3	81.08	10.82	1	3	98.32	0.80	A	3	96.27	1.83	M
4	70.20	15.86	2	4	52.96	11.13	B	4	86.19	8.55	B
5	64.57	16.60	4	2-1	94.38	3.72	A	5	45.36	17.56	G
6	59.97	16.16	5	2	99.34	0.44	D	6	21.26	8.67	J
7	88.82	6.44	5	3	99.78	0.15	B	7	91.16	4.97	D
8	81.45	12.93	1	4	95.91	1.90	D	8	39.30	18.44	K
9	7.45	4.96	4	5- 1	77.57	12.28	4	10-1-1	65.32	18.82	F
10	83.78	7.83	2	2	45.95	29.16	5	2	77.09	11.87	I
11	76.11	14.84	2	3	92.55	1.39	2	2-1	98.47	0.80	B
12	66.76	21.12	3	4	38.93	20.27	3	2	48.06	24.06	B
13	48.94	20.91	3	5	45.58	26.39	2	3	64.43	19.15	B
14	43.61	19.09	4	6	49.60	23.61	1	4	89.04	7.38	A
15	90.36	5.41	2	7	27.61	26.40	2	11-1-1	54.83	15.50	1
2- 1-1	83.93	9.35	F	8	60.99	20.40	4	2	67.87	14.93	4
2	86.71	7.01	E	9	85.39	5.78	5	2-1	62.41	12.57	5
3	97.59	1.83	O	10	35.06	23.41	1	2	46.88	19.08	6
4	91.67	5.05	L	6-1-1	80.72	14.83	1	12-1-1	93.79	4.02	4
5	97.22	1.76	B	2	46.02	27.41	4	2	91.45	5.70	2
6	86.05	9.06	D	3	63.84	27.11	1	3	71.80	14.40	1
7	94.23	4.68	K	4	26.88	36.33	4	2-1	70.49	17.10	2
8	84.44	10.89	I	5	33.24	21.50	3	2	78.31	16.22	7
9	89.70	6.94	H	2-1	42.95	32.31	4	3	88.75	8.62	4
2	24.98	20.93	A	2	53.25	27.70	3	13-1-1	91.82	4.68	2
3	54.57	9.66	D	7-1-1	28.56	24.07	4	2	50.47	15.66	4
4	82.25	11.55	B	2	41.34	16.40	4	3	64.06	18.28	4
5	62.97	2.14	B	2-1	88.94	3.39	A	2-1	82.05	11.79	3
3- 1	91.28	5.49	E		64.97	14.90	E	2	68.44	13.30	4
2	36.53	32.36	F	2	68.30	13.82	B	14- 1	59.24	20.98	4
3	77.24	11.86	B		67.09	17.36	C	2	40.03	21.58	1
4	75.53	13.87	D	3	53.90	20.33	B	3	52.89	18.50	5
5	44.05	27.63	A		57.51	19.65	D	4	75.89	13.09	2
6	81.96	11.25	C	4	56.95	21.26	C	5	39.23	18.65	5
7	86.59	4.10	A		56.46	18.29	D	6	50.18	22.23	6
8	77.38	10.90	D	8-1-1	62.09	25.72	4	15-1-1	86.78	8.40	A
9	84.97	5.11	G	2	18.41	19.47	3	2	94.30	4.31	B
10	86.19	9.14	E	3	18.41	30.93	5	3	78.52	9.00	B
11	53.54	16.90	B	4	26.95	30.06	6	2-1	34.39	19.41	3
12	97.88	1.29	C	2-1	52.15	13.69	3	2	49.84	25.28	1
13	97.30	1.88	F	2	82.83	1.33	2	3	95.37	2.89	2
				3	46.60	3.04	2				
				3-1	26.45	8.56	1				
				2	39.01	8.40	3				

平成5年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅰ 上位群と中位群の設問正答率

問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答
1- 1	75.99	13.41	2	5- 1	97.50	1.62	2	9- 1- 1	20.00	3.13	B
2	27.76	18.30	2	2- 1	78.94	11.05	3	2	88.73	4.79	F
3	69.88	16.21	3	2	84.02	11.12	4	3	18.80	6.51	G
4	72.24	0.09	1	3	33.36	36.91	3	2- 1	79.09	9.87	A
5	82.77	6.34	5	4	93.37	3.91	1	2	18.24	6.09	E
6	94.33	3.76	1	5	92.64	6.26	1	3	19.17	1.31	H
7	97.94	1.62	4	3- 1	50.07	21.75	4	10- 1- 1	92.42	5.23	D
8	71.87	18.49	1	2	14.95	19.34	2	2	46.39	29.99	A
9	86.08	4.94	2	3	41.46	27.63	1	3	61.71	8.64	C
10	98.60	1.11	3	6- 1- 1	94.04	4.64	3	4	81.30	10.16	E
11	96.24	2.66	3	2	65.17	27.55	5	5	95.66	2.72	A
12	37.48	27.86	5	3	77.61	18.12	4	6	70.25	19.45	C
13	69.15	15.99	3	2- 1	66.72	21.80	B	7	79.23	13.26	E
14	96.54	2.65	4	2	59.50	31.74	D	8	30.63	23.97	D
15	44.48	14.61	5	3	82.33	14.58	C	2 A	54.05	29.61	F
2- 1	21.50	16.40	4	4	74.15	21.29	A	B	61.05	12.90	D
2	60.97	22.03	2	5	67.53	22.32	G	C	79.90	13.04	H
3	43.15	26.31	1	6	58.10	30.05	E	D	67.38	22.10	G
4- 1	93.81	5.53	2	7	74.89	18.93	D	11- 1	83.06	11.42	4
2	43.48	5.49	3	7- 1- 1	83.87	10.91	4	2	95.36	3.61	1
3- 1	86.23	9.58	2	2	82.99	13.70	3	3	24.30	27.58	2
2	54.12	26.23	3	3	70.69	17.61	4	4	91.75	6.70	5
3	46.10	28.29	5	4	95.43	3.54	5	5	90.35	6.93	2
4	56.19	30.93	4	5	40.43	36.76	2	6	92.49	5.52	4
5	67.45	23.94	2	6	80.19	13.41	3	12- 1	74.67	14.66	2
6	72.75	18.86	5	7	60.60	27.26	5	2	10.68	7.27	3
7	56.11	28.73	1	8	44.77	24.77	1	3	28.87	35.44	1
4- 1	20.62	11.02	3	9	97.13	2.06	2	13- 1	29.68	10.20	B
2	58.17	18.21	2	10	41.53	23.52	2	2- 1	85.71	10.32	E
3	98.75	0.96	4	2	78.79	16.65	2	2	66.27	20.78	C
4	51.77	17.55	1	8- 1	58.25	24.53	1	3	80.63	13.56	G
5	76.44	11.35	2	2	32.70	31.17	4	4	74.08	18.19	B
				3	71.21	9.29	4	3- 1	85.29	9.57	A
				4	56.04	29.02	2		55.47	24.82	E
				5	34.46	31.03	5	2	86.35	6.51	B
				6	13.62	25.67	4		55.29	17.64	G
				7	20.18	18.23	3				
				8	63.84	26.67	5				
				9	67.45	23.65	1				
				10	92.42	7.06	3				

平成6年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅰ 上位群と中位群の設問正答率

問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答				
1-	1	73.60	13.65	5	4- 1-1	97.64	2.36	D	7- 1 A	89.68	7.96	B			
	2	89.44	7.31	1		2	68.40	19.50	F		B	87.90	9.83	F	
	3	48.66	12.10	4		3	72.14	20.06	B		C	97.81	1.62	D	
	4	89.11	8.62	3		4	83.43	10.23	G		D	92.12	7.07	K	
	5	93.58	4.55	5		5	31.68	29.90	A		E	82.45	10.48	A	
	6	68.40	18.76	2		2	74.25	19.17	1		F	79.20	13.00	G	
	7	98.46	1.05	4		3	51.91	28.43	2		2	86.68	9.66	3	
	8	65.80	25.26	5		4	58.73	28.27	5		3	54.91	25.27	3	
	9	85.38	8.12	1		5-1	65.07	30.79	F	8- 1-1	96.83	2.52	3		
	10	33.14	10.89	5		2	41.27	37.93	D		2	96.99	2.69	2	
	11	88.38	7.96	2		3	70.76	25.26	C		3	93.74	3.90	4	
	12	61.17	22.66	2		4	53.29	34.36	J		2-4	59.22	10.24	C	
	13	97.81	1.38	4		5	59.46	30.71	H		5	96.75	2.28	H	
	14	84.40	7.40	2		6	84.16	12.43	3		3	27.05	22.34	5	
	15	60.28	26.32	3		5-	1	64.91	24.45	3	9- 1	94.80	3.25	4	
2- 1-1	46.39	22.74	4			2	35.91	27.45	2		2	86.68	9.26	6	
	2	77.25	15.36	1		3	67.26	21.37	3		3	66.69	20.64	3	
	3	61.17	22.34	3		4	56.86	26.49	4			74.65	18.45	7	
	4	15.43	10.81	4		5	49.72	14.54	1		4-1	98.62	0.89	4	
	2	47.60	28.84	2	6- 1-1	72.30	17.55	4		2	20.31	9.10	5		
	3	89.52	6.58	3		2	98.38	0.97	3		3	85.78	8.21	3	
3-	1	89.68	4.96	3		3	94.07	4.71	1		4	60.76	15.44	1	
		86.52	4.71	4		4	87.73	7.40	2	10- 1-1	70.84	16.57	2		
	2	67.18	17.87	1		5	15.92	10.08	1		2	88.06	9.18	4	
		86.84	7.23	3		6	94.48	4.06	1		3	66.53	19.82	6	
	3	71.73	10.15	1		7	81.64	14.14	3		4	78.88	15.03	3	
		73.03	11.70	5		8	20.15	16.73	2		2	98.86	0.98	3	
						2-1	84.40	7.96	F		3	87.81	10.57	2	
						2	83.10	11.21	B	11- 1-1	79.45	12.83	1		
						3	78.07	15.51	C		2	87.08	8.78	4	
												69.70	19.01	5	
13- 1 E	51.06	21.71	4								2-1	41.75	13.90	4	
	S	71.43	12.95	1							2	37.53	20.47	1	
	C	55.74	26.35	3											
	K	13.33	3.34	4											
	2	29.57	25.51	4	12- 1	76.28	12.27	3							
		89.44	6.42	7		2 A	47.93	6.33	1						
14-	1	83.35	13.73	1		B	49.31	20.06	3						
	2	65.80	16.00	3		3	74.98	9.75	2						
	3	79.37	14.86	1			42.00	14.95	4						

平成7年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅰ 上位群と中位群の設問正答率

問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答
1- 1	85.36	11.43	3	5- 1 A	91.29	7.19	4	9- 1	66.41	14.98	2
2	38.83	36.13	4	B	76.31	17.01	2	2	97.21	2.11	1
3	93.65	5.00	1	C	46.28	28.93	5	3-2	79.86	14.22	3
4	98.05	1.95	1	D	61.59	21.24	3	3	49.32	21.58	4
5	86.97	3.64	2	E	90.78	6.26	1	4-4	76.40	15.82	4
6	98.90	0.76	2	2-1	93.91	5.41	A	5	46.62	24.11	2
7	66.24	5.08	5	2	65.82	20.39	E	10- 1	94.08	4.48	1
8	84.77	7.28	2	3	67.77	13.79	G	2	63.62	20.31	2
9	27.75	25.97	2	4	48.14	22.08	F	3	59.14	28.85	2
10	91.54	5.50	3	5	88.41	9.56	D	4	96.95	2.20	4
11	86.21	9.64	1	6	63.20	19.71	G	5	98.14	1.44	3
12	89.59	5.33	5	7	39.09	32.57	F	6	71.07	23.43	5
13	52.28	14.05	3	8	97.72	1.43	C	7	88.32	7.87	4
14	43.06	31.39	4	9	64.64	20.30	D	8	77.07	13.29	3
15	66.07	1.78	3	10	90.52	7.11	B	9	96.95	2.20	1
2- 1-1	99.58	0.00	2	6- 1-1	99.66	0.26	1	11- 1-1	45.94	17.34	4
2	99.07	0.76	1	2	98.22	1.36	5	2	75.55	11.93	2
3	92.22	3.55	6	3	97.29	2.12	3	3	33.84	25.47	4
2-4	98.22	1.27	1	2	96.19	2.96	3	4	25.38	9.73	4
5	96.87	1.27	4	3-5	95.01	3.55	5	5	19.88	11.93	3
6	79.10	10.41	2	6	98.14	1.78	1	2 1	11.00	7.10	1
7	56.68	20.90	1	7	95.69	3.63	4	□	85.36	12.10	4
8	97.21	1.69	5	4	73.69	18.36	1	3	27.58	11.68	4
3	97.21	2.11	5	5-1	78.09	10.74	4	12- 1-1	98.39	0.43	A
4	97.80	2.12	1	2	97.04	1.86	2	2	87.99	4.99	B
3- 1-1	92.98	5.07	5	3	83.76	12.01	3	3	78.76	10.33	A
2	43.49	29.10	1	7- 1-1	74.45	15.14	2	4	84.77	6.35	C
2	10.24	8.03	3	2	75.55	14.97	7	5	97.55	1.86	A
3	17.43	4.48	4	2	69.97	18.78	1	2 A	90.69	5.93	6
4- 1-1	19.29	9.05	1	3 A	92.89	5.33	1	B	70.47	12.36	5
2	69.97	20.64	3	B	59.64	26.32	3	C	90.86	6.77	1
3	47.80	24.11	2	C	72.84	18.62	2	13- 1-1	69.37	23.78	4
4	74.79	14.47	3	D	75.04	17.94	4	2	71.83	19.37	6
5	77.75	9.22	1	E	43.40	29.70	3	2	57.95	28.85	3
6	72.00	12.60	2	8- 1	89.42	8.21	1	14- 1	68.44	9.99	5
2 1	81.30	13.62	2	2	79.95	8.63	2	2	82.83	8.03	1
□	53.64	20.98	1	3	83.67	9.05	3	3	79.53	11.67	2
ハ	74.28	12.10	1	4	79.02	15.40	5	4	75.80	16.59	4
ニ	62.94	17.60	4	5	49.41	30.62	4	5	65.99	25.04	1
ホ	13.71	17.68	3	6	66.58	25.64	1	6	55.16	26.90	2
ヘ	12.44	18.61	3	7	57.78	7.87	1	7	39.00	39.85	5
X	94.75	3.30	1	8	73.77	19.97	2	8	19.63	31.05	2
Y	95.94	2.96	4	9	81.64	14.55	3	9	74.62	17.85	1
				10	52.20	33.50	1	10	29.53	6.34	4

平成8年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅰ 上位群と中位群の設問正答率

問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答
1- 1	22.97	9.69	3	5- 1	84.88	11.28	1	10- 1-1	75.44	11.95	3
2	88.89	7.10	1	2-2	47.70	40.52	6	2	14.79	17.37	1
3	78.86	11.70	5	3	51.38	36.76	4	3	49.96	29.15	3
4	42.69	18.46	4	4	36.59	46.53	2	4	35.59	22.56	2
5	58.90	23.14	5	3-5	78.36	17.63	4	5	88.22	6.35	4
6	21.80	10.70	2	6	78.78	16.54	1	6	43.11	37.84	4
7	15.87	18.55	3	7	86.97	11.36	2	7	12.36	20.81	4
8	95.82	1.67	4	4	43.27	29.16	4	8	38.26	22.31	4
9	93.15	4.68	2	5	87.80	10.36	5	2	25.48	7.02	3
10	93.65	3.09	1	6	61.99	30.57	2	3	43.11	38.18	1
11	68.00	14.96	2	7	28.82	40.52	4	11- 7	79.95	11.03	2
12	76.61	14.20	3	8	32.00	3.76	1	イ	63.91	10.02	7
13	83.71	7.77	4	6- 1	75.36	12.53	4	ウ	32.58	1.92	5
14	96.41	2.42	1	2	90.98	5.09	1	12- 1	71.60	16.12	3
15	49.29	5.10	2	3	62.91	21.13	1	2-1	87.39	8.02	4
2- 1-1	87.22	10.69	3	4	85.05	6.76	4	2	89.56	6.51	1
2	90.89	7.86	2	5	73.60	8.1	2	3	15.87	4.85	3
3	97.24	2.01	1	7- 1 A	84.13	8.85	G	4	81.20	8.27	1
4	96.83	2.59	3	B	52.88	16.38	C	5	42.86	-1.51	2
5	39.60	26.73	4	C	65.91	12.29	D	6	46.87	1.08	2
2	85.71	11.78	1	D	52.72	19.04	J	13- 1 7	98.50	1.00	1
3	51.46	18.88	3	2	73.52	17.71	5	イ	98.83	0.17	3
4	36.34	18.46	2	3	39.35	11.78	1	2	89.31	6.26	2
3- 1-1	95.82	2.84	5	4	27.40	26.48	4	3 7	84.04	-1.33	3
2	83.96	7.60	2	5	29.74	13.79	3	イ	84.04	6.27	4
3	69.42	5.94	4	6	79.62	12.53	1	4	81.79	13.78	3
4	71.93	13.03	5	7	53.38	19.55	2	14- 1	78.70	13.36	5
5	94.32	1.75	1	8	71.68	16.37	2	2	64.58	23.72	3
6	40.02	4.59	2	9	90.56	7.94	3	3	64.75	25.14	4
7	98.41	1.09	5	8- 1-1	94.90	2.01	1	4	43.27	12.45	1
8	94.15	4.18	4	2	65.83	8.69	5	5	58.73	21.30	5
2	95.24	3.59	4	2	90.48	5.76	2	6	35.59	28.65	3
4- 1-1	34.92	16.88	1	3	89.72	4.6	3	7	38.85	25.48	3
2	39.35	22.72	5	4	26.57	27.73	3	8	28.40	16.63	1
3	16.46	0.08	4	5	86.30	7.43	4	9	51.71	30.83	4
2 7	26.65	27.15	B	6	49.96	25.81	2	10	23.89	33.00	1
イ	12.36	22.23	D	9- 1-1	25.40	15.45	2				
ウ	55.14	24.48	L	2	16.29	4.85	3				
				3	69.51	16.37	2				
				4	72.93	7.44	4				
				5	85.38	7.94	5				
				6	65.41	6.02	3				
				7	52.88	16.54	3				
				2	63.16	15.04	5				
				3	9.86	2.5	4				

平成9年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅰ 上位群と中位群の設問正答率

問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答
1- 1	88.40	6.54	4	5- 1-1	71.39	6.98	1	10- 1	55.76	26.47	5
2	73.45	11.27	4	2	86.51	9.28	2	2	29.47	35.68	2
3	61.86	20.89	2	3	73.97	15.90	1	3-1	72.94	16.07	1
4	51.29	21.67	1	4	22.08	14.57	4	2	15.98	10.97	4
5	95.27	3.18	5	5	71.13	15.57	5	11- 1	59.36	18.41	5
6	36.17	19.54	1	6	92.01	2.15	3	2	15.72	9.69	5
7	98.97	0.94	1	2	61.60	10.93	3	3 X	46.31	24.59	1
8	59.19	16.17	3	3	86.00	7.48	2	Y	40.38	29.49	5
9	82.90	9.63	2	6- 1-1	24.23	8.13	1	4	40.38	11.89	1
10	59.28	20.81	5	2	98.80	1.20	5	5	37.29	16.27	3
11	69.59	13.50	3	3	93.13	5.07	1	6	47.94	20.47	1
12	22.34	19.63	2	4	98.54	1.20	4	7	89.26	7.22	3
13	88.14	3.62	2	5	83.16	11.43	2	8	43.21	7.61	2
14	70.88	8.86	4	6	39.86	32.16	1	12- 1	34.36	21.00	4
15	71.74	9.89	5	7	47.08	28.28	3	2	37.37	31.73	2
2- 1-1	86.17	9.88	5	8	50.52	25.19	1	3	72.16	14.88	1
2	70.96	14.45	1	2	87.29	7.99	4	4	56.87	27.42	2
3	50.95	25.79	1	3 A	40.12	28.03	2	13- 1-1	25.77	16.12	A
4	65.64	15.82	3	B	79.55	12.55	5	2	26.72	19.20	F
5	67.35	22.61	2	C	90.98	6.87	2	3	16.24	3.76	D
6	44.76	27.51	4	D	78.61	15.81	3	4	48.20	20.21	B
7	43.21	28.89	2	E	38.83	31.38	3	5	29.55	9.93	G
2-1	89.60	6.79	4	F	64.52	19.94	4	2-1	19.50	10.37	B
2	85.48	10.40	2	7- 1	56.36	30.34	2	2	43.47	18.42	D
3- 1	52.15	21.58	4	2	18.73	13.63	4	3	39.18	16.96	G
2-1	72.34	19.16	1	3	47.42	32.32	1	4	33.76	22.89	H
2	61.25	23.73	3	4	30.76	22.03	1	5	22.34	12.77	E
3	70.36	18.57	5	5	20.19	12.69	5	14- 1-1	93.81	4.22	C
4	45.88	30.34	3	8- 1	62.71	15.14	2	2	81.19	15.55	A
3-1	85.31	9.71	4	2	13.06	11.92	5	3	42.96	16.10	F
2	56.70	24.59	8	3	39.09	24.60	2	4	88.49	6.96	B
4	64.60	11.79	2	4	22.34	12.94	1	5	57.56	33.17	I
4- 1	93.04	4.04	3	5	75.43	14.87	4	6	72.42	18.57	D
2-1	67.10	4.23	1	6	21.39	0.41	5	2 A	77.15	17.61	2
2	78.52	8.09	5	7	55.76	17.54	3	B	70.96	21.74	3
3	64.35	23.63	4	8	90.55	7.30	1	C	40.46	25.38	1
4	94.76	1.38	3	9- 1-1	72.42	13.50	2	3	59.36	19.52	2
5	71.82	2.69	5	2	38.75	13.01	4				
6	90.72	2.33	4	3	18.99	8.31	4				
7	88.92	5.07	2	4	42.35	20.83	1				
8	96.31	1.80	1	2	67.61	18.83	1				
				3	83.08	9.28	2				
				4	41.75	15.16	4				

平成10年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅰ 上位群と中位群の設問正答率

問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答
1- 1	42.98	25.74	1	5- 1	99.34	0.09	3	10- 1 A	77.04	16.32	4
2	92.22	6.36	5	2-2	51.23	25.17	6	B	10.06	5.96	2
3	98.67	0.95	3	3	50.95	15.12	9	C	81.78	4.86	3
4	83.40	11.67	5	4	71.82	18.04	8	2-1	64.52	18.23	1
5	80.17	10.35	2	5	42.03	20.72	4	2	84.72	10.83	4
6	65.09	10.17	2	3	94.31	3.89	2	3	62.05	7.71	5
7	64.71	17.00	5	4	84.35	11.10	4	3	69.83	15.10	1
8	56.26	26.87	1	5	79.60	12.63	1	4	85.20	7.41	3
9	38.99	21.29	3	6- 1	80.17	14.71	3	11- 1 a	39.75	37.50	4
10	70.49	10.55	2	2	78.08	14.81	2	b	58.73	24.11	1
11	58.25	13.79	3	3	64.14	25.15	4	c	36.81	31.91	3
12	15.46	7.86	5	4	89.56	6.65	5	d	62.71	29.42	5
13	61.76	17.48	4	5	96.02	2.94	3	e	25.24	28.69	2
14	88.24	6.93	3	6	96.96	2.66	5	f	17.36	18.09	1
15	84.72	8.74	2	7	96.11	2.85	4	2 A	61.48	16.06	3
2- 1	60.15	21.65	5	7- 1-1	62.43	25.06	5	B	43.64	21.29	4
2	86.15	9.58	2	2	93.64	4.65	4	3 X	37.57	28.31	1
3	66.79	25.34	5	3	99.15	0.19	4	Y	54.46	3.64	2
4	96.68	3.13	4	4	95.92	3.70	2	12- 1-1	20.59	12.77	1
5	79.13	15.66	4	5	56.36	23.36	1	2	70.02	11.12	2
6 C	74.67	17.56	5	2 X	81.02	16.14	2	3	57.69	25.44	5
D	89.18	7.41	2	Y	85.39	11.58	5	4	49.05	20.05	3
7 E	62.81	17.28	2	8- 1	89.56	6.93	1	5	15.09	31.45	5
F	64.90	15.38	3	2	52.94	17.68	3	6	14.99	8.80	3
3- 1-1	63.85	2.41	B	3	52.56	25.73	2	2	88.90	7.31	1
2	87.38	9.21	G	4	46.49	24.03	2	13- 1	76.94	15.95	5
3	92.79	5.41	A	5	82.07	4.75	3	2	45.26	25.26	4
4	83.78	10.06	I	9- 1	31.69	17.41	4	3	67.17	14.92	1
2-5	82.92	12.34	J	2	64.61	10.75	3	4	58.82	23.08	2
6	52.47	21.65	F	3-1	60.25	24.02	1	5	49.05	24.22	3
7	20.78	-5.05	D	2	88.61	5.13	1	6	57.40	14.54	4
8	77.89	9.12	B	4 C	79.03	12.44	4	7	60.25	20.32	3
3-9	41.56	20.05	C	D	56.83	14.64	1	8	30.36	28.79	1
10	18.50	10.69	A	E	62.62	5.44	5	9	54.46	22.03	3
4- 1 A	83.30	8.55	3	F	41.18	6.59	1				
B	98.01	1.61	4								
C	69.64	11.88	6								
D	94.50	4.08	1								
2	27.13	35.43	3								
3	69.45	14.34	2								
4	31.88	17.98	4								
5	60.91	18.71	4								

平成11年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅰ 上位群と中位群の設問正答率

問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答
1- 1	89.00	5.85	2	5- 1-1	70.48	17.91	2	10- 1-1	72.49	14.07	2
2	51.00	25.18	4	2	52.84	8.07	3	2	64.10	17.84	1
3	76.42	5.60	2	3	52.23	9.11	3	2	48.47	22.65	5
4	60.70	28.39	1	4	66.99	21.32	1	3	58.60	23.95	1
5	91.88	4.89	1	5	55.20	25.08	5	4	79.56	12.76	4
6	30.74	15.42	4	6	76.68	15.12	2	5-6	21.57	16.91	1
7	94.06	2.80	4	2	25.50	17.69	4	7	19.91	18.92	2
8	40.70	19.07	4	3	67.77	13.73	5	8	58.17	17.75	1
9	52.14	15.66	3	4-1	74.85	19.57	7	11- 1-1	62.97	7.01	A
10	99.48	0.08	3	2	88.91	7.51	3	2	45.07	10.17	I
11	60.79	9.54	5	3	75.90	18.95	6	3	36.24	20.13	C
12	87.16	5.34	2	6- 1	70.57	16.60	3	2	41.92	27.80	C
13	89.08	5.77	1	2-1	35.90	26.23	5	12- 1-1	90.57	7.68	E
14	69.08	19.84	2	2	17.12	18.74	1	2	70.13	23.06	J
15	97.38	2.36	3	3	39.39	25.01	3	3	86.11	12.23	I
2- 1- 1	62.27	26.12	E	3-1	68.12	11.11	2	4	70.22	21.40	D
2	30.74	36.01	F	2	46.64	13.31	5	5	66.81	23.94	B
3	46.11	32.07	I	4	47.86	20.46	2	6	71.35	22.63	A
4	36.07	35.75	C	7- 1-1	75.46	15.20	1	7	95.90	3.05	H
6	44.54	27.19	G	2	76.68	11.63	5	8	95.37	3.32	G
14	15.55	16.13	A	3	78.34	6.65	2	9	71.53	21.05	C
2	42.10	26.57	5	2-1	43.84	26.67	4	2 A	39.48	14.27	3
3- 7	36.77	28.59	1	2	25.15	34.19	5	B	40.52	16.81	4
8	20.96	33.58	2	3-1	38.78	21.60	1	3	46.46	31.72	2
4	41.31	29.81	4	2	52.58	32.24	2	4	30.31	13.41	4
5	22.01	9.40	5	4	55.81	22.29	3	13- 1 A	28.12	18.30	7
6-11	29.26	19.17	3	8- 1	26.11	15.86	1	B	33.45	25.63	3
12	76.59	15.21	4	2	87.34	7.95	2	C	38.69	22.48	4
7	30.13	13.76	2	3	88.38	6.38	1	2-1	16.68	13.16	5
3- 1- 1	61.92	13.82	5	4	91.00	4.03	2	2	19.04	12.02	2
2	93.54	2.88	1	5-1	80.00	7.61	1	3	28.03	24.50	4
3	95.98	2.89	3	2	55.55	21.41	5	4	22.53	12.20	5
4	86.64	8.12	1	9- 1-1	30.13	17.43	3	5	18.52	7.05	3
5	28.03	4.43	2	2	92.05	2.80	2	6	23.41	28.51	5
2	75.28	12.68	4	4	77.99	13.72	5				
3	95.02	2.97	4	4	84.63	6.03	5				
4- 1	25.41	13.94	2	5	97.90	1.23	4				
2- 2	94.85	2.97	1	2	69.08	15.47	3				
3	96.59	2.10	4	3-1	82.53	8.22	3				
3	81.66	14.59	1	2	90.48	0.36	2				
4	65.85	18.62	3	3	72.31	9.80	5				
5	43.49	29.72	2	4	95.11	3.14	4				

平成12年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅰ 上位群と中位群の設問正答率

問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答
1- 1-1	24.94	12.38	1	5- 1	84.29	11.10	3	10- 1	85.14	11.44	4
2	85.65	3.50	3	2	65.16	19.30	2	2	60.80	28.10	1
3	96.84	2.05	1	3	86.17	9.90	4	3	87.28	10.41	8
4	93.85	3.67	5	4	67.21	10.50	1	4	74.98	18.96	7
5	71.65	21.60	3	5-1	65.41	16.83	3	5	50.47	29.12	1
6	48.16	22.63	4	2	87.87	8.54	5	6	71.56	18.53	9
7	85.06	8.54	5	3	77.46	8.11	2	7	79.76	15.20	3
8	66.78	11.36	3	4	59.18	17.51	1	8	78.22	15.72	3
9	98.46	0.94	4	5	83.77	8.37	4	11- 1-1	78.05	11.53	1
2-1	11.27	1.37	5	6	53.89	22.71	3	2	68.66	13.15	6
2	13.75	-1.71	4	6- 1	67.81	14.60	4	2-3	3.33	4.61	J
3	8.88	-0.43	1	2-1	71.82	16.82	3	4	65.76	14.43	B
4	70.28	15.63	2	2	74.47	17.08	2	3	25.70	9.14	1
2- 1-1	93.00	4.78	2	3	47.40	25.87	1	4	41.59	8.20	3
2	89.75	7.18	3	4	74.21	19.90	1	5	28.78	6.06	5
2	60.55	27.49	1	5-4	90.61	7.43	5	6	25.19	20.67	3
3	66.10	25.70	4	5	88.47	9.65	3	12- 1	97.78	1.11	5
4	47.31	10.50	2	6	86.34	9.22	4	2	70.62	14.01	1
5	3.33	0.85	5	7- 1	23.57	17.68	2	3	47.31	5.98	2
6	33.22	23.57	4	2	53.89	28.01	5	4	8.45	10.85	5
3- 1	40.14	17.76	1	3	46.88	26.65	4	5	31.00	6.15	4
2-1	18.45	13.15	3	4	37.92	24.85	5	6	43.47	23.05	4
2	17.76	2.99	7	5	72.16	15.20	2	13- 1	78.48	9.05	3
3	56.45	14.09	1	8- 1	89.84	6.49	2	2	54.23	24.68	5
4	57.39	24.25	6	2	66.78	7.09	4	3	39.80	20.32	1
5	42.78	11.53	2	3	93.42	4.70	3	4	43.30	16.56	4
6-1	78.48	13.83	2	4	34.33	27.33	3	5	39.45	22.21	2
2	22.89	13.40	5	9- 1-1	96.93	1.96	C	6	70.03	15.79	5
4- 1-1	74.47	9.65	3	2	56.87	5.98	F	7	38.09	14.34	1
2	74.81	12.98	2	3	72.08	8.53	I				
2	44.83	7.60	5	4	29.97	-8.45	K				
3	71.99	17.42	1	2	17.42	4.44	4				
4	93.25	4.53	1	3	28.78	7.09	4				
5-1	67.63	11.45	7	4	51.41	8.03	1				
2	45.26	3.42	3	5	47.65	11.87	2				
6	50.81	18.62	2	6	58.75	4.70	3				
7	36.81	20.66	3								

平成13年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅰ 上位群と中位群の設問正答率

問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答
1- 1	20.38	11.06	5	5- 1-1	58.25	17.25	2	9- 1	56.81	19.59	3
2	41.03	9.87	2	2	40.40	13.92	7	2	47.61	20.41	1
3	14.79	7.73	1	3	63.30	17.42	8	3	9.02	0.44	4
4	41.03	-9.50	5	2	38.95	18.08	4	4	36.52	9.07	2
5	50.95	17.79	3	3	50.50	7.52	3	5	12.44	6.93	5
6	71.69	13.26	1	4	49.59	15.27	2	6-1	51.22	18.60	3
7	67.09	13.90	3	6-1	46.89	32.39	3	2	69.79	16.61	2
8	82.51	5.06	4	2-2	90.53	6.23	6	3	72.14	15.70	2
9	76.47	11.82	2	3	88.28	7.49	1	10- 1	62.94	28.05	2
10	79.80	14.25	1	3	75.38	8.85	1	2	35.98	31.95	2
11	94.86	2.62	3		62.22	21.47	4	3-1	36.25	38.80	4
12	70.42	14.35	5		57.89	22.65	5	2	33.54	41.23	1
13	12.17	15.22	5	4	76.01	14.62	5	3	30.75	35.20	5
14	24.62	11.60	2	5	54.91	30.32	2	4	51.13	28.87	3
				6	57.08	29.77	5	5	47.61	37.53	4
2- 1	75.56	12.82	4	7- 1	96.48	1.54	2	11- 1	79.08	10.83	5
2	96.57	2.71	3	2	74.57	21.38	5	2	67.63	18.68	3
3	68.62	14.71	5	3	68.17	24.98	3	3	44.72	21.32	1
4	15.06	26.92	4	4	56.18	33.10	3	4	39.13	5.64	4
5	82.78	11.00	1	5	93.15	5.14	4	12- 1	74.93	12.19	5
6	52.57	17.52	2	6	87.47	9.11	4	2	48.69	18.97	5
7	7.21	1.62	3	7	22.09	37.10	1	3	51.58	23.56	3
8	24.17	6.37	6	8	58.52	32.83	a	4	27.32	12.41	4
3- 1	69.97	20.93	1		56.63	34.81	g	5	23.35	15.66	1
2	96.03	2.80	5	9	87.47	10.19	2	6	55.18	18.33	3
3	43.46	10.05	6	10	70.06	13.54	2	13- 1	63.30	19.67	5
	28.13	6.01	4	8- 1	53.38	18.78	3	2	46.71	20.77	4
4	24.08	15.38	2	2-2	63.48	13.46	5	3	58.70	23.64	3
5	18.76	-1.82	4	3	63.12	25.53	3	4-1	89.72	9.29	4
6	98.02	0.99	5		77.46	13.98	7	2	89.18	9.83	3
4- 1	70.78	17.78	1	4	62.49	19.94	5	3	91.70	7.31	1
2	75.02	12.19	8		21.64	34.85	5	5-1	48.69	22.30	5
3-1	59.33	20.67	3					2	72.77	18.13	2
2	23.35	32.33	4					6-1	81.33	15.07	5
4	89.90	5.69	e					2	75.56	9.85	3
	61.95	13.91	b								
	46.08	22.12	c								
5	58.61	18.33	1								

平成14年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅰ 上位群と中位群の設問正答率

問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答	
1- 1	34.96	0.78	5	4- 1	71.22	17.89	1	8- 1	84.15	10.33	2	
2	65.93	13.19	3	2	70.81	18.71	3	2	48.70	25.30	4	
3	70.08	12.13	1	3	88.94	7.32	5	3	57.80	20.02	3	
4	12.85	8.27	2	4	64.47	4.66	2	4	56.26	19.04	3	
5	27.97	10.37	4	5	75.28	15.54	4	5	40.89	13.46	5	
6	21.87	1.36	2	6	36.34	7.77	1	6	84.23	10.81	4	
7	32.03	6.23	4	7	72.36	6.76	5	7	90.98	4.31	1	
8	89.02	7.00	5	8	79.92	9.28	3	8	82.85	8.62	5	
9	2.28	0.40	2	9	51.54	18.81	3	9	79.11	12.28	5	
10	73.98	11.56	3	10	63.17	10.27	2	10	32.60	20.85	2	
11	96.26	2.20	4	5- 1	73.82	11.07	4	9- 1-1	68.94	8.96	4	
12	98.29	1.47	5	2-1	91.06	3.98	3	2	93.90	4.31	9	
13	96.02	2.60	5	2	86.91	6.27	6	3	76.83	9.93	8	
14	58.05	19.12	3	3-3	35.93	16.55	9	2	35.37	14.10	4	
15	78.29	11.23	2	4	31.38	5.34	4	3-1	47.72	-3.61	1	
16	80.00	6.84	2	5	30.08	14.84	3	2	33.09	8.66	4	
17	78.29	10.66	1	6	37.89	17.59	2	4	22.03	21.19	1	
18	76.18	10.90	5	4	10.81	-3.26	5	5	64.15	9.12	3	
19	70.41	8.06	4	5	98.21	1.22	2	6-1	83.09	13.99	4	
20	57.64	13.85	1	6	62.68	12.87	1	2	29.19	14.11	3	
21	92.76	4.40	1	7	58.78	18.80	4	3	44.15	19.13	3	
22	43.58	20.43	2	8	72.11	13.35	5	10-	1	36.75	32.46	6
23	51.30	5.08	2	6- 1	84.15	11.06	4	2	31.54	18.01	3	
24	90.33	5.61	3	2	88.21	9.35	2	3	47.15	24.42	2	
25	95.45	2.93	5	3	74.80	18.05	2	4	41.30	28.56	1	
2- 1	67.80	18.15	2	4-4	25.45	23.21	1	5	30.16	4.20	2	
2-1	72.85	12.69	5	5	49.02	31.48	2	6	26.50	10.30	3	
	66.26	19.93	1	5	46.34	20.60	2	7	63.82	14.33	3	
2	36.59	21.17	4	6	60.81	12.54	4	11- 1	14.72	4.37	3	
	31.71	24.26	7	7	47.64	29.94	3	2	63.90	16.60	1	
3	66.99	14.16	4	8	55.20	23.68	4	3-1	30.16	15.33	2	
4	3.90	8.20	1	9	50.81	26.04	5	2	34.88	17.76	7	
5	85.37	11.22	3	10	24.55	12.82	5	4	60.73	15.06	5	
6	71.95	16.11	2	7- 1	91.14	6.50	1	5	39.11	25.80	4	
7	36.26	17.35	1	2	93.90	4.07	2	6-3	62.52	17.74	1	
8	39.19	20.19	2	3	33.17	10.53	4	4	24.80	8.59	5	
9	18.78	10.06	2	4	52.20	17.58	5	5	31.30	9.89	4	
3- 1	31.95	13.95	2	5-5	71.95	18.22	1	7	47.15	22.96	5	
2	20.57	23.70	1	6	86.34	9.68	5	12- 1-1	63.25	21.64	7	
3-2	75.61	13.83	1	6	47.80	26.61	1	2	64.39	21.23	4	
3	86.67	10.00	5	7	32.85	14.10	5	2	56.34	18.48	2	
4	88.70	9.03	3	8	38.29	28.08	4	3	67.24	14.40	3	
4-5	82.76	11.72	4					4	71.30	13.51	4	
6	86.02	10.41	3					5	48.21	25.63	1	
5	88.21	6.75	4					6	41.06	32.94	5	
6	31.30	18.74	2					7	29.19	14.43	1	
7	61.54	18.07	2					8	44.72	19.21	1	
8	33.33	21.67	4					9	34.23	27.35	2	

平成4年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅱ 上位群と中位群の設問正答率

問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答
1-1-1	57.25	25.92	E	5- 1	81.55	9.45	C	9-1	35.07	22.65	C
	29.58	11.39	H	2	76.87	12.52	E	2	60.10	19.86	C
2	37.70	33.04	B	3	40.04	31.36	B	3	75.40	10.34	B
	47.00	28.71	F	4	82.65	9.23	A	4	62.45	23.72	B
3	56.73	29.59	D	5	33.75	19.80	G	5	86.60	9.08	A
	55.34	25.20	G	6	65.71	14.77	1	10-1	37.26	13.73	D
4	29.06	37.00	C	7	91.33	4.19	7	2	95.97	2.49	A
	19.69	4.38	I	8	80.09	14.20	6	3	13.69	3.94	D
2-1	51.17	31.35	C	9	57.32	23.51	8	4	87.41	7.18	C
2	59.81	25.19	A	10	94.29	2.64	2	5	44.44	11.38	B
3	47.22	32.96	E	6- A	89.75	7.03	5	6	29.43	13.58	B
4	75.77	19.84	D	B	79.58	11.71	1	7	71.38	7.92	C
2- 1	27.23	6.27	C	C	72.84	20.14	6	8	69.33	8.21	C
2	65.23	18.31	B	D	93.92	4.47	3	11-1	41.58	10.14	3
3	91.07	4.83	C	E	47.80	30.69	2	2	81.48	8.06	3
4	42.17	24.76	D	F	95.97	1.40	7	3	60.54	17.15	1
5	87.26	11.20	B	G	97.29	1.91	4	4	54.32	11.08	4
6	98.83	0.80	D	H	42.39	26.15	7	5	18.01	8.62	1
7	93.65	4.96	A	7- 1- 1	95.31	2.50	D	2- 1	88.29	3.44	A
8	93.72	4.27	C	2	64.20	13.78	A	2	92.83	5.49	B
9	88.51	4.47	C	3	98.24	0.88	E	3	92.68	4.25	D
10	93.85	4.39	D	4	80.31	10.47	C	4	94.88	3.51	D
3- 1	86.46	7.03	C	2	44.58	19.28	3	5	92.39	3.51	C
2	78.70	13.84	A	3	38.80	13.28	A	3- 1	84.55	5.14	C
3	45.90	19.94	B	4	73.43	14.43	B	2	17.86	16.74	B
4	73.98	13.06	B	5	46.41	19.21	A	3	21.23	18.64	D
	67.14	14.42	F	8- 1	46.93	14.15	D	4	52.93	16.64	C
4-1 A	19.33	8.69	6	2	18.16	5.10	C	5	47.36	17.01	D
B	46.71	19.93	1	3-1	29.17	17.36	A				
C	75.84	9.09	3	2	83.53	5.82	D				
D	80.45	9.60	5	4	71.08	6.17	D				
2 A	30.45	29.83	3	5	71.96	10.12	B				
B	34.04	17.61	6								
C	44.73	22.28	4								
D	70.28	2.29	1								

平成5年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅱ 上位群と中位群の設問正答率

問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答
1- 1	18.17	5.89	A	5- 1- 1	82.50	11.30	A	10- 1	82.13	11.74	3
2- 1	20.83	13.93	D	2	55.54	20.62	A	2	56.72	22.54	4
2	26.66	14.82	C	3	81.24	13.96	D	3	51.18	17.23	2
3	31.39	19.46	E	4	67.73	24.23	C	4	66.47	14.49	1
4	44.46	18.05	B	5	45.49	26.69	D	5	32.50	9.57	1
3	38.85	8.16	C	6	34.56	26.69	B	6	47.56	13.69	3
2- 1	97.86	0.89	I	2- 1	39.22	20.04	I	7	74.22	11.61	2
2	32.64	21.16	E	2	37.22	4.11	F	8	77.92	10.05	1
3	92.98	2.89	F	3	60.71	22.09	I	9	22.90	20.72	2
4	25.85	16.44	H	4	42.54	26.69	I	10	79.91	9.91	2
5	72.75	12.49	A	5	59.75	24.46	I	11-1-1	64.03	11.03	I
6	97.27	1.92	K	6	27.55	22.41	ウ	2	81.31	10.42	ウ
7	91.88	5.61	O	6- 1	44.31	12.81	2	3	81.09	11.09	F
8	81.09	7.69	M	2	50.30	8.81	4	2-1	51.40	12.73	ウ
9	87.81	7.69	P	3	34.19	11.12	3	2	57.98	9.18	I
10	89.81	6.50	Q	4	11.96	5.60	4	12- 1	95.20	3.47	A
3- 1	77.92	7.54	C	5	90.77	4.73	1	2	79.17	10.65	C
2	88.40	10.05	B	7- A	61.23	15.23	2	3	62.56	22.38	A
3	89.07	9.60	D	B	28.06	17.48	7	4	92.47	4.21	B
4	64.99	13.09	C	C	86.04	10.64	3	5	91.43	4.22	A
5	40.69	21.23	A	D	58.35	-2.26	5	6	80.43	8.20	D
4- 1	90.47	6.50	D	E	62.11	19.81	6	7	54.51	21.43	D
2	58.71	17.75	B	8- 1	15.21	7.96	A	13- 1	85.23	5.32	C
3	80.28	12.27	C	2	45.05	20.78	D	2	97.34	1.92	B
4	38.85	22.92	C	3	78.14	13.82	A	3	92.17	5.47	D
5	82.35	7.61	B	4	60.56	8.59	C	4	32.20	7.73	A
				5	61.23	5.26	C	5	86.48	7.39	B
				6	69.13	13.75	B	14- 1	80.21	8.06	D
				9- 1	58.86	8.45	1	2	35.67	4.63	C
				2	58.42	10.73	3	3	15.66	1.83	B
				3- 1	33.31	24.03	3	4	68.46	12.94	C
				2	65.95	8.22	4	5	38.26	13.18	D

平成6年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅱ 上位群と中位群の設問正答率

問題	中位群	上位-中位	正答	問題	中位群	上位-中位	正答	問題	中位群	上位-中位	正答	
1-1	98.61	1.06	G	5-1	82.54	11.92	C	8-1-1	76.10	11.51	B	
2	91.27	2.94	C	2	60.93	16.25	B	2	60.44	10.95	C	
3	64.44	17.39	A	3	37.19	15.13	B	3	76.10	6.70	F	
4	91.68	6.45	N	4	48.53	15.61	A	2	92.01	1.63	C	
5	85.56	11.18	K	5	68.84	17.22	C	9-1-1	80.42	3.93	C	
6	67.05	23.01	O	6-1 A	59.14	28.55	8	2	94.29	0.82	A	
7	60.44	26.68	I	B	61.91	28.64	6	3	84.18	-0.48	B	
8	75.53	18.28	L	C	58.89	27.91	5	4	64.03	19.75	C	
9	87.19	10.37	R	D	56.12	26.85	1	5	32.30	5.92	D	
10	52.12	24.98	M	E	64.93	28.22	3	6	64.19	19.59	A	
2-1	95.27	1.63	D	2 A	79.28	16.81	7	7	29.12	0.71	C	
2	65.01	12.01	D	B	64.36	21.54	1	2	88.09	7.18	C	
3	78.87	6.62	C	C	89.40	9.05	8	3	86.54	4.01	D	
4	86.62	7.76	B	D	73.49	21.70	3	10-	1	80.10	6.62	F
5	56.36	14.71	A	E	63.46	21.63	6	2	41.19	23.03	C	
3-1	54.00	9.73	B	7-1	47.55	23.68	D	3	31.97	24.75	J	
2	68.27	6.87	B	2	23.41	14.73	D	4	50.90	25.22	A	
3	78.71	7.44	A	3	80.10	11.26	B	5	29.61	13.34	G	
4	39.72	12.36	D	4-1	83.44	7.92	C	11-	1	33.52	11.14	D
5	25.12	6.83	D	2	83.52	11.59	B	2	61.99	1.99	A	
6	51.63	3.95	C	3	86.46	7.10	A	3	77.81	4.83	D	
4-1	75.29	11.10	C	4	85.40	11.01	X	4	23.33	9.68	C	
2	97.31	1.79	A	5	61.42	20.32	X	12-	1	83.20	9.38	B
3	32.71	15.21	F	6	65.17	14.62	A	2	88.99	4.25	C	
4	61.34	12.58	D	7	40.38	24.41	D	3	91.92	5.06	D	
5	79.36	10.53	E					4	96.57	-0.07	C	

平成7年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅱ 上位群と中位群の設問正答率

問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答			
1-	1	84.99	11.96	C	4-	1	61.83	11.56	4	8-	1	28.41	36.93	B
	2	84.73	6.63	D		2	93.81	4.16	2		2	49.19	28.69	A
	3	76.59	16.88	A		3	83.63	9.51	4		3	65.65	10.45	D
	4	90.33	5.69	B		4	69.21	13.16	2		4	74.39	19.08	E
2-	1	80.75	8.49	2	5	29.26	15.40	4	5	52.84	26.57	C		
	2	97.63	0.51	3	6	73.20	16.21	1	6	55.05	15.20	F		
	3	54.79	13.85	3	7	10.60	6.35	4	7	70.48	21.21	H		
	4	28.50	9.72	3	8	90.42	7.80	6	9-	1	26.89	24.30	F	
	5	95.42	2.46	4	5- 1-1	93.55	4.50	3		2	56.32	16.73	J	
	6	86.34	8.66	3			97.71	0.68		7	3	21.29	12.86	B
	7	94.57	3.23	4		2	75.06	8.41		3	4	46.82	25.89	D
	8	56.32	9.78	3		3	73.11	13.08		3	5	17.56	9.47	I
	9	69.30	8.67	2		2	73.62	10.02	1	10- 1-1		57.76	14.27	3
	10	62.51	19.44	2		3	89.23	4.84	3			2	38.34	11.83
					4	68.36	13.93	4			3	43.77	9.96	2
3-	1	91.94	4.16	3	5	91.09	3.83	2	4		65.14	13.42	3	
	2	70.99	7.06	2	6	14.67	1.60	3	2 A		83.97	9.50	1	
	3	97.71	0.93	3	6-	1	35.45	14.47		A	B	71.67	12.06	4
	4	97.46	1.78	2		2	47.84	22.58	1	11- 1			41.48	0.81
	5	99.83	0.17	3	3	66.41	-1.49	K	2		48.77	15.38	1	
	6	94.83	3.39	4	7-	1	91.26	3.99	1		3	64.63	18.00	2
	7	96.52	2.29	4		2	78.12	14.00	3	4 A		41.14	16.06	1
	8	99.07	0.76	4		3	31.30	12.26	2		B	39.36	13.52	3
	9	99.58	0.25	3		4	59.29	8.17	4		C	48.09	24.03	2
5						78.63	11.45	4	D		53.27	0.29	6	

平成8年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅱ 上位群と中位群の設問正答率

問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答
1- 1	75.52	14.76	4	6- 1	41.99	21.97	6
2	84.41	9.05	1	2	68.57	19.36	5
3	72.00	16.77	3	3	38.22	21.46	1
4	89.19	9.22	4	4	74.52	16.18	2
5	72.51	19.95	2	7- 1	54.07	18.86	C
6	86.76	9.55	1	2	47.11	25.40	B
7	59.09	4.36	2	3	73.01	21.12	E
8	69.24	19.95	3	4	73.09	22.80	F
9	65.47	21.37	2	5	57.17	28.66	D
10	52.22	18.19	4	8-1- 1	29.17	11.82	A
2-1-1	65.13	5.70	D	2	61.53	10.64	B
2	59.93	18.95	H	3	48.03	6.20	C
3	30.26	26.74	E	2	38.98	16.43	C
4	18.36	10.98	A	3	58.26	10.39	C
5	73.93	14.00	I	4	65.30	13.24	C
2-1	67.64	13.42	D	5	60.77	9.89	B
2	71.25	20.12	A	6	31.68	14.09	B
3	66.47	16.68	B	7	21.88	5.45	D
4	35.88	16.76	C	8	33.86	14.76	B
5	45.01	17.35	A	9- 1	18.02	3.69	C
3- 1	89.19	3.01	3	2	8.97	5.62	A
2	42.41	19.12	1	3	47.86	21.54	D
3	93.96	1.93	2	4	88.94	8.21	C
4	82.48	6.46	4	5	30.51	10.56	A
5	82.98	9.81	3	9- 1	89.86	6.70	D
4- 1	44.93	12.40	3	2	40.91	9.72	4
2	44.43	13.32	2	3	29.17	9.30	2
3	82.48	7.71	1	4	73.93	6.96	3
4	85.08	8.88	4	5	85.75	3.52	3
5	49.29	16.93	4	6- 1	87.93	5.11	3
6	68.99	12.32	2	2	88.77	4.94	4
7	56.83	12.99	5	10-1- 1	89.69	5.70	2
5- 1	85.25	7.71	E	2	79.21	11.74	3
2	58.59	12.99	C	3	15.84	5.37	2
3	47.02	8.05	H	4	35.46	17.26	2
4	93.13	4.77	A	5	52.47	11.49	2
5	62.11	12.16	D	2	16.76	10.23	1
6	61.61	18.36	F	3	82.82	10.31	3

平成9年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅱ 上位群と中位群の設問正答率

問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答
1- 1	22.64	1.89	4	5- 1	96.46	0.86	4	9- 1	87.38	6.40	1
2	49.87	14.81	1	2	64.91	8.06	2	2	63.70	9.70	1
3	32.84	4.03	3	3	72.17	9.44	3	3	80.47	8.56	4
4	16.85	13.63	4	4	75.89	10.90	2	4	48.49	7.73	2
5	46.07	18.61	2	5	66.81	14.19	4	5	67.33	12.64	4
2- 1- 1	97.49	1.30	4	6- 1	92.74	3.81	A	6	28.78	11.72	3
2	71.31	14.79	3	2	94.99	2.85	C	7	63.18	10.31	4
3	97.32	2.16	3	3	80.29	11.25	D	8	65.69	9.18	1
4	87.90	8.30	3	4	93.00	3.80	C	9	36.04	4.63	3
5	92.39	3.72	2	5	54.28	13.34	D	10	25.58	2.05	2
6	83.66	10.04	2	6	58.34	20.68	C	10- 1	84.87	6.93	2
7	75.28	8.14	4	7	70.70	14.88	B	2	10.80	3.02	3
8	86.60	10.29	1	8	65.25	13.25	A	3	39.15	14.48	1
9	57.30	16.45	4	9	68.63	10.21	A	4	70.35	8.32	4
2	25.06	7.67	4	10	41.14	18.01	B	5	59.64	7.54	2
3	98.44	1.30	2	7- A	43.47	36.06	6	11- 1	47.62	12.22	2
	91.27	5.62	5	B	59.72	25.60	5	2	21.69	3.70	1
3- 1	66.29	8.24	5	C	29.73	38.32	1	3	79.08	8.74	3
2- 1	87.55	10.20	2	D	39.59	28.63	4	4- 1	55.32	14.80	1
2	73.90	15.22	1	E	51.94	31.13	3	2	48.92	15.16	4
3	86.17	11.93	5	F	37.42	31.58	7	3	43.65	6.44	4
4	69.06	20.49	3	8- 1	54.88	16.10	2	12- 1- 1	43.56	7.65	3
4- 1	91.70	1.91	4	2	30.94	18.02	4	2	43.82	1.09	4
2	68.02	19.63	5	3	85.31	10.20	1	3	89.63	6.48	3
3	83.32	8.13	4	4	65.95	11.86	3	2	77.79	8.48	5
4	91.36	4.58	1	5	44.08	10.32	2		57.65	19.98	2

平成10年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅱ 上位群と中位群の設問正答率

問題	中位群	上位-中位	正答	問題	中位群	上位-中位	正答
1-1	64.13	21.12	2	4-1	83.06	14.66	B
2	30.26	20.36	3	2	96.38	3.33	E
3	83.73	9.61	4	3	69.17	21.89	D
4	89.63	5.52	2	4	86.77	9.52	C
5	62.23	17.12	1	5	90.58	8.18	H
6	94.67	2.29	4	6	88.01	9.99	A
7	92.77	5.04	1	5-1	94.86	4.09	5
8	90.39	6.37	5	2	88.11	8.37	3
9	78.59	9.42	3	3	79.07	13.41	4
10	64.80	18.93	2	4	97.15	2.37	4
2-1	99.24	0.57	1	5	57.28	21.03	2
2	98.67	0.85	3	6-1	49.76	33.68	5
3	51.28	22.36	2	2	60.13	23.22	3
4	85.54	6.85	3	3	16.56	16.65	1
5	49.29	16.55	3	4	43.29	22.36	3
6	42.63	15.60	4	5	30.83	20.55	2
7	63.84	8.66	2	6	59.85	15.98	4
8	98.00	1.14	1	7-1	70.41	15.41	B
9	81.64	9.23	4	2	94.01	4.28	D
3-1	57.28	4.47	1	3	91.91	4.95	C
2	33.21	19.03	1	4	33.02	26.35	G
3	20.74	11.32	3	5	91.53	6.09	F
4	20.46	16.36	2	8-1	35.59	20.74	5
5	65.94	19.60	3	2	72.12	17.79	1
6	59.28	12.94	2	3	90.77	5.52	3
7	90.29	6.28	1	4	51.67	22.45	4
8	32.64	4.09	3	5	80.30	10.19	2
9	57.56	14.94	2	6	16.84	18.27	3
10	63.27	18.94	1	7	97.81	1.05	2
11	72.03	16.08	3	8	94.86	2.95	1
				9	91.53	6.28	4
10-1	44.72	15.79	2	9-1	86.68	6.75	1
2	84.59	8.08	2	2	64.89	5.90	4
3	92.48	5.81	3	3	81.16	11.70	4
4	77.16	11.80	1	4	90.96	7.14	2

平成11年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅱ 上位群と中位群の設問正答率

問題	中位群	上位-中位	正答	問題	中位群	上位-中位	正答
1-1	96.31	2.20	4	4-1	92.09	5.45	3
2	87.17	8.88	3	2	63.62	20.58	3
3	90.33	7.30	2	3	96.22	3.25	1
4	85.15	6.25	4	4	39.54	13.84	2
5	46.13	18.75	1	5	72.58	15.39	1
6	99.74	0.08	1	6	89.19	8.70	2
7	84.80	5.28	1	7	95.25	2.56	3
8	94.02	2.99	2	8	82.95	8.09	1
9	25.92	34.57	4	5-1	67.05	17.23	4
10	85.41	10.55	3	2	73.46	14.16	1
11	34.36	27.45	2	3	94.82	2.37	4
12	93.32	5.10	4	4	85.94	10.28	2
13	95.78	1.32	3	6-1	79.70	13.36	4
14	71.53	15.83	4	2	88.66	8.27	3
2-1	58.88	18.56	2	3	75.13	12.40	1
2	85.68	10.98	4	4	66.61	21.54	2
3	78.38	12.05	2	5	73.90	18.90	1
4	79.00	13.27	2	6	84.97	7.74	3
5	78.82	11.08	4	7	74.17	17.75	1
6	44.29	14.62	1	8	94.11	4.57	2
7	67.05	22.68	4	9	91.04	3.78	4
8	60.28	18.56	3	7-1	40.42	22.71	D
9	89.54	6.33	1	2	96.22	3.69	B
10	67.66	16.89	2	3	82.78	13.09	A
3-1	84.80	7.56	1	4	79.35	18.54	F
2	88.66	8.62	4	5	71.00	23.12	C
3	88.49	6.24	2	8-1	74.52	11.17	3
4	87.70	5.63	4	2	89.72	4.84	4
5	50.70	16.11	2	3	22.93	19.83	1
6	84.18	7.57	1	4	57.73	26.03	4
7	82.07	8.27	3	9-1	41.92	10.85	4
				2	46.66	18.57	3
				3	80.23	11.34	2
				4	34.71	25.78	1
				5	72.85	14.77	1

平成12年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅱ 上位群と中位群の設問正答率

問題	中位群	上位-中位	正答	問題	中位群	上位-中位	正答
1-1	96.49	2.14	3	4- 1	87.92	5.48	2
2	98.29	1.71	2	2	54.07	24.34	3
3	91.86	5.65	4	3	98.03	1.20	4
4	94.69	4.02	1	4	77.21	14.65	2
5	32.73	20.23	3	5	83.98	7.79	2
6	88.77	9.43	2	6	72.58	18.68	4
7	72.58	12.08	1	5- 1	67.87	14.73	B
8	15.17	11.14	4	2	86.12	7.02	A
9	89.72	7.28	3	3	51.33	16.36	G
10	81.75	7.02	1	4	16.28	18.68	F
11	94.77	2.83	3	5	22.28	18.94	E
12	20.48	19.02	3	6	69.15	22.54	4
2-1	92.89	4.80	2		64.78	20.14	7
2	22.45	-7.97	4	7- A	90.49	5.57	6
3	74.72	15.94	1	B	75.32	12.68	3
4	86.38	4.02	1	C	77.89	14.23	2
5	45.33	11.65	3	D	92.97	4.20	4
6	81.66	7.80	3	8-1-1	46.44	15.17	3
7	74.81	8.05	2	2	28.36	4.03	4
8	11.57	3.08	2	2-1	32.05	31.45	3
3-1	23.39	4.89	B	2	33.25	32.90	4
2	71.64	8.31	C	3-1	82.35	9.17	4
3	62.81	12.68	A	2	67.61	11.22	3
4	44.73	5.74	C	4-1	30.42	21.25	1
5	38.22	9.51	C	2	38.22	15.16	1
6	25.28	23.73	B	5-1	41.30	19.97	4
7	77.12	14.91	A	2	45.84	18.17	1
8	54.67	20.99	B	9- 1	66.75	18.68	2
9	61.10	21.68	A	2	96.40	2.06	3
10	67.78	9.17	C	3	73.44	9.08	4
11	31.45	19.36	A	4	74.46	7.29	4
12	70.52	19.71	B	5	64.87	19.28	1
				10-1-1	13.97	15.68	1
				2	48.67	25.54	2
				3	18.85	28.62	4
				2-1	24.34	29.90	1
				3	39.07	13.89	4

平成13年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅱ 上位群と中位群の設問正答率

問題	中位群	上位-中位	正答	問題	中位群	上位-中位	正答
1-1	33.36	27.15	2	5- A	25.02	23.71	3
2	93.29	3.81	3	B	78.51	10.89	2
3	23.03	22.35	1	C	56.48	19.52	3
4	38.35	20.35	4	D	14.51	7.59	2
5	51.95	23.14	1	E	32.37	22.97	1
6	91.30	4.26	2	6- 1	47.60	15.99	3
7	94.29	2.27	3	2	77.70	12.70	3
8	90.30	4.63	1	3	76.07	13.69	4
9	98.37	0.91	1	4	65.19	20.23	1
10	65.64	19.05	2	5	79.15	7.53	3
11	98.73	0.82	4	6	85.77	9.79	2
2-1	78.79	12.06	1	7	26.65	10.85	2
2	75.79	9.45	4	8	65.19	2.11	1
3	72.44	15.69	4	9	86.85	9.53	3
4	57.66	22.14	4	10	41.25	2.14	2
5	69.45	17.69	3	7- 1	92.75	1.45	a
6	93.11	5.08	1		60.02	23.59	b
7	76.43	11.07	3		31.55	25.42	h
8	64.37	15.07	4	2- 4	70.44	15.16	5
9	96.46	2.27	2	5	80.05	7.09	6
10	43.61	13.82	1	3	72.17	18.77	3
11	98.37	1.27	2	4	72.53	17.78	1
12	55.49	26.58	4	5	70.08	20.05	4
3-1	93.56	3.99	2	6-11	24.39	7.77	2
2	62.65	11.26	2	12	7.25	8.24	5
3	33.36	7.58	3	7-13	51.41	18.43	9
4	63.37	15.16	4	14	48.05	17.17	6
5	76.43	12.61	3	8	64.55	20.96	2
6	86.58	5.27	2	8- 1	48.05	24.78	2
7	68.27	14.07	4	2	87.94	5.36	3
8	97.19	2.27	1	3	16.32	1.43	1
9	85.95	3.72	2	4	53.49	29.12	3
4-1	70.35	4.56	4	5	77.97	13.24	2
2	84.68	8.44	5	9- 1	65.46	14.16	1
3	90.30	7.80	3	2	85.77	8.43	4
4	79.24	13.06	2	3	85.86	8.43	3
				4	73.71	16.05	3
				5	53.94	21.15	1

平成14年度 日本語教育能力検定試験
筆記試験Ⅱ 上位群と中位群の設問正答率

問 題	中位群	上位-中位	正答	問 題	中位群	上位-中位	正答
1- 1	95.84	1.39	3	5- 1-1	80.91	15.01	4
2	83.69	5.62	2	2	80.18	16.64	1
3	73.08	8.16	3	3	58.40	30.43	3
4	73.98	6.69	2	4	59.46	18.35	3
5	95.76	2.36	4	5	48.86	10.85	4
6	83.69	4.40	4	6	72.92	8.81	1
7	57.34	12.48	2	7	11.42	17.45	2
8	86.95	5.06	3	8	52.85	30.51	4
9	60.03	12.16	1	2	32.87	33.28	1
10	19.66	15.66	3	6- 1	63.05	14.52	3
11	59.22	11.33	1	2	62.40	15.25	2
2-1-1	94.62	3.42	7	3	88.58	7.42	4
2	93.39	4.33	2	4	88.91	6.20	1
3	93.64	3.42	5	5	49.10	28.06	3
2-1	95.92	1.71	5	6	79.77	12.40	1
2	39.15	29.45	2	7	88.58	8.08	4
3	17.70	24.80	7	8	98.61	1.15	3
3- 1	97.15	2.12	2	7- 1	71.78	15.17	3
2	68.03	14.60	1	2	22.02	3.10	3
3	91.92	4.98	2	3	31.40	32.47	1
4	64.52	13.46	2	4	92.99	2.61	2
5	55.14	15.82	3	5	43.72	11.34	3
4- 1	50.65	3.59	3	8- 1	86.62	7.59	4
2	84.58	8.73	2	2	96.57	2.61	1
3	65.33	17.62	1	3	76.92	9.87	1
4	67.94	11.10	3	4	57.50	28.80	2
5	95.19	1.87	2	9- 1	83.20	10.44	2
6	72.02	8.98	1	2	96.25	2.04	2
7	28.96	0.40	4	3	91.92	5.63	4
8	48.86	3.51	2	4-1	77.41	8.64	4
9	86.87	5.79	1	2	76.92	9.21	1
10	89.23	5.39	4	3	83.93	6.93	4

平成4年度 日本語教育能力検定試験
聴解試験 上位群と中位群の設問正答率

問題	中位群	上位-中位	正答	問題	中位群	上位-中位	正答
1-1	64.60	21.42	A	3-1	43.53	21.72	B
	79.19	11.21	E	2	35.19	25.53	A
2	76.97	2.41	B	3	67.01	21.72	B
	59.90	21.42	D	4	28.82	19.02	A
3	57.87	19.32	A	5	29.85	14.55	C
	92.83	2.20	B	6	62.62	23.70	D
4	67.57	20.90	D	7	54.57	19.24	A
	71.25	9.48	E	8	15.58	12.00	B
5	41.37	9.05	C	9	66.06	16.02	A
	88.89	7.74	E	10	48.28	17.41	B
2-1	79.96	14.26	B	11	35.04	20.04	C
2	71.54	19.32	D	12	49.82	25.38	D
3	42.72	33.43	B	4-1	38.11	19.10	D
4	65.03	23.19	C	2	49.09	12.87	D
5	68.18	22.53	D	3	50.33	14.85	A
				4	48.28	21.00	B
5-1	61.30	10.24	B	5	41.33	27.07	A
2	79.37	12.00	B	6	39.80	16.31	C
3	74.18	11.12	C	7	40.75	30.43	B
4	80.91	7.90	C	8	29.63	6.21	C
5	93.49	1.68	B				

平成5年度 日本語教育能力検定試験
聴解試験 上位群と中位群の設問正答率

問題	中位群	上位-中位	正答	問題	中位群	上位-中位	正答
1-1	81.03	7.53	C	3-1-1	69.59	25.69	B
	42.73	14.98	D	2	45.98	39.92	C
2	86.72	11.14	A	3	62.21	28.34	A
	83.39	12.03	B	4	32.77	29.67	A
3	67.75	22.51	A	5	41.25	29.60	B
	77.20	11.51	D	6	42.51	23.62	C
4	69.08	18.37	B	2-1	83.76	12.62	D
	64.94	5.61	E	2	45.90	27.83	B
5	72.84	17.57	B	3	32.55	32.91	D
	78.45	11.81	D	4	44.13	18.90	C
2-1	74.32	18.00	A	5	9.45	14.31	B
2	85.54	10.33	D	6	87.31	4.13	A
3	58.45	28.49	D	4-1	48.56	18.16	D
4	47.23	27.53	B	2	41.25	29.75	B
5	31.29	11.88	A	3	33.58	5.83	A
				4	41.70	23.98	C
5-1	85.24	6.49	C	5	24.94	3.55	B
2	85.76	7.67	D	6	14.83	4.95	D
3	76.61	7.60	A	7	78.60	9.59	A
4	82.21	9.30	B	8	58.89	15.21	C
5	95.65	2.95	D				

平成6年度 日本語教育能力検定試験
聴解試験 上位群と中位群の設問正答率

問題	中位群	上位-中位	正答	問題	中位群	上位-中位	正答
1-1	60.47	17.93	A	3-1-1	79.87	17.44	B
	78.57	13.69	D	2	39.69	18.99	A
2	88.67	8.40	A	3	38.55	19.48	D
	83.37	11.82	B	4	42.30	38.06	D
3	57.46	0.24	B	5	82.23	14.75	A
	49.96	9.05	C	6	49.88	40.42	D
4	88.02	9.21	B	2-1	71.48	16.38	D
	78.00	12.46	E	2	56.64	32.44	A
5	91.04	3.34	C	3	51.26	23.56	C
	65.53	23.63	D	4	50.77	12.31	C
2-1	65.93	18.26	A	5	23.55	33.74	D
2	82.48	12.71	B	6	31.95	15.48	B
3	60.31	15.73	C	4-1	67.48	12.63	C
4	76.04	17.03	B	2	51.10	29.42	B
5	68.30	21.59	D	3	42.38	28.28	A
				4	28.69	41.97	D
5-1	41.65	20.62	A	5	39.69	36.19	D
2	78.65	7.74	D	6	12.47	20.05	C
3	90.79	4.40	C	7	26.16	1.88	B
4	66.83	10.76	A	8	43.36	15.24	A
5	95.93	3.26	A				

平成7年度 日本語教育能力検定試験
聴解試験 上位群と中位群の設問正答率

問題	中位群	上位-中位	正答	問題	中位群	上位-中位	正答
1-1	59.29	25.63	A	3-1-1	71.67	23.50	B
	68.45	14.94	C	2	38.08	43.02	D
2	90.33	8.06	B	3	49.87	32.93	C
	83.55	6.11	D	4	63.02	21.05	B
3	59.20	17.49	B	5	51.06	32.16	C
	95.93	0.93	C	2-1	15.52	18.04	B
4	36.64	18.95	C	2	64.97	18.84	D
	87.96	5.18	D	3	50.81	17.24	B
5	76.08	14.34	A	4	27.23	43.53	D
	72.69	15.53	D	5	33.25	14.12	C
2-1	84.99	11.79	A	4-1	25.61	36.85	D
2	55.81	14.78	C	2	28.75	13.11	B
3	59.20	22.33	B	3	50.72	22.33	B
4	56.06	28.26	D	4	29.86	18.61	A
5	63.27	25.97	A	5	58.95	30.88	D
				6	19.08	4.90	D
5-1	85.84	7.55	C	7	35.71	9.80	C
2	42.24	4.88	D				
3	25.87	9.98	C				
4	84.05	5.53	A				
5	32.65	10.82	B				

平成8年度 日本語教育能力検定試験
聴解試験 上位群と中位群の設問正答率

問題	中位群	上位-中位	正答	問題	中位群	上位-中位	正答
1-1	90.95	4.61	D	3-1-1	77.54	18.77	C
	80.97	9.40	C	2	67.48	25.32	A
2	95.56	2.93	B	3	51.30	29.10	B
	87.43	8.30	A	4	60.35	29.77	C
3	94.22	3.35	D	5	86.76	11.48	B
	93.88	3.52	B	6	38.73	32.63	D
4	89.35	7.05	C	2-1	64.96	7.99	D
	81.06	7.38	A	2	32.44	12.45	B
5	93.88	3.27	C	3	52.14	27.01	A
	69.15	14.52	B	4	28.25	35.23	C
2-1	70.83	17.36	C	5	55.57	24.66	B
2	33.86	18.32	B	6	36.80	22.66	B
3	65.63	23.40	D	4-1	58.68	36.71	D
4	39.65	16.38	B	2	70.08	24.06	B
5	45.77	20.31	A	3	61.44	18.46	C
				4	42.50	27.10	A
5-1	33.95	26.02	B	5	61.69	29.77	B
2	29.51	5.41	A	6	66.72	27.00	D
3	88.52	5.53	D	7	44.51	32.96	A
4	84.07	4.04	C	8	30.34	9.94	B
5	81.73	7.63	A				

平成9年度 日本語教育能力検定試験
聴解試験 上位群と中位群の設問正答率

問題	中位群	上位-中位	正答	問題	中位群	上位-中位	正答
1-1	96.29	3.80	A	3-1-1	81.26	15.20	A
	92.31	4.67	B	2	69.95	24.27	B
2	96.29	2.93	C	3	41.28	27.23	D
	89.46	5.88	D	4	62.35	31.44	B
3	98.96	0.95	D	5	72.63	23.06	A
	83.77	12.61	B	6	38.95	18.86	D
4	96.72	2.16	C	2-1	55.35	30.67	A
	72.54	12.45	A	2	27.63	32.08	C
5	94.30	3.63	C	3	40.93	23.95	B
	54.75	17.73	B	4	71.33	6.32	C
2-1	66.23	21.35	C	5	88.26	6.91	C
2	64.25	18.67	B	6	23.06	30.78	A
3	63.56	23.50	D	4-1	43.09	40.00	C
4	63.82	22.55	C	2	67.62	28.50	D
5	83.77	11.83	A	3	70.90	20.90	B
				4	48.53	29.81	D
5-1	90.67	5.88	D	5	63.73	29.02	B
2	86.10	5.27	B	6	32.56	14.46	B
3	88.26	7.25	A	7	34.80	21.11	C
4	66.06	11.94	D	8	34.54	8.95	A
5	51.47	13.84	C				

平成10年度 日本語教育能力検定試験
聴解試験 上位群と中位群の設問正答率

問題	中位群	上位-中位	正答	問題	中位群	上位-中位	正答	
1-1	91.15	7.14	C	3-1-1	81.07	14.84	C	
	86.01	12.18	A		2	37.58	34.26	B
2	95.81	2.00	D		3	80.78	13.89	A
	52.90	-6.94	B		4	37.11	36.91	D
3	79.26	7.23	A		5	73.74	21.03	B
	72.50	17.22	B		6	54.80	26.27	C
4	75.83	9.71	C	2-1	39.68	13.32	C	
	58.14	8.27	D		2	29.40	22.55	B
5	87.73	6.47	C		3	83.63	10.47	D
	45.10	4.57	B		4	51.76	19.03	A
2-1	72.31	19.03	B		5	43.86	36.92	C
	2	69.74	20.75		D	6	55.19	7.61
3	49.29	28.26	A	4-	1	60.42	29.49	C
4	61.85	24.45	C		2	75.26	15.42	B
5	51.09	31.12	B		3	64.41	30.45	D
					4	22.26	7.62	D
5-1	12.37	5.42	C		5	60.70	21.13	A
2	57.37	6.57	B		6	41.01	13.22	A
3	59.66	15.32	C		7	69.27	26.45	B
4	20.27	9.32	D		8	36.54	16.84	C
5	45.00	10.95	A					

平成11年度 日本語教育能力検定試験
聴解試験 上位群と中位群の設問正答率

問題	中位群	上位-中位	正答	問題	中位群	上位-中位	正答	
1-1	88.32	7.56	D	3-1-1	47.67	33.73	C	
	83.85	11.33	A		2	54.70	34.60	A
2	84.28	4.67	E	3	34.15	17.96	B	
	66.64	16.43	D	4	26.60	26.12	B	
3	90.52	5.44	C	5	42.49	38.65	C	
	82.00	11.25	A	6	47.23	24.35	D	
4	74.71	12.31	F	2-1	32.40	31.81	A	
	69.45	15.29	C		2	80.68	14.58	B
5	95.52	2.20	E	3	33.80	26.29	B	
	56.98	12.58	B	4	54.61	24.78	D	
2-1	80.07	15.72	C	5	52.41	2.06	D	
	2	64.09	23.37	D	6	8.08	17.62	C
3	40.56	34.97	B	4-	1	39.95	32.68	A
4	47.41	29.87	C		2	44.34	31.45	B
5	47.50	31.62	A	3	68.83	27.13	D	
				4	71.91	20.46	C	
5-1	86.39	8.08	B	5	51.80	35.48	A	
	2	80.51	8.88	A	6	20.37	12.44	C
3	75.15	15.29	B	7	45.22	19.52	B	
4	94.73	2.73	C	8	65.06	18.36	D	
5	74.89	5.02	D					

平成12年度 日本語教育能力検定試験
聴解試験 上位群と中位群の設問正答率

問題	中位群	上位-中位	正答	問題	中位群	上位-中位	正答
1-1	92.47	3.68	C	3-1-1	38.78	33.76	D
	82.19	4.98	A	2	65.67	19.45	C
2	73.97	16.19	F	3	59.25	33.05	A
	26.03	5.71	E	4	83.48	14.21	B
3	76.54	12.85	C	5	58.65	30.83	A
	34.76	3.05	B	6	63.78	27.15	D
4	58.73	7.91	D	2-1	64.13	30.57	B
	41.52	19.99	A	2	53.51	28.61	C
5	63.27	13.29	F	3	89.64	8.82	A
	36.90	16.99	B	4	88.70	7.28	D
2-1	75.00	17.90	D	5	55.99	29.04	A
2	69.09	23.38	A	6	33.90	47.11	C
3	53.00	27.33	D	4-1	37.24	31.79	B
4	77.31	18.50	C	2	73.20	16.71	C
5	72.77	17.14	B	3	51.37	34.00	C
				4	49.91	36.23	A
5-1	26.63	20.16	A	5	56.34	25.44	D
2	26.63	10.67	A	6	24.23	30.18	A
3	67.38	12.86	B	7	69.86	22.78	B
4	95.98	2.05	D	8	55.14	20.74	D
5	61.39	15.43	B				

平成13年度 日本語教育能力検定試験
聴解試験 上位群と中位群の設問正答率

問題	中位群	上位-中位	正答	問題	中位群	上位-中位	正答
1-1	91.94	5.89	c	3-1-1	67.03	5.71	c
	63.68	15.31	a	2	76.81	18.66	a
2	44.93	19.38	a	3	70.74	24.91	d
	32.52	24.55	e	4	77.08	15.67	b
3	92.84	2.99	d	5	71.11	18.75	d
	59.15	21.01	b	6	67.30	22.74	d
4	75.72	12.41	d	2-1	77.63	12.77	c
	36.05	10.78	f	2	36.59	44.84	c
5	89.49	5.62	c	3	60.42	13.67	a
	83.51	6.44	f	4	86.87	9.14	d
2-1	58.24	22.65	c	5	47.74	26.72	a
2	43.12	36.14	d	6	37.50	26.45	a
3	71.47	23.28	a	4-1	60.51	26.54	b
4	69.47	25.37	b	2	66.49	17.39	c
5	42.21	35.87	a	3	74.18	21.83	b
				4	49.00	26.54	d
5-1	75.09	15.22	b	5	26.90	2.81	c
2	19.57	24.09	c	6	47.83	25.18	c
3	77.36	8.60	c	7	81.34	15.49	b
4	83.70	9.23	a	8	67.39	13.59	b
5	79.08	12.22	d				

平成14年度 日本語教育能力検定試験
聴解試験 上位群と中位群の設問正答率

設問	中位群	上位-中位	正答	設問	中位群	上位-中位	正答
1-1	96.41	2.86	C	3-1-1	70.01	23.88	A
	38.79	29.83	B	2	63.57	28.28	D
2	67.81	11.82	A	3	81.17	17.36	B
	55.99	23.96	E	4	61.04	30.48	B
3	96.01	1.87	C	5	54.03	33.83	A
	48.90	12.31	D	2-1	91.04	7.33	D
4	96.17	2.61	F	2	77.18	16.22	C
	48.00	23.96	A	3	86.63	11.50	C
5	92.01	5.22	D	4	70.01	16.87	D
	40.02	24.61	B	5	40.99	25.92	B
2-1	67.48	22.58	C	6	98.13	1.38	A
2	67.32	23.88	D	4- 1	51.51	32.84	D
3	65.69	13.12	A	2	62.84	19.07	C
4	74.25	20.05	C	3	69.11	23.88	C
5	81.26	13.20	B	4	70.50	25.51	B
				5	61.29	26.65	A
				6	21.35	0.98	B
				7	26.16	14.43	D
				8	36.02	12.23	A
				5- 1	51.75	19.56	B
				2	10.51	13.45	C
				3	50.12	16.14	A
				4	28.52	-0.97	D
				5	94.46	3.10	D

平成15年度 文化庁日本語教育研究委嘱

日本語教員の能力水準の経年変化に関する実証的調査研究

発行 平成16年(2004年)3月31日
発行者 財団法人 日本国際教育協会
〒153-8503 東京都目黒区駒場 4-5-29
TEL: 03-5454-5215 FAX: 03-5454-5235
印刷 (株)ナカヤマ印刷